

文部科学省

平成 21 年度教育研修活動補助事業

「学生用キャリア教育教材の開発に関する調査研究」 報告書

平成 22 年 3 月

財団法人専修学校教育振興会

はじめに

－ 自らのキャリアの設計・選択・決定を主体的にできる学生を育てる －

財団法人専修学校教育振興会では、平成 15 年度に専修学校における「キャリア・サポート」＜定義：学生が自分自身のキャリア（仕事人生）を主体的に設計・選択・決定できるように支援すること＞の推進を目的に、教職員が有すべきマインドやスキルを養成する C S M 講座（キャリア・サポーター養成講座）プログラムを開発し、平成 16 年度より講座を実施しております。

C S M 講座は全国で開催されており、現在までにこの講座を受講いただいた 120 余校の先生方からお喜びの声を頂く一方、多くの方から「せっかく学んだキャリア・サポートの考え方を学校教育の場でより一層有効に実践・活用するため、学生用の教材を開発して欲しい」という声を数多く頂戴いたしました。

そこで専修学校教育振興会では、平成 21 年度に文部科学省の補助を受け、実際に教壇に立つ専修学校の教員を中心とする研究開発委員会を立ち上げ、教材の開発を目的とする調査研究を実施いたしました。

本書は、その調査研究の経緯と実際に開発した学生用教材および教員用ガイドの一部を報告書としてまとめたものです。

教材の研究開発に当たっては、当初より「実際の教育現場で利用しやすく、学生が納得してやり通す意思・意欲、モチベーションを自らコントロールできる力を身につけることのできる教材開発」が目的とされ、その結果、個人学習では身につけることの難しい能力を、チームの力を借りることで身につけることができる教材となるよう、様々な工夫が行われました。

調査研究の過程においては関係者の方からご意見を頂くとともに、数多くの専門学校でモデル版を使用した授業を実施していただき、学生および教員の方々からの貴重なご意見を頂戴いたしました。

末筆ではございますが、本調査研究にご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

各校の皆様におかれましては、本調査研究結果をキャリア教育推進のためにお役立て頂ければ幸いです。

平成 22 年 3 月

財団法人 専修学校教育振興会
キャリア・サポート教材開発研究委員会

もくじ

はじめに

もくじ

I 調査・研究の概要

1. 教材開発の趣旨	1
2. 委員名簿	1
3. 事業の経過	1
4. 教材の全体構成	3
【参考】委員会審議結果の概要	4

II 教材《モデル版》実施概要及び試用アンケート結果

1. 実施概要	23
2. 試用アンケート結果	23
【参考】A. 試用アンケート用紙（教員用）	26
B. 試用アンケート用紙（学生用）	27
C. アンケート結果集計表	29

III 学生用教材（報告書掲載版）

■はじめに 本教材のねらい	49
■楽しくワークをするために ♪	51
■第1章 チーム学習を進めるためのヒント	52
■第2章 自己理解	56
* 1 節：過去を振り返ろう！	
* 2 節：自分を知る手がかり	
* 3 節：私の大切なもの探し	
* 4 節：私ってどんな人？	
* 5 節：なぜ働くの？	
■第3章 仕事理解	74
* 1 節：地図を作ってみよう！	
* 2 節：ケーススタディで学ぶ実際の仕事	
* 3 節：インタビューしてみよう！	
■第4章 仕事選択～未来へ向けて	84
* 1 節：模擬店を出そう！	
* 2 節：未来カード	
* 3 節：背中にエール	

IV 教員用ガイド＜抜粋＞（報告書掲載版） 125

I 調査・研究の概要

1. 教材開発の趣旨

キャリア・サポートのための学生向け教材開発に際しては、主として次の4つの観点から調査・研究に着手することとなった。

- (1) 平成16年度～平成20年度までに専教振CSM講座(通算13回開催)を修了したキャリア・サポーター(244名)からの“CSM講座受講後、学生向けに使用できる教材があったら良い”という声に応えたい。

結果として、「日常的なキャリア・サポート実践の促進」及び「専修学校におけるキャリア教育の推進」へ展開したい。

- (2) “学生が自らのキャリアについて考える”ための一助となるテキストを提供したい。「主役は学生、教職員は側面支援」というCSM講座の理念をテキストにも生かしたい。

- (3) キャリア・サポーター自らの手で執筆・編集する“手作り感”のある教材を目指したい。
そのために、「専修学校教職員による専修学校生のための教材」であることに価値を置き、独自の「教員用ガイド」を充実したい。

- (4) 「CSM講座参加→学生向け教材使用」「学生向け教材使用→CSM講座参加」双方向の普及を促進したい。

2. 委員名簿

平成20年度の第2回キャリア・サポーター研究啓発・交流会開催案内と合わせて「教材ワーキング参加メンバー」の立候補を募集。CSM研修運営委員会で以下の6名の執筆委員を選任(敬称略、五十音順)。

<執筆委員(キャリア・サポーター)>

東京都	浅輪 玲子	社会福祉法人府中えりじあ福祉会 地域生活支援センタープラザ 非常勤職員
山口県	岡村 慎一(委員長)	専門学校YICグループ学院本部 山口本部長
長野県	上浦 環	長野県公衆衛生専門学校 准教授
東京都	神山 恵美子	コア学園グループ・学校法人帯広コア学園 理事長
福岡県	財津 香壽子(副委員長)	ILPお茶の水医療福祉専門学校 副校長
兵庫県	西田 君美雄	office W-Planning 代表

<アドバイザー(CSM研修運営委員)>

東京都	小林 智明	株式会社JMAM チェンジコンサルティング キャリア開発支援事業本部長
-----	-------	--

3. 事業の経過

(1) 委員会開催

以下のとおり、全11回の委員会を開催。「教材の全体コンセプト」の検討に多くの時間を要した。並行して、役割分担をし、著作権の問題等を考慮して、“オリジナルワーク”を作成。なお、委員会での討議内容は4頁～22頁に記載。

<委員会開催日程・議題>

【第1回】平成21年4月20日

○事業の趣旨について

○平成 21 年度事業の進め方について（指針、スケジュール等）

【第 2 回】平成 21 年 5 月 7 日

○教材開発の指針（コンセプト、ストーリー、構成素材等）

○今後の進め方について（作業手順、役割分担、スケジュール等）

【第 3 回】平成 21 年 6 月 22 日

○各ステップのワークシートについて

○教材の全体コンセプト等について

○今後のスケジュールについて

【第 4 回】平成 21 年 7 月 23 日

○協力校へ提示する《モデル版》について

○《全体版》各章の内容について

○《全体版》の全体像について

【第 5 回】平成 21 年 9 月 3 日

○教材の全体構成について

【第 6 回】平成 21 年 10 月 22 日

○《全体版》教材の取りまとめについて

○《モデル版》教材のアンケート回答について

○研究啓発・交流会（12 月 18 日）への対応について

【第 7 回】平成 21 年 11 月 24 日

○《全体版》教材の取りまとめについて

○研究啓発・交流会（12 月 18 日）への対応について

○教材題名及び副題案の検討

【第 8 回】平成 21 年 12 月 17 日

○《全体版》教材の取りまとめ

○研究啓発・交流会（12 月 18 日）への対応

【第 9 回】平成 22 年 2 月 1 日

○学生用教材について

○教員用ガイドについて

○「キャリア・サポート教材開発研究委員会」の今後の存続について

【第 10 回】平成 22 年 2 月 15 日

○「学生用教材」及び「教員用ガイド」の取りまとめについて

【第 11 回】平成 22 年 3 月 2 日

○本年度事業の総括

(2) 教材《モデル版》試用によるアンケート調査

8 月下旬～10 月上旬にかけて「モデル版」として 4 種類のワークをキャリア・サポーター校へ提案。計 15 校・教員 27 名・学生 314 名が試用。

(3) キャリア・サポーターへの経過報告

12 月 18 日「キャリア・サポーター対象第 3 回研究啓発・交流会」にて事業の中間報告及びワークの一部実習を導入。

4. 教材の全体構成

(1) タイトル

チーム学習型キャリア教育ワークブック

「やる気の根っこ」

(2) 目標

“チーム学習”を活用した“気づき”による“行動変容”

(3) 学習の基本的な流れ

「①ワークシートを使ったセルフワーク(自分自身で考えを深める作業)」

↓

「②ワークシートを使ったチーム学習(互いに気づき、学び合う)」

↓

「③リフレクション(振り返って、学びの整理と次への課題確認)」

(4) 章立て

90分を1コマとして、全15週の授業(毎週連続でなくとも構わない)で実施。

■第1章 チーム学習を進めるためのヒント<1コマ>

…効果的な話し合いをするためのコミュニケーション手法を体験する。

■第2章 自己理解<6コマ>

…学生がこれまでの人生を振り返り、自分の物の考え方や性格・価値観・能力・強み・弱みなどについて「セルフワーク」と「チーム学習」を通じて自己理解を深め、そこから「自分が何のために働くのか」の気付きへつなげる。

■第3章 仕事理解<3コマ>

…自己理解を踏まえて、「実際に働くこととは?」を聞いたり、調べたりしながら、互いに知識の共有をはかり、「仕事や就職」について現実味を持って体感する。働く人からも声を聴き、自分が職業に就くということをイメージしていく。

■第4章 仕事選択～未来へ向けて<4～5コマ>

…本教材の最終章として、自己理解と仕事理解を融合して思考するために、「模擬店を出そう」というワークを複数回で行う。多様な役割に対する自らの志向性を認識し、その上で自らのキャリアプランを考え、共に学び合う仲間からエールをもらって締めくくる。

(5) 体裁

学生用教材は、「ワークシート」形式で、リングファイルに綴って、学生が在学中・卒業後も必要なときに自分の思いを振り返ることができるよう配慮。

(6) 教員用ガイド

教員用ガイドは、学生用教材購入校用のダウンロードサイトを開設。教材使用教員のためのWeb上のサークルを設けて、意見交換による改善・発展を企図。

【参考】委員会審議結果の概要

【第1回 委員会】

日 時：平成21年4月20日（月）14：00～17：00

場 所：専修事務局長会議室

出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、
（敬称略）ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：菊田、岡田、稲本

議 題：1. 事業提案の経緯説明
2. 平成21年度事業の進め方について（指針、スケジュール等）
3. その他

初めに小野紘昭CSM研修運営委員長があいさつを述べた後、委員全員が自己紹介を行い、議事に入った。

平成21年度事業の進め方について（教材開発の指針）

事務局より事業計画の概略（委員構成、予算、日程等）を説明した後、全体で討議を行った。平成21年度事業の方針について意見交換を行い、次回5月7日（木）の第2回委員会にて意見集約を図り、執筆分担等を検討することとなった。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

- 教材は、自己理解の促進につながるツールとしての位置づけとしたい。自己理解に基づき、“働く意味”を学生自身が気付き、考えを深めてもらえるようにしたい。
- コミュニケーションスキルについて取り上げる場合も、“自己理解のためのコミュニケーションスキル”という視点が必要。
- “組織のなかで働くとはどういうことか？”、“組織のなかでの自分”について言及すべき。
- 学生の傾向として“組織で共に働く”ことに対する意識が欠落しているのは、キャリア教育の一課題であると感じる。
- “仕事を通じて成長していく辛抱”が必要であること、生涯にわたり働き続けることを考える手段にしたい。
- ジョブ・カードとの関連性を盛り込むことはできないだろうか。
- 専修学校の教育分野にかかわらず活用してもらえる内容とすることが重要。
- 働くことの意味やコミュニケーション等、教員にとっては当然のことが、学生の意識にはまだ芽生えていない。専門学校に通う二年間は、大人からすれば不必要と思われることを、社会に出る前に最後に提供できる貴重なチャンスである。
- 先生と学生が仕事人生について一緒に考えるきっかけとなるようなツールにしたい。
- 先生と学生が同じ言葉でキャリアについて語り合える素地を作るためのツールが必要。
- 専門学校には様々な年齢層の学生が通っているが、そのなかでターゲットをどこに定めるか？
- 教材の「冊数・ボリューム」、「使用期間」、「スタートとゴール」のイメージについても議論が必要。
- 使用期間については、「就職活動を意識させたいと思ったとき」にいつでも、どのページからでも

使い始められるものが良いだろう。

- 教材は、就職活動の時期から使い始めるよりも、むしろ入学してすぐにキャリアについて意識させるために使えたほうが良いだろう。
- 教員側の指導経験の多寡によっては、「教材のなかのどの部分を、どう使用するか」取捨選択・アレンジする余裕がないことも想定される。「〇〇分間の授業で、こうやって使ってください」というモデルケースを、例えば10分単位の進行で示せると良い。
- 教材については教員自身がまず体験して、気付くというステップが必要。そのことを教員用マニュアルに明記すべき。
- “企業が何を求めているか？（技術＜人間力・共働力）”の現実を学生に示すべきではないか。
- 教材の目的範囲は、“自分探し”までか？それとも、“人間力を磨く”ところまで含めるのか？
- 教材の構成はほぼオーソドックスなところになるだろう。むしろ、この教材を“どう活用・運用するか？”についての議論が必要。サポートする教員側の力量が課題である。
- 教員用マニュアルは、学生指導の経験が浅い教員に照準を合わせたほうが良いだろう。
- 各委員の経験をもとに、グループワークの推薦素材を集め、全員で吟味すれば良いのではないか。
- 教材に盛り込むツールについて、目的や狙いを明確にし、「年間カリキュラム上の位置付け」や「対象人数」も示せると良い。学校規模等に応じてワークが選択できると良いのではないか。
- 「自分自身を知る手段は相手だった」という気付きが得られれば、グループワークを体験している時間自体が財産になると言える。
- グループワーク実施後の振り返りシートを、また時間が経ってから、進路に悩んだ時などに読み返してみるものの効果も大きい。
- 仕事に関する興味や適性は学生には一朝一夕に分かるものではない。むしろ、働くことの苦労やそれを乗り越えるための考え方を持たせたほうが良い。
- キャリア教育に取り組むに際しては、一から新しく始めるのではなく、現状ある資源（教科やカリキュラム）を用いて、その上にいかに再構築できるか、という視点で着手したほうが良い。

以上の意見を踏まえ、最後に岡村座長が「今後の進め方」について次のとおり取りまとめた。

- ◎教材のコンセプトを明確にする。
- ◎教材として落とし込む流れは、一般的な教材とほぼ共通すると思われるが、各委員の経験上、価値があると思うワークを「手段」として加えて、気付きを得るための一本の「ストーリー」を作り、その上で、次回委員会で執筆の役割分担を決める。
- ◎学生の自己理解のために、教員がファシリテートできる教材を作る。
- ◎学生指導に不安を感じている教員にも活用してもらえるよう工夫する。教材をより効果的に使用するために「CSM講座に参加してみよう」と教員自身が必要性を感じられる教材を作る。

【第2回 委員会】

日 時：平成21年5月7日（木）13：30～16：30

場 所：専教振事務局会議室

出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、
（敬称略）ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

- 議題：１．教材開発の指針（コンセプト、ストーリー、構成素材等）
２．今後の進め方について（作業手順、役割分担、スケジュール等）
３．その他

配布資料の確認後、早速議事に入った。

教材開発の指針について

前回委員会の議論に引き続き、全体で討議を行った。平成２１年度事業の指針について意見集約を図り、執筆分担の上、具体的な作業に入ることとなった。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

- テキストを使った学生が、テキストの中身だけで自己完結するのではなく、テキストを題材にグループワークにつなげて活用できる物にしたい。
- テキストを構成するツールは多種あるだろうが、学生達が互いに意見のシェアリングができるように工夫された、グループワークのためのシートをこのテキストの特色としたい。
- ワークを中心とした構成にし、テキストには調べ方を示せば、答えまでは書かなくて良いだろう。情報の得方も体験する価値があると思う。
- 専修学校のなかに「ティーチング」以外の「CSM」や「ファシリテーション」を浸透させることをテキストの理念としたい。
- 学生に対するファシリテーションの経験が浅い先生のために、グループワーク（自分以外の人の声を聴く心地良さ）を学生に体験させる“意味づけ”と“フォロー”に関する解説も必要ではないか。
- グループワークとしてクラスメイトと話をする機会を提供したい。その際、唐突に例えば“自分について”というテーマでは取りかかり難いので、最初はハードルを低くする工夫が必要（場が活性化する題材を事前に盛り込む等）。
- 学生はワークシートだけ提示されても取り組めないと思う。ワークシートの前には導入のためのケース（事例）が必要だろう。
- 学生にとって、取り組むワークに新鮮な興味を持たせるためには、テキスト体裁だと予め見通せてしまうので、カード形式等でまとめるほうが良いだろう。
- 学生の自己理解を促すのに適切な時期が３度あると思う（入学時、就職活動時、就職決定時～卒業までの間）。それら３回分のワークシートをまとめて管理できると面白いだろう。
- 執筆を担当する委員によって各ワークごとに書き振り（トーン）は差が生じるだろうから、各委員が担当部分を提案した後に、調整が必要となる（ワークの効果の連続性等も配慮する）。
- ワークをすること自体が目的であると誤解されないように、自己理解することの意味付けを明確にしたい。
- ３つのR＝“Reverse（逆転の発想力）”“Recovery（復旧力）”“Rework（作り直す力）”という観点から、未来の計画に力を入れられないだろうか。
- ありのままの自分を表現してみて、弱点を長所に言い換えられる力を積み重ねる経験も必要だろう。

以上の意見を踏まえ、最後に岡村座長が「今後の進め方」について次のとおり取りまとめた。

- ◎「セルフワークとグループワーク」の体験を通した「自己理解と仕事理解」に基づいて、「組織の

中での自分の力」を計り、「将来の目標・課題」を宣言し、クラスのなかで共有・熟成していく、という流れで全体を構成する。

◎冒頭でファシリテーションについて取り上げる。

◎大きく4つ（＋1つ）のステップに分けて、各担当を次のとおりとする。

0. ファシリテーション、グループワーク … 神山委員

1. 仕事・キャリアを考えるステップ

（一部ワークも入れた知識編） … 浅輪委員

2. 自分を理解するステップ

（ここが中心） … 財津副座長、上浦委員

3. 仕事理解と啓発的体験

（役割認識・求められる人材像、業界・職種、組織・雇用形態を知る） … 西田委員

4. 自分の未来のプランニング・具体的方策計画と決定 … 神山委員

◎各担当ステップについて「ワークシート（＋できればその使い方）」を5月中にグーグルの委員会サイトの共有フォルダに第一案資料を掲示する。

◎6月に共有フォルダ上で意見交換し、整理していく。6月22日（月）13:30～16:30に第3回委員会を開き、持ち寄った資料とともに委員会でテキスト全体の流れを作る（例えば、「就職後1年で離職しない学生を作るために…」等の具体的なコンセプトを検討する）。

【第3回 委員会】

日 時：平成21年6月22日（月）13:30～16:30

場 所：検定試験センター会議室

出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、（敬称略）ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、委員＝神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

議題：1. 各ステップのワークシートについて
2. 教材の全体コンセプト等について
3. 今後のスケジュールについて

配布資料の確認後、早速議事に入った。

教材の構成について

各委員が持ち寄ったワークシートについて、担当部分の趣旨を説明した後、全体で討議を行った。教材の全体構成及び今後の進め方について意見集約を図り、キャリア・サポーター協力校へ提供する“モデル版”の編集に向けて分担と課題を決め、具体的な作業に入ることとなった。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

①働くことの意義をみつける『なぜなぜマップ』について

◎箇条書きするようなワークシートよりも、“マップを作る”という方式のほうが楽しく取り組めて、モチベーションが上がるだろう。

◎作り上げたマップは、学生同士が発表をする際にもそのままプレゼンテーションシートとして活用できる。

- 白紙のシートに自分の言葉で書き尽くせる学生は、なかなか居ないのではないかと（文字に書き表す力を養うことも必要）。
- 学生の内面が図の大小や色の区別によってマップに視覚的に表されるのは、自分の考えを整理する手段として有効である。そのためには、学生の内的な思いが表出し易くなるような、テキスト上・教員側の工夫が必要（CSM講座のプログラム上の工夫と同様）。

②教員用テンプレート集について

- 教員の裁量で適宜アレンジできるように、ある程度の余裕があったほうが良いだろう。学生に対する教員の関わり方についても、結論に当たる部分まで必要以上に提示する必要はないだろう。
- 現実的には、学校現場で全学生に対して個別カウンセリングを実施するのは難しい。
- “何のワークをどう使ったら良いか”の例示は、キャリア・サポートの実践経験が浅い教員にとって重宝と思う（痒い所に手の届いた形になっている）。
- “こんなときどうする？（Q&A）”については、対峙する学生一人ひとりによって答えは異なるため、文章化しないほうが良い（事例紹介の一つに留める）。

③「自己理解のためのワークシート」について

- 自分らしさを外側から教えてもらうワークになっており、学生にとって書き易いよう工夫されている。
- 価値観や能力を知るワークも重要。
- 周りからのエールをもらう場面も必要。
- 著作引用許諾の件は、事務局より著者各氏へ確認する。
- 高校生就職ガイダンスは、厚労省ホームページからダウンロードできるのではないかと。

④「ファシリテーションガイド」について

- グループワークを中心に進めることが本教材と他との違いである。
- グループワークの冒頭で“グラドルール”を徹底することが肝心（他人に見せたくないものは無理に見せなくても良い旨を伝える）。
- あらゆる仕事でチームワークが求められていること、そして個人作業よりも結果が良好であることを意識させる。
- ファシリテーションについて、教員はもちろん、学生にも体得してもらえたいことを狙い、ガイドを作り込みたい。
- グループワークの「振り返りシート（気付きの記入シート）」を「教員用」「学生用」統一で用意すべき（学生に対して教員へのシート提出は求めないことが前提）。

⑤モデル版の作成・配布について

- 「教材作成のコンセプト、学校へのメッセージ」とそれに対応する「ワークシート及び教員用ガイド」をどのように提示するか。（特定の章に限定するか、1章1ワークにするか等）
- テキストのメインとなる「自己理解」のなかから、学生が「1.好きなこと」「2.能力」「3.価値観」の3つについて掘り下げるためのグループワークを厳選して提示するのはどうか。
- 試験的に取り組んでもらう学校側としても、「授業3コマ分相当」程度の量が最適だろう。
- 「学生向けワークシート」＋「教師用ガイド」＋「フィードバックのための記入シート」を3ワー

ク分用意する。

- 自己理解は、1. 自ら考えること、2. 他者からのフィードバックを受けること、そして 3. 客観的アセスメントによって可能。モデル版とするアセスメントについては、導入し易く、特性・性格の出るものが良い。

以上の意見を踏まえ、最後に岡村座長が「8月に向けたモデル版の作成」について次のとおり取りまとめた。

- ◎4つ（＋1）のテーマに関するワークを修正し、キャリア・サポーター協力校へモデル版テキストとして提案する。

0.（準備編として）「ファシリテーション」

1. 「あなたの価値観を知ろう」（セルフワーク→グループワークという流れ）
2. 「自分の強みを知る」
3. 「自己紹介のネタ探し」
4. 「ジョハリの窓」

- ◎ワーク全体を通してやってみた後、全ワークから“自分像”を集約し、内省できるようにする（自己分析→自己統合に落とし込む、上浦委員の作成のワークシートを活用）。

- ◎「学生用ワーク」に対応する「教員用コマシラバス」を用意する。

- ◎ワーク実施後、学生相互、教員からのフィードバックを受ける流れにする（振り返りシート）。

- ◎委員会として、モデル版の提案ワークシートの有用性に関するアンケート調査を行う（対象は学生と教員両方）。

- ◎「3章：仕事理解」のボリュームを増やし、全体のバランスを図る。

- ◎7月21日（火）または23日（木）13：30～16：30に第3回委員会を開く（委員会後、7月23日開催に決定）。

【第4回 委員会】

日 時：平成21年7月23日（木）13：30～16：30

場 所：専教振事務局会議室

出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、（敬称略）ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、委員＝西田君美雄、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

- 議題：1. 協力校へ提示する《モデル版》について
2. 《全体版》各章の内容について
3. 《全体版》の全体像について

配布資料の確認後、早速議事に入った。

《モデル版》の提示内容・方法及び《全体版》の内容について

キャリア・サポーター協力校へ提供する“モデル版”教材の提示内容及び方法について検討した後、“全体版”の構成及び今後の進め方について意見集約を図り、9月に小委員会を開催の上、全体構成案のたたき台を作成することとなった。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

■ 《モデル版》について

- 各ワークには、相互発表用を兼ねた、個人の振り返りシートが必要。質問をいくつか設けて、振り返りの感想を書き易く工夫する。
- グループワークの進行・運営について、教員用の基本フレーム（安全な場であることのアナウンス等）を用意したほうが良い。
- ファシリテートの詳細についてまでは、モデル版では取り上げない（実際にやってみて、難しい点等もキャリア・サポーターに実感してもらい、その意見を吸収する狙い）。
- 「ジョハリの窓」は難易度が高いが、CSM講座受講後の実践事例として有効。教員側も十分に準備し、このワークを通じて学生の表情や反応を観察することが有意義（プラスを認める心地良さ）。《モデル版》として提案してみる価値がある。ただし、学生向けには柔らかい表題に変える。
- アンケート回答の際は、実施したワークの種類を明記してもらう。

■ 《全体版》について

- 「仕事理解」に関しては、“3年で辞めない”ために知っておいてもらいたい「常識」「企業や職場が専門学校生に期待していること」等があるが、教員側がどう答えたらよいか、どう授業に展開したら良いか、についてのサポートが必要。
- 各テーマについて、学生がグループワークで調べて、互いに発表する、という方法がとれるのではない（ただし、担当教員の経験に依存するようなテーマにならないよう配慮が必要）。
- 専門学校の分野の多様性を考慮し、色々なケースに置き換えられる設定のほうが良い。社会人として大切なこと（働いてみて初めて知るギャップや喪失感等）について、学生が現状の立場で、感情移入できるような工夫が必要。
- 「自己理解→仕事理解」の連動を重視し、本来のキャリアの問題を考えられるようにすべき。
- 「実務」よりも「働くこと、職業・職務（仕事には色々なことがある、イメージ通りに行かない現実）」について気付かせ、「仕事理解」と「自己理解（最終的に自分を支えるもの）」が一致することが大切。

以上の意見を踏まえ、最後に岡村座長が《モデル版》及び《全体版》の作成分担について、次のとおり取りまとめた（敬称略）。

《モデル版》送付資料

1. 教材コンセプトシート…岡村
2. 学生向け教材《モデル版》
 - ①「あなたの価値観を知ろう」→タイトル変更例「私が大切にしたいこと」…岡村
 - ②「自分の強みを知る」…財津
☆個人での振り返りシート（相互発表用シートを兼ねる）を追加…財津
 - ③「自己紹介のネタ探し」…上浦
 - ④「ジョハリの窓」→タイトル変更例「未知の可能性を探ろう」…財津
3. 教員用ガイド《モデル版》
 - グループワークの進め方（基礎編）…浅輪
 - ①「あなたの価値観を知ろう」→タイトル変更例「私が大切にしたいこと」…岡村

- ②「自分の強みを知る」…財津
- ③「自己紹介のネタ探し」…上浦
- ④「ジョハリの窓」→タイトル変更例「未知の可能性を探ろう」…財津
- 4. モデル版試用アンケート用紙…岡村
- 5. 教材完成・販売までの今後の予定について…事務局

《全体版》追加、修正

- 1. 仕事理解
 - ①「スキル」に関するワーク…西田
 - ②「知識」に関するワーク…西田
 - ③「意識」に関するワークを「学生が体験していることと置き換えられるように、自己理解と連動するようにケースを工夫」…西田
- 2. 一本のストーリーとして整理…岡村・財津・神山・浅輪で小委員会

【第5回 委員会（小委員会）】

日 時：平成21年9月3日（木）13：30～16：30

場 所：専教振検定試験センター会議室

出席者：ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
（敬称略） 委員＝神山恵美子、浅輪玲子

事務局：稲本

議 題：1. 教材の全体構成について
2. その他

本日の小委員会開催の目的（全体のアウトライン整理）を確認後、早速議事に入った。

教材の全体構成について

キャリア・サポーター協力校へ提供する“モデル版”を整備したことを踏まえ、最終的な“全体版”の編集に向けて、「90分×合計15コマ（週）」を基本フレームとする一本の流れを検討し、全体構成案のたたき台を取りまとめた。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

【自己理解編について】

- 自己理解のための、「自分の強みを知る」ワークに代わるアセスメントが必要。
- ケースストーリーを提示することによって、学生の“実感”を促したい。
- 紋切り型の職業選択にならないようにすることが自己理解の目的という考え方を伝えたい。

【全章共通事項について】

- ポイントとなる内容を外さず、文字量をなるべく少なく、シンプルに構成することが大切。
- 单元毎に「テーマ名」と「実践のためのワーク」を最低限用意しておけば良いと思う。「ワークの目的」については、必要以上に説明するよりも、「実際にやってみての学生相互の“気づき”の共有」を優先するほうが良いのではないか。（事前に教員側から「このワークの目的は〇〇です。」と指示・誘導されてしまうと、「そういう結果にならなければいけない」という先入観を学生に与え

てしまう恐れがある。)

- 各単元の冒頭で「ケースストーリー」を提示し、その単元で目指すものを“イメージ”で伝えるのはどうか。「ケースストーリー」を基に学生同士で気付きを共有し、その経過を教員は基本的には“見守る”だけで良いと思う。
- 「ケースストーリー」は学校の分野に合わせて選べるようにしておくのが良い。『ケースストーリー集』を用意し、適用場面を例示し、適宜アレンジして使ってもらおう。「ケースストーリー」は、キャリア・サポーターから提供してもらい、ウェブ上で公開してはどうか。

【「学園祭ワーク」について】

- 「自己理解」と「仕事理解」と「キャリアプランニング」の要素が網羅されているため、本教材による全ワークの集大成として最終章に位置づけても良いだろう。
- 学園祭という対象が広いものを題材にすると、学園祭の実経験の機会がない学生にはワークの難易度が高くなるのではないか。例えば、学園祭のなかの模擬店等に範囲を限定してハードルを下げたほうが、役割のイメージも出て来易いと思う。
- その一方で、経験していないことについても学生に考えてもらいたいという思いもある。自分の知らないことについて、“ワークシートに書けない自分”に今気付いておくことが、例えば5年後成長してから、自分を振り返ったときに有効かもしれない。
- グループワークの議論が本来の目的以外の部分で時間が浪費されないよう、フレーム設定が必要。(模擬店の目標は、実社会の会社組織が目的とするもの＝収支利益とする。また、販売物は予め決めておく。)
- 例えば、「町内のお祭りにチョコバナナの模擬店を出すことになった。そのためにどんな準備、役割が必要か考える。但し、当日の販売は全員で行う。目標は、“当日を終えて全員が笑顔でいられる程度の姿”とする。」というフレームではどうか。
- このワークに関しては、振り返りシートはマトリクスではなく、自由に感想を書ける形式のほうが良いのではないか。(「グループとしての成果」は、評価指標がないと答えにくいだろう。「気持ちが変わった場面」を問うのは難しいかもしれない。「嬉しかったこと／嫌だったこと」等を尋ねるほうが良いだろう。)
- 「他係との連携図」については、教員用ガイドに見本図を載せておく。図のスペースを拡大して、表は別頁に分ける。

【「未来カード」について】

- 「〇年後の自分」については、「年数」の部分で学生が悩まないよう、「10年後」で指定してはどうか。(「10年後」の意味合いとしては、“キャリアで充実している将来の自分＝一番働き盛りの頃”を想定している旨を教員用ガイドに書いておく。)
- 「3年後」と「10年後」の両方があっても良いと思う。両者が違うことを振り返ってもらい、「10年後」のために「3年後」があり、では「現在」何をするのか?を考えてもらいたい。
- 「キャリアプラン」の発表の有無に関しては、“決意”や“感想”のシェアリングまでに留め、中身の発表は自由としたほうが良い。(教員からのフィードバックは、「未来カード：課題や相談したいこと」のところで得るものとする。)
- 「〇〇歳の自分へのメッセージ」は、文字または絵、どちらで表現しても良い。

【振り返りシートについて】

- 振り返りシートは、広く尋ねる“どうですか？”系と、答え易さ・書き易さを考慮した“具体的な項目明示”系の2パターンを、ワークによって適するほうを使い分けるのが良い。

【ワークシート体裁について】

- 学生が使用するワークシートは別冊にして、シートはその都度配布する方式にする。取り組む度にワークシートや振り返りシートが束ねられて行くことの効果を“本教材独自の仕掛け”としたい。
- 15回分が最終的に一冊のファイルに綴じられる体裁にする。

以上の意見を踏まえ、最後に岡村座長が《全体版》の構成案及び作成分担について、次のとおり取りまとめた。なお、次回委員会日程を「10月22日（木）または26（月）13：30～16：30」で調整することとなった。

1. 全体構成について

- 1) 全体で15コマ程度を目安とする
- 2) ワークシートは、個々綴じることができる形態にする
- 3) ケースストーリーを各章ごとに挿入する
目指す目的を強要せず、同内容をグループで話すことで気づく材料を提供する

2. 各章の構成としては

- 0) 本教材の狙い（大きな意図） … 岡村座長
- 1) 第1章 導入編として ミニワークを含めて 1コマ分 … 神山委員
※ファシリテーション→グループワークをするときの留意事項
- 2) 第2章 自己理解編 … 財津副座長・上浦委員
 - * 1 ケースストーリーを通じて章の意味を気づく
 - * 2 自分を知る手がかり
 - * 3 自分らしさを知る：アセスメント 新たに検討する
 - * 4 自己イメージ：上浦委員のオリジナル利用
 - * 5 過去の経験を整理しよう
 - * 6 私の大切なもの探し：テスト版改良の上使用
- 3) 第3章 仕事理解編 … 西田委員（神山委員との役割分担を調整）
3コマから4コマ分で実施。1コマはケースストーリー
- 4) 第4章 仕事選択とキャリアプランニング … 神山委員・浅輪委員
模擬店によるワーク 3コマ分
最終でキャリアプラン後発表とプラスのプレゼント

【第6回 委員会】

日 時：平成21年10月22日（木）14：00～17：00

場 所：専教振事務局会議室

出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、
（敬称略）ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

- 議題： 1. 【全体版】教材の取りまとめについて
2. 【モデル版】教材のアンケート回答について
3. 研究啓発・交流会（12月18日）への対応について
4. その他

本日の議題を確認後、早速議事に入った。

アンケート結果を踏まえた【全体版】教材の取りまとめに向けて

最終的な“全体版”の編集に向けて、小委員会を取りまとめた全体構成案のたたき台（「90分×合計15コマ」を基本フレームとする一本の流れ）に基づき、“モデル版”試用アンケート結果も踏まえて、全体で検討を行った。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

【第2章 自己理解編について】

- 「私の大切なもの探し」については、アンケート結果を踏まえ、用語の吟味（自分で追加できるようにもする）と“教員がしっくりと来る落とし込み”の精査が必要。
- 「自分の強みを知る」ワークのアンケート結果より、学生は当たっている・いないでとらえる傾向があること、教員側に事前の工夫が必要であることが判明。
- 著作権上掲載できないアセスメントについては、類するワーク（エゴグラム、フリーのもの等）を紹介・例示して、各校で実施してもらい、学生相互がシェアする時間が大切であることを実感してもらいたい。
- 自分の（能力ではなく）興味・関心・価値観を客観的に知るワークがあると良い（自信をつけられるもの。なぜ、どこで夢中になったか根っこを探す。長い人生を自己理解のなかで考えておくアセスメント）。
- 学生がセルフキャリアカウンセリングができるようにするには？という視点で考えてみる。
- ダイアグラム（人生関係者を含めた時刻表）、ライフライン、「燃焼条件分析」等が活用可能。ライフイベントに合わせて job と work の割合を想像することが第3章につながる（job でなく work の視点で、何のために働くのか?を考える）。
- 第2章の流れを再整理する。
 - * 1 ケースストーリーを通じて章の意味を気づく→「この人の働く意味とは何だろうか?」という問いかけ。
 - * 2 自分を知る手がかり→アンケートを基に修正。
 - * 3 自分らしさを知る:アセスメント 新たに検討する→「燃焼条件分析」による経験振り返り。
 - * 4 自己イメージ:上浦委員のオリジナル利用→出典があるので、要アレンジ。
 - * 5 過去の経験を整理しよう
 - * 6 私の大切なもの探し:テスト版改良の上使用

【第3章 仕事理解編について】

- 「仕事理解」の狙いは、3年以内の早期離職防止のみで良いのだろうか。
- 1年は辞めずに辛抱する必要性をもっと強調すべき。1年未満で辞めてしまうケースでは、専門学校卒ならではの専門性がかえって仇になっていること（資格を持って就職したにも関わらず、最初雑用が嫌で辞めてしまうケースが多い等）が危惧されるので、その対策が盛り込めると良い。

- 「離職」という言葉を使うことをタブー視している傾向があるが、「離職」についてあえて直接的に訴えるべき。
- 現実には希望以外の職種に就いている事例等も紹介すると良い。
- 「ちょっと想像してみてください」の前に、“事例”や“組織図”等を入れると良い。
- 「仕事理解」の3コマについて、<step1>神山委員案のワークを入れる（地図を一つ作ろうと思っても色々な役割がある現実を体験的に認識してもらいたい。ストレスも伴うことを体感。模擬店のワークとも共通して良い）→<step2>現実性に関するケーススタディ→<step3>個人のキャリアの変遷事例（インタビュー等）、組織図、“組織のなかで自分はどうするか？”のまとめ（やりたいことだけをやるのが就職ではない）という流れにする。
- 第3章の目標は、「内的キャリアの自己理解との刷り合わせ」を最終的な落とし所としたい（仕事は常に変わってゆくものであり、そのなかでいかに自分の能力を開発していくか？）。
- 1コマ全てが教員中心の授業形式ではもったいない。
- 例えば、複数の人のキャリアについて「入社時」と「現在」をパズル形式で並べ替え、線でつなぎ、ストーリーとして紹介するというワークはどうか。
- OB・OGを呼んで30分程度の話をしてもらおう（教材の狙いとする内容をどれだけ話せるか、リスクは高い。どのようなメッセージを伝えたいかの人選基準を示す）。“会社の見方”を教えることと、“就職後、周りを見渡せるだけのゆとりと知識”を持っておいてもらいたい。
- OB・OGに対しては質問項目を決めておいて、考えて来てもらうのが良い。当日は、OB・OGと教員との質疑をライブ形式で学生に見せる授業も良い。
- “辞めて得るもの・失うもの、辞めないで得るもの・失うもの”や“プロ意識”について（ケースではなく）事実としてコラム記事を加える。
- 「就職後半年経った自分へ宛てた手紙を書く」ワークを加える。

【第4章 仕事選択とキャリア・プランニングについて】

- 浅輪委員提案のワーク「私の国は？」はぜひ採用したい。
- ストレス自己診断の小ワークを挿入することについては、教員側の解説の負担が無いよう配慮し、「雨に降られたケース」等について2択または4択の考え方を例示して、気付きを促す程度とする（“辛ロスパイスとして冷や汗を出させたい”という狙い）。
- 「未来カード」のボリュームが多いと思う。
- 「今から取り組むこと」が3つに分けられているが、①数を指定せず、本人のバランス裁量でフリーのほうが良いか？②数は現状維持の3つとし、更にカードを足せるイメージにするか？③フリーでは漠然としてしまうだろうから、立体的に付箋を貼るのはどうか？④最後のまとめは“マインドマップの手法”にするか？（神山委員・上浦委員が専門学校生の描き方サンプルを提示する。）
- 「主要企業100社2010年春新卒採用調査」（教員用）は、第3章の最後に参考資料として位置付けるほうが良い。
- 「自己理解」と「仕事理解」を融合した「模擬店を出そう」のワークが最終章として最適である。

【その他】

- ケース等に使用する登場人物名は、イニシャルではなく、象徴的な名字を用いて、現実感を出したい。
- 今後、教材のタイトルについても検討が必要。

- 12月18日（金）の勉強会1時間のなかでワークの一部を体験してもらう。その事前打ち合わせのための委員会を前日12月17日（木）に開催する。
- シートの印刷範囲設定について基準を定める。

以上の意見を踏まえ、次回委員会「11月24日（火）13:00～16:00」までに各章担当委員間で再調整し、整理することとなった。

【第7回 委員会】

日 時：平成21年11月24日（火）13:00～16:00

場 所：専教振事務局会議室

出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、
（敬称略）ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

議 題：1. 【全体版】教材の取りまとめについて
2. 研究啓発・交流会（12月18日）への対応について
3. 教材題名及び副題案の検討
4. その他

本日の議題を確認後、早速議事に入った。

【全体版】教材の取りまとめに向けて

最終的な“全体版”の取りまとめに向けて、“モデル版”試用アンケート結果を踏まえた修正を反映し、全体のストーリーについて検討を行った。合わせて、「12/18(金)キャリア・サポーター交流会への対応」「教材タイトル」「教材販売単価・体裁・広報」等について検討を行った。

委員より提起された主な意見は次のとおり。

【第1章 導入編について】

- 自己理解に入る前の実体験慣らしとして、“チームワークの生む力”の大切さに気付いてもらうことが狙い。
- 用語について、学生向けには、聞き慣れない「ファシリテーション」よりも「グループワーク」と言ったほうが分かり易いのではないか。
- 学生向けにも敢えて「ファシリテーション」という言葉を用いて、いま社会で求められている要素として「リーダー」以外に「ファシリテーター」があることを伝えたい。
- タイトルには「ファシリテーション」とは表記せず、「効果的な話し合いをするためのコミュニケーション手法」と書いておいて、本章の最後に“これがファシリテーションです”と示してはどうか。
- 「チーム」なのか「グループ」なのか、用語の統一も必要だろう。
- 毎回の振り返りのためにチェックシートが必要（神山委員作成の「グループワーク役割診断シート」をアレンジして、「心得」として1枚用意）。

【第2章 自己理解編について】

- ケースストーリーには、幾つか質問を加えてはどうか(“この時、～したほうが良かったか?”等)。
- 「自己PRまっぷ」の図が言語化されると良い。結果について、自己PR文に落とし込むようにする。

【第3章 仕事理解編について】

- Step 1 (仕事の根っこワーク)の「特性評価カード」は、「最も能力を発揮したと思う」等の重複表現を整理したほうが良い。
- Step 2 (働いていくうえで確認しておきたいこと)が教員側からの解説で終止するよりも、“学生がそれをどう受け止めたのか?”の気付きを整理できるほうが良い。
- ケースストーリーを使って進めるための教員用ガイド(学生にさせること/教員コメント/*ポイントになる箇所を見易く強調)、学生用書き込みシートが必要(6つのケースを1枚ずつ分ける)。
- Step 3 (身近で働いている人の話を聞こう)については、体験談をただ聞くだけで終わらないように、事前の指示や工夫が必要(メモの取り方、発言・質問の仕方、知らない単語を書き出す等)。
- インタビューの対象者としてOB・OGを第一候補とするならば、OB・OGを呼べない場合の代案を用意すべき(1年後の自分へのインタビュー、働く先輩として教員が語る等)。
- むしろ“教員が自ら語る”を基本課題にしたほうが良いのではないか(教員が語るのを厭う場合のみOB・OGを呼べば良い)。
- 教員がどこまで自己開示できるか、がポイントとなるが、教員が自ら語ることによって、学生との距離感の変化が期待できる。

【第4章 仕事選択とキャリア・プランニングについて】

- 「私の国は?」学生配布用シートのキーワードはblankにして、教員と共に記入するか、クイズ形式にしても良い。

【全章共通事項について】

- 各章共通で文章化整理のパターンを加えてはどうか(結果または過程に対する振り返りシートの有無について要検討)。また、各章が独立し過ぎないように、各章が終わる毎に全体を見渡せるシートが欲しい。
- 「教員用ガイド」については、ワークの進め方のみならず、“想定され得るイレギュラーへの教員の対応”等、最後の詰めを精査する必要がある(例えば、燃えたことがない学生がいたらどうするか?等)。
- ホランド:職業選択理論の「6パターン」を下地として活用すると良い(教員側の安心感を生むだろう)。

【その他】

<教材販売単価・体裁・広報等について>

- ◎教材販売単価については、「税込945円」でCSM研修運営委員会へ提案する。
- ◎「学生用ワークシート」は、(当初は、使用するワークシート部分をその都度配布する方式を予定していたが、)印刷・製本、特に校内での管理等の便宜を考慮し、1人分全シートを一括して配布することとする。回収すべきページ(図の作成見本等)のみ、初回に回収し、使用時まで教員が保管することとする。

○「教員用ガイド」は、購入者用のサイトからPDFをダウンロードしてもらうこととし、更新の簡便性も図る。

○教材使用者のWeb上のサークルを設ける。

○購入検討・選定材料のための見本は、抜粋版（「目次」及び「ワーク1回分」のサンプル）をダウンロードできるようにすれば良い。

○B検広報の際に本教材のリーフレットを同封する等、啓蒙の機会を多く設けるべき。

○キャリア・サポーター在籍校に対する積極的な購入促進が必要。

○キャリア・サポーター在籍校を対象とした値引きができないだろうか。

○何かメリットがあると購入促進につながるだろう（先行割引、大量購入割引等）。

○職業訓練のカリキュラムにおいて「キャリア形成」が組まれているが、適切な教材が無いのが現状。専門学校で、正規課程以外のコース等でも活用してもらえよう案内したい。

○地域で紹介する機会が欲しい。各地で普及するための活動が必要。

○福岡専各での例を参考に、「ワークを体験し、実感してみる研修会」に対する取り組みが有効。

○各県専各の研修会と連携し、「キャリア教育」というテーマで提案すれば、教材の普及がし易いのではないか。

＜教材タイトルについて＞

○教材タイトルについては、全体の色合いを表現できて、気を惹くもの、刺激的な単語があると良い。

◎タイトルは、委員からのアイディア提案期限を決めて、最終判断は座長に一任する。

＜研究啓発・交流会への対応について＞

◎12月18日交流会への対応については、「事業説明10分（岡村座長）」＋「ワーク体験30～50分（財津副座長総合進行。各委員がグループに参加、委員会のための意見集約）」の計1時間とする。本教材の象徴的な単元として「自己理解編」からワークを選定。財津副座長が流れを作り、共有フォルダに提示する。

以上の意見を踏まえ、岡村座長が次のとおり取りまとめた。

【章立て整理結果】

＜計14コマ＞（＋1コマ予備）

■はじめに 本教材の狙い

■第1章 導入編

＜1コマ＞

…効果的な話し合いをするためのコミュニケーション手法

■第2章 自己理解編

＜6コマ＞

*1：ケースストーリー①＋ライフイベント&燃える条件 (1コマ)

*2：自分を知る手がかり（ジョハリの窓） (2コマ)

*3：私の大切なもの探し (1コマ)

*4：自己イメージ（ネガポジまっぷ・自己PRまっぷ） (1コマ)

*5：ケースストーリー②＋働く訳 (1コマ)

■第3章 仕事理解編

＜3コマ＞

*1：仕事の根っこワーク（地元の地図作成） (1コマ)

*2：ケースストーリー（6つ） (1コマ)

*3：教員自らの仕事について語る (1コマ)

代案／OB・OGインタビュー

用語集

1年後の自分への手紙(→3章の最後または4章の最後)

■第4章 仕事選択とキャリアプランニング

〈4コマ〉

＊1：模擬店を出そう

(3コマ)

＊2：キャリアプラン発表とプラスのプレゼント

(1コマ)

なお、次回委員会を「12月17日(木) 13:00～15:00小委員会(プロジェクター使用)／15:00～18:00全体会(翌日交流会のリハーサル)／18:00～懇親会」で開催することとなった。

【第8回 委員会】

日 時：平成21年12月17日(木) 13:00～18:00

場 所：専教振事務局会議室

出席者：ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
(敬称略) 委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

議 題：1.【全体版】教材の取りまとめ

2. 研究啓発・交流会(12月18日)への対応

本日の議題を確認後、早速議事に入った。

【全体版】教材の取りまとめに向けて

最終的な“全体版”の取りまとめに向けて、全体構成について検討を行った。討議の結果、学生用教材については、学生に興味を持って取り組んでもらえて、且つ販売価格に見合うレイアウト編集(学生向けの挿し絵等を含む)を予算の対応可能な範囲内で行うこととなった。

そのために、共有フォルダ上で、現状のファイルについて、「本編」(事前配布する必修ページ)と「資料集」(必要なタイミングで配布するページ)の仕分けをすることとなった。

また、翌日の「キャリア・サポーター交流会」における研究中間報告への対応について検討を行い、進行方針を確定した。なお、教材タイトル案として、「チーム学習型キャリア教育ワークブック 就活 やる気の根っこ(仮称)」を発表することとなった。

検討の結果、岡村座長が次のとおり取りまとめた。

【編集に際して留意すべきこと】

①構成

「○章」→「○節」→(1)、(2)、(3)…

という章立てにする。

②学生向けの親しみやすいページ立て、イラスト、内容に合う挿絵等

③「事例文章」は文字をやや大きくして読み易く

④用語の統一について

・「グループ」 →「チーム」

(※最初に「グループ」と「チーム」の違いを述べ、本教材では、敢えて「チーム学習」を提案

したいという方針を打ち出す。)

- ・「グループワーク」 → 「チーム学習」
- ・「振り返りシート」 → 「記入シート」
- ・「構成員」 → 「メンバー」
- ・「個人作業」「セルフワーク」 → 「個人ワーク」
- ・「教員」「教師」 → 「先生」
- ・「生徒」 → 「学生」
- ・「～してください」 → 「～しましょう」
- ・「感想」 → 「気付き」
- ・「思ったこと」「感じたこと」 → 「気付いたこと」

⑤形式の整理（数字、書体、強調等）

【目次検討結果】

＜計 14 コマ＞（+1 コマ予備）

■はじめに 本教材のねらい

■第1章 チーム学習を進めるためのヒント

＜1 コマ＞

■第2章 自己理解

＜6 コマ＞

＊1節：過去を振り返ろう！

（1 コマ）

＊2節：自分を知る手がかり

（2 コマ）

＊3節：私の大切なもの探し

（1 コマ）

＊4節：自己イメージ

（1 コマ）

＊5節：なぜ働くの？

（1 コマ）

■第3章 仕事理解

＜3 コマ＞

＊1節：地図を作ってみよう！

（1 コマ）

＊2節：ケーススタディで学ぶ実際の仕事

（1 コマ）

＊3節：インタビューしてみよう！

（1 コマ）

■第4章 仕事選択とキャリアプランニング

＜4 コマ＞

＊1節：役割理解

（3 コマ）

＊2節：キャリアプランニング（未来カード）

（1 コマ）

＜付録＞

・1年後の自分への手紙（※16コマ目のオプションとして）

・コラム

なお、次回委員会を「2月1日（月）13：00～16：00」に編集者同席で開催することとなった。

【第9回 委員会】

日 時：平成22年2月1日（月）13：00～16：00

場 所：専教振事務局会議室

出席者：ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
（敬称略） 委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環

事務局：岡田、稲本

- 議題：１．学生用教材について
２．教員用ガイドについて
３．「キャリア・サポート教材開発研究委員会」の今後の存続について
４．その他

本日の議題を確認後、早速議事に入った。

【全体版】教材の取りまとめに向けて

体裁等の統一のための編集作業を経た「学生用教材 第一案」について、全章にわたり文言の精査を含めた検討を行い、最終的な取りまとめに向けての役割分担を決定した。学生用教材、教員用ガイドともに、２月末までの原稿完成を作業目標とした。

検討の結果、岡村座長が次のとおり取りまとめた。

【目次検討結果（最新）】

<計 14 コマ>(+1 コマ予備)

■はじめに 本教材のねらい

■第 1 章 チーム学習を進めるためのヒント

<1 コマ>

■第 2 章 自己理解

<6 コマ>

＊ 1 節：過去を振り返ろう！

(1 コマ)

＊ 2 節：自分を知る手がかり

(2 コマ)

＊ 3 節：私の大切なもの探し

(1 コマ)

＊ 4 節：私ってどんな人？

(1 コマ)

＊ 5 節：なぜ働くの？

(1 コマ)

■第 3 章 仕事理解

<3 コマ>

＊ 1 節：地図を作ってみよう！

(1 コマ)

＊ 2 節：ケーススタディで学ぶ実際の仕事

(1 コマ)

＊ 3 節：インタビューしてみよう！

(1 コマ)

■第 4 章 仕事選択～未来へ向けて

<4～5 コマ>

＊ 1 節：模擬店を出そう！

(3 コマ)

(※「私の国」をアイスブレイクとして冒頭に配置。また、「突然の雨」を 2 コマ目の冒頭にアイスブレイクとして採用。)

＊ 2 節：未来カード

(1 コマ)

＊ 3 節：背中にエール

<付録>

- ・ 1 年後の自分への手紙 (※第 4 章に含めるか否か再考)
- ・ コラム

なお、2 月 15 日 (月) 9:00～12:00 の小委員会 (岡村座長・財津副座長・神山委員・浅輪委員による第 4 章の精査) を経て、最終委員会を「3 月 2 日 (火) 15:00～17:00」に開催することとなった。

【第10回 委員会】

日 時：平成22年2月15日（月）9：30～12：00
場 所：専教振事務局会議室
出席者：ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
（敬称略） 委員＝神山恵美子、浅輪玲子
事務局：岡田、稲本
議 題：1. 「学生用教材」及び「教員用ガイド」の取りまとめについて
2. その他

本日の議題を確認後、早速議事に入った。

【全体版】教材の取りまとめに向けて

体裁等の統一のための編集作業を経た「学生用教材 第一案」について、特に第4章について、学生用教材と教員用ガイドの照合を含めた検討を行い、最終的な取りまとめに向けての役割分担を決定した。学生用教材、教員用ガイドともに、2月末までの原稿完成を作業目標とした。

【第11回 委員会】

日 時：平成22年3月2日（火）15：00～17：00
場 所：専教振事務局会議室
出席者：CSM研修運営委員長＝小野紘昭、CSM研修運営委員（アドバイザー）＝小林智明、
（敬称略） ワーキング座長＝岡村慎一、副座長＝財津香壽子、
委員＝西田君美雄、神山恵美子、浅輪玲子、上浦環
事務局：岡田、稲本
議 題：1. 本年度事業の総括
2. その他

本日の議題を確認後、早速議事に入った。

【全体版】教材の最終確認

編集作業後の「第一案」に対する修正・変更を経た「学生用教材 第二案」に基づき、教材タイトルを『やる気の根っこ』に確定するとともに、全章にわたり、大局的な見地から最終点検を行い、最終的な取りまとめに向けての修正点を洗い出した。学生用教材は3月5日まで、教員用ガイドは3月末までの原稿完成を作業目標とした。

なお、教員用ガイドの提供形式は、PDF版（節単位・章単位・全体）とすることとなった。参考図書に関連するページは独立させて保護する。その他は利用者がデータ二次利用可能な形式とする。

また、今後は、開発した教材の普及により、学校現場で「活用され→機能し→効果を発揮する」ための対応を課題として確認した。

Ⅱ 教材《モデル版》実施概要及び試用アンケート結果

1. 実施概要

(1) 目的

「学生向け教材」及び「教員用ガイド」について、研究途上の内容のうち、一部のワークをキャリア・サポーター在籍校で試験的に実施してもらうよう依頼し、学生及び教員からの意見を聴取し、アンケート集計結果を踏まえて、最終的な取りまとめの内容に反映させる。

(2) 実施日程

平成 22 年 7 月 29 日 キャリア・サポーターへ協力依頼

試用協力に関する可否の回答収集

平成 22 年 8 月 21 日 試用協力可能校へ《モデル版》の電子メール配信

試用協力校での実施期間

平成 22 年 10 月 9 日 試用アンケート返送締切

(3) 試用協力可能校への電子メール配信資料

①教材コンセプトシート

②学生向け教材《モデル版》

③教員用ガイド《モデル版》

④《モデル版》試用アンケート用紙

⑤教材完成までの今後の予定

(4) 学生向け教材《モデル版》の内容

次の 4 テーマに関する「セルフワーク」＋「グループワーク」で構成

①「私の大切なもの探し」

②「自分の強みを知る」

③「自己紹介のネタ探し」

④「自分が知らない自分」

(5) 実施に必要な時間数（目安）

約 90 分×4 回分（全てのワークを実施した場合の必要目安時間）

※「90 分×1 回」を、例えば「45～50 分×2 回」等に分けて実施することも可。

※各校の事情により、実施時間の短縮や、実施ワークの取捨選択（最小 1 つ～最大 4 つ）も可。

※実施形態は、「担当クラスに対する一斉授業」「少人数でのゼミ形式授業」「少人数グループでの課外指導」「就職対策のグループ面談」等、各校の事情に合わせて実施し易い方法で可。

(6) 対象人数

グループワークを含む内容としているため、“グループを作れる人数”で実施（1 グループの構成人数の目安は 4～7 名）。

2. 試用アンケート結果

(1) 返送数

協力校 15 校、協力サポーター 19 名、実施対象学生 314 名、実施教員 27 名

(2) 実施したワーク

①「私の大切なもの探し」 4 校

- ②「自分の強みを知る」 14校
- ③「自己紹介のネタ探し」 3校
- ④「自分を知る手がかり」 4校

(3) アンケート結果に基づく考察

- 協力校 15校のうち 14校での実施ワークが「②自分の強みを知る」に集中した理由としては、もしも 4つの内どれか 1つしか時間的に扱えないとしたら、準備物が少なく済む、学生の作業が比較的簡易、学生の記入量が少なく済む、タイプ別解説があり教員からのフィードバックの負担が比較的軽いといった取り掛かり易さによる要因があったものと推測される。
- 《全体版》の取りまとめに向けて、ワークの内容を精査するとともに、ワーク相互の意味付け、関連性、連続性、重要度、難易度、優先順位等を考慮して全体構成、配列を工夫する等の考慮が必要と考えられる。

(4) 教員からの主な意見、感想

①学校現場で受け入れられることの確証

＜「学生がポジティブな意見を持ってくれたので学校として今後のためにも本当に良かった。授業改善の参考にしたい」「ワーク内容・結果とも満足のいくものだった」「学生も楽しんで取り組んでいた」「学生が興味を持ったので今後も続けていきたい」「教員の期待以上の感想も聞かれた。方法も分かり易かった」「指導例があるので使い易い」「全体版を早く見たいと思った」等＞

②グループワークの難しさ大切さ

＜「経験が少なく、話が苦手な学生もあり、うまくできなかった」「学生から発表型・記述型の授業の大切さ、面白さを知ったという感想が出てきたので良かった(本校の授業内容で足りないところなので)」等＞

③ファシリテートの難しさ

＜「今回の内容を今後どう生かしていくか、まとめのコメントを伝えられなかった」「シナリオ通りにやろうとしてぎこちなくなったり、逆にコメントをつけてみると、自分自身も試行錯誤で学生の熱心さに助けられた」「準備として頭の中でシュミレーションを行ったが、上手く進行出来なかった」「ワークが少々複雑だと感じたので、今後はファシリテータ自身が事前に一度実際に受けてみる、やってみることが必要だと感じた」「コメントと学生本人の感じ方が違う場合の対応について研修の場が欲しい」「交流分析理論などの知識がないとマニュアルやコラムの内容理解だけでは自信をもって解説ができないと感じた」等＞

④カリキュラム導入について

＜「内容的に就職活動前の 1年生に実施したほうが良いと感じた。導入する場合も、最初からカリキュラムに組み入れないと時間を確保するのが難しいと感じた」「社会人にも対応できる質問内容にしたほうが幅広く活用できる」等＞

(5) 学生からの主な意見、感想

①自己理解の大切さへの気付き

＜「自分を見直せる授業でとても良かった」「自分の長所、短所を見つけることができた」「少し自信が持てた」「今日やったことを就活に生かしていきたいとなった」「こういう授業はやっていくべきだと思う。自分自身を見直す大事さが分かった」「短所だけでなく長

所も同じ位あるということに安心した」「短所にばかり目が行ってアピールポイントが見出せなかったけど、今回のワークで自己肯定感が持てた」等>

②振り返りシートの効用

<「スッキリした」「書くことで気付くことがあった」「自分の気持ちを整理し易かった」「もっと勉強していかないと!!と思った」「その時思ったことをすぐに書き記すのは良いことだと思う」「文字にすることで話し易くなった」「気持ちが引き締まった」「出た結果や気持ちをまとめることができ、次に活かせるような気がする」「改めて振り返ってみると、文章にできなかったりして、しっかり考えられていないことに気付いた」「すぐに忘れてしまう事が多いので、書くことでこれからの行動のプラスになると思う」⇔「良い・悪いの感想で終わってしまった」等>

③発表を通して他人に分かってもらえる心地良さの実感

<「自分の性格を知ってもらえるから良かった」「発表をして恥ずかしかったが、訓練だ」「どのように話せばうまく伝わるかが分かり、面接の練習にもなる」「改めて自分の事を話すのは新鮮だった」「自分のことを理解してもらいたい欲求があるので、良かった」「こういう場面でもない限り話すことがないので良い気持ちになった」「初対面だったが社会に出るときには必要なスキルだと思う」「他人から見た自分を確認できた」「他人からの意見ほどの得ているものはなかった」「話すことによって友達からほめてもらえた」「自分の内面を明かすことは部分的にためらわれがちでもあるが、言葉として公開したことにより少しオープンになれたように思う」等>

④発表に対する不慣れや抵抗感等

<「はらはらドキドキした」「知らない人に話したくない」「緊張し過ぎて頭がこんがらがった」「しどろもどろになった」「正直緊張してできれば逃げたかった」「どのように話せば良いか分からなかった」「自分のことを他人に話すのはとても難しく、言葉が出てこなかった」「自分について話すのは恥ずかしいのであまり考えをまとめなかったらひどいことになった」「得意ではないので少ししんどかった」「自分のエピソードについて他の人からの意見が無かった」「どう話したらいいかすごい悩んでしまった。こういう場をもっと経験して慣れていきたい」「見本のような物がないとどのように話すのか分からない」等>

⑤過去を振り返ることについて

<「過去を振り返るのも大事だと思った」「嫌な事まで振り返るのは辛い」「高校の時はあまりいい思い出がなかった」「嫌な思い出を思い出してしまった」「嫌な事まで思い出してしまったけど、昔の色々な経験を思い出することができて良かった」等>

⑥継続して実施する効果

<「先週よりも本当に自分のことが分かった」「2回通して楽しかった」「自分というものは毎日の生活で変化していくものだと思うので、またこのような機会が必要だと感じた」等>

⑦学生にとって身近な例示の必要性

<「分かりにくい部分があったので、例を増やす工夫がいると思う」等>

【参考】A. 試用アンケート用紙（教員用）

1.私の大切なもの探し
3.自己紹介のネタ探し

2.自分の強みを知る
4.自分を知る手がかり

試用アンケート用紙

テーマ名

学校名：

教員氏名：

※教員1名ごとに1テーマにつき1枚お書きください。各番号に○をつけ、特に改善点・コメントのご記入をお願い致します！

1. 内容は、期待したものと合致していましたか？

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■改善点・コメント等：

2. 学生は、理解できていましたか？

	ほぼ全て理解できた	半分以上理解できた	少し理解できた	全然わからなかった
評価レベル	4	3	2	1

■改善点・コメント等：（理解できなかった点について具体的にご記入ください）

3. 内容の難易度はいかがでしたか？

	難しすぎる	やや難しい	やや易しい	易しすぎる
評価レベル	4	3	2	1

■改善点・コメント等：

4. ファシリテータ（教員）の関わり方は適切にできましたか？

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■改善点・コメント等：

5. ファシリテータ（教員）の教え方は適切にできましたか？

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■改善点・コメント等：

6. 時間配分などは適切でしたか？

	非常に適切	適切	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■改善点・コメント等：

7. その他感想をお聞かせ下さい

--

【参考】B. 試用アンケート用紙（学生用）

試用アンケート用紙（学生用：1人1枚まで）

学校名： _____ 学籍番号： _____ 名前： _____

※実施ワークの数に係わらず、自身が取り組んだワーク 1～4 つについて総合して、「学生 1 名につき 1 枚だけ」提出してください。各番号に○をつけ、コメント欄に自由に記入してください。

1. あなたは自分の気持ちや考えをどの程度整理できましたか？

	できた	ややできた	やや出来なかった	出来なかった
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：（どの点からそう思いましたか具体的に書いてください）

2. あなたは今日の講座でどんな気持ちになりましたか？

	とてもいい気持ち	ややいい気持ち	やや嫌な気持ち	とても嫌な気持ち
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：（どの点からそう感じましたか具体的に書いてください）

3. あなたが思ったことを「振り返りシート」などに記入することはどんな感じでしたか？

	とてもよかった	やや良かった	やや良くなかった	良くなかった
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：（どの点からそう感じましたか具体的に書いてください）

4. あなたが他の方に自分のことを話すことはどんな感じでしたか？

	とてもよかった	やや良かった	やや良くなかった	良くなかった
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：（どの点からそう感じましたか具体的に書いてください）

5. 内容は、期待したものと合致していましたか？

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：

6. 内容は、理解できましたか？

	ほぼ全て理解できた	半分以上理解できた	少し理解できた	全然わからなかった
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：（理解できなかった点について具体的にご記入ください）

7. 内容の難易度はいかがでしたか？

	難しすぎる	やや難しい	やや易しい	易しすぎる
評価レベル	4	3	2	1

■ コメント等：

8. ファシリテータ（教員）の関わり方は適切でしたか？

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■コメント等：

9. ファシリテータ（教員）の教え方は適切でしたか？

	非常に満足	やや満足	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■コメント等：

10. 時間配分などは適切でしたか？

	非常に適切	適切	やや不満	非常に不満
評価レベル	4	3	2	1

■コメント等：

11. その他感想をお聞かせ下さい

ご協力ありがとうございました。本アンケートは、「キャリア・サポートのための学生向け教材」研究開発に反映させることを目的として使用いたします。個人情報を含めて、他の目的に使用することはありません。

ご協力ありがとうございました。

本アンケートは、「キャリア・サポートのための学生向け教材」研究開発に反映させることを目的として使用いたします。個人情報を含めて、他の目的に使用することはありません。

【参考】C. アンケート結果集計表

【教員用アンケート結果】
実施したワーク

	件 数	私の 大切な もの 探し	自 分の 強 み を 知 る	自 己 紹 介 の ネ タ 探 し	自 分 を 知 る 手 が か り	無 回 答
合 計	43 100.0	7 16.3	26 60.5	8 18.6	10 23.3	-
A 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
B 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
C 専門学校	13 100.0	-	6 46.2	5 38.5	2 15.4	-
D 専門学校	6 100.0	2 33.3	2 33.3	-	2 33.3	-
E 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
F 専門学校	4 100.0	-	2 50.0	-	2 50.0	-
G 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	-	-
H 専門学校	4 100.0	2 50.0	3 75.0	-	-	-
I 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	-	1 50.0	-
J 専門学校	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-
K 専門学校	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	-
L 専門学校	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-
M 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-
N 専門学校	3 100.0	-	2 66.7	-	1 33.3	-
O 専門学校	-	-	-	-	-	-

1. 内容の満足度

	件 数	非 常 に 満 足	やや 満 足	やや 不 満	非 常 に 不 満	無 回 答	平 均
合 計	43 100.0	21 48.8	19 44.2	2 4.7	-	1 2.3	3.45
A 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00
B 専門学校	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	4.00
C 専門学校	13 100.0	12 92.3	-	-	-	1 7.7	4.00
D 専門学校	6 100.0	3 50.0	3 50.0	-	-	-	3.50
E 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00
F 専門学校	4 100.0	1 25.0	3 75.0	-	-	-	3.25
G 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00
H 専門学校	4 100.0	1 25.0	3 75.0	-	-	-	3.25
I 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50
J 専門学校	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	3.00
K 専門学校	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	4.00
L 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50
M 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00
N 専門学校	3 100.0	1 33.3	2 66.7	-	-	-	3.33
O 専門学校	-	-	-	-	-	-	-

2. 学生の理解度

	件 数	ほぼ 全て 理解 できた	半 分 以 上 理 解 で きた	少 し 理 解 で きた	全 然 わ か ら な か つ た	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	43 100.0	19 44.2	21 48.8	3 7.0	-	-	3.37	145 100.0
A 専門学校	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	4.00	4 2.8
B 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.1
C 専門学校	13 100.0	9 69.2	3 23.1	1 7.7	-	-	3.62	47 32.4
D 専門学校	6 100.0	3 50.0	3 50.0	-	-	-	3.50	21 14.5
E 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.1
F 専門学校	4 100.0	-	3 75.0	1 25.0	-	-	2.75	11 7.6
G 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.1
H 専門学校	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	3.00	12 8.3
I 専門学校	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	3.00	6 4.1
J 専門学校	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	3.50	7 4.8
K 専門学校	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	4.00	8 5.5
L 専門学校	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	3.00	6 4.1
M 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.1
N 専門学校	3 100.0	2 66.7	1 33.3	-	-	-	3.67	11 7.6
O 専門学校	-	-	-	-	-	-	-	-

3. 内容の難易度

	件 数	難 し さ ぎ る	や や 難 し い	や や 易 し い	易 し さ ぎ る	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	43 100.0	-	18 41.9	25 58.1	-	-	2.42	104 100.0
A 専門学校	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	2.00	2 1.9
B 専門学校	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	2.00	2 1.9
C 専門学校	13 100.0	-	7 53.8	6 46.2	-	-	2.54	33 31.7
D 専門学校	6 100.0	-	3 50.0	3 50.0	-	-	2.50	15 14.4
E 専門学校	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	2.00	2 1.9
F 専門学校	4 100.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-	2.50	10 9.6
G 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.9
H 専門学校	4 100.0	-	1 25.0	3 75.0	-	-	2.25	9 8.7
I 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50	5 4.8
J 専門学校	2 100.0	-	-	2 100.0	-	-	2.00	4 3.8
K 専門学校	2 100.0	-	-	2 100.0	-	-	2.00	4 3.8
L 専門学校	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	3.00	6 5.8
M 専門学校	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	2.00	2 1.9
N 専門学校	3 100.0	-	1 33.3	2 66.7	-	-	2.33	7 6.7
O 専門学校	-	-	-	-	-	-	-	-

4. ファシリテータ（教員）の関わり方

	件 数	非常 に満 足	やや 満足	やや 不満	非常 に不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	43 100.0	11 25.6	21 48.8	9 20.9	-	2 4.7	3.05	125 100.0
A 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
B 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
C 専門学校	13 100.0	8 61.5	3 23.1	-	-	2 15.4	3.73	41 32.8
D 専門学校	6 100.0	-	5 83.3	1 16.7	-	-	2.83	17 13.6
E 専門学校	1 100.0	-	-	100.0	-	-	2.00	2 1.6
F 専門学校	4 100.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-	2.50	10 8.0
G 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
H 専門学校	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	3.00	12 9.6
I 専門学校	2 100.0	-	-	2 100.0	-	-	2.00	4 3.2
J 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50	5 4.0
K 専門学校	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	4.00	8 6.4
L 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50	5 4.0
M 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
N 専門学校	3 100.0	-	3 100.0	-	-	-	3.00	9 7.2
O 専門学校	-	-	-	-	-	-	-	-

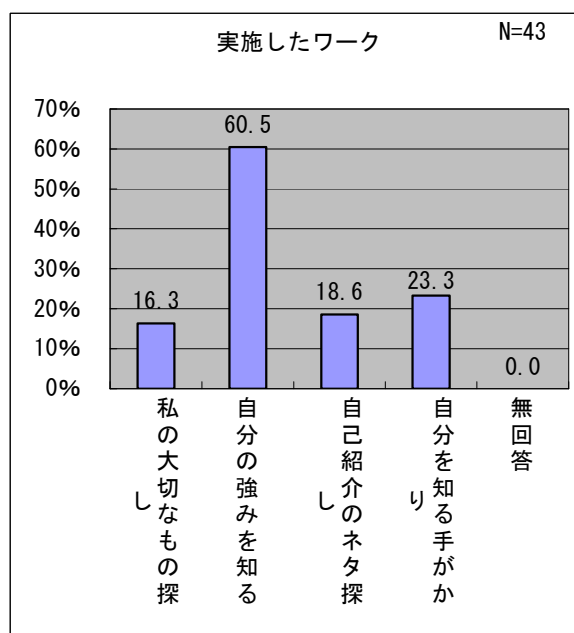
5. ファシリテータ（教員）の教え方

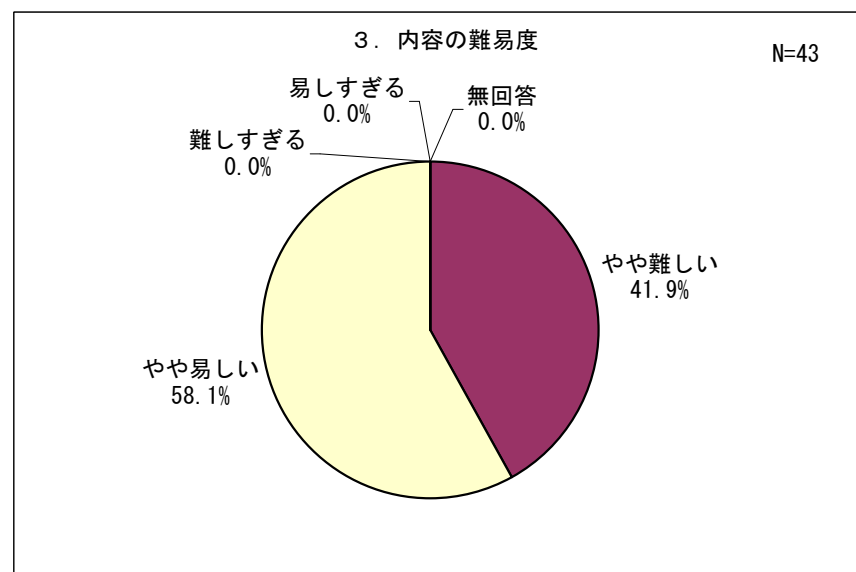
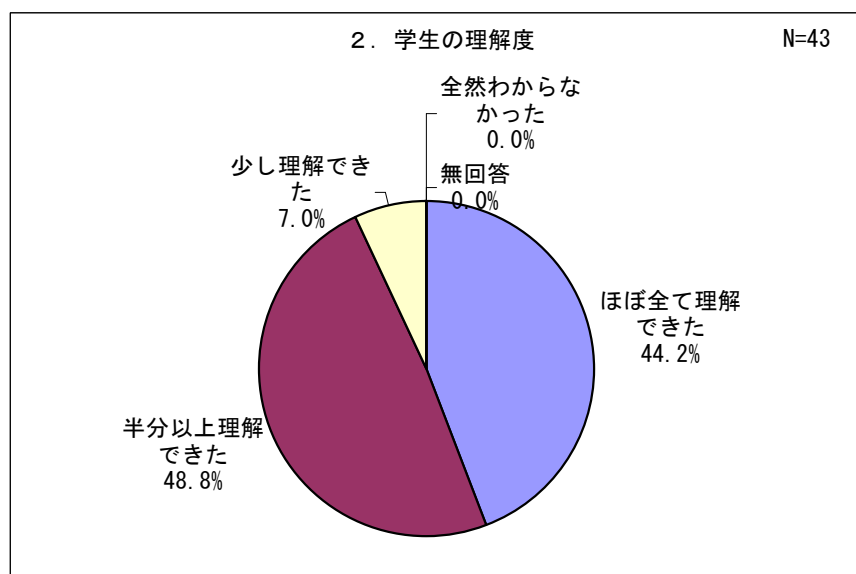
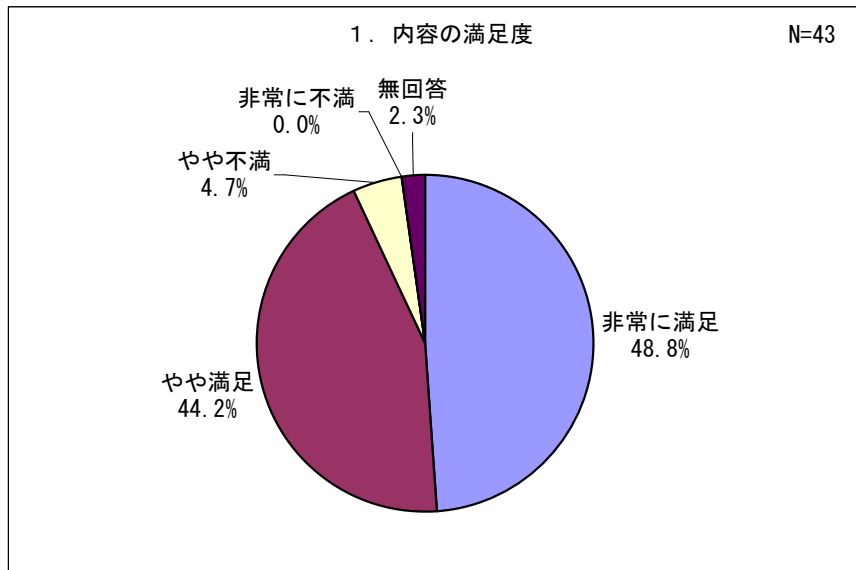
	件 数	非常 に満 足	やや 満足	やや 不満	非常 に不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	43 100.0	11 25.6	20 46.5	10 23.3	1 2.3	1 2.3	2.98	125 100.0
A 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
B 専門学校	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	2.00	2 1.6
C 専門学校	13 100.0	9 69.2	2 15.4	-	1 7.7	1 7.7	3.58	43 34.4
D 専門学校	6 100.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	-	-	2.83	17 13.6
E 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
F 専門学校	4 100.0	-	2 50.0	2 50.0	-	-	2.50	10 8.0
G 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
H 専門学校	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	3.00	12 9.6
I 専門学校	2 100.0	-	-	2 100.0	-	-	2.00	4 3.2
J 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50	5 4.0
K 専門学校	2 100.0	-	2 100.0	-	-	-	3.00	6 4.8
L 専門学校	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	2.50	5 4.0
M 専門学校	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	3.00	3 2.4
N 専門学校	3 100.0	-	3 100.0	-	-	-	3.00	9 7.2
O 専門学校	-	-	-	-	-	-	-	-

6. 時間配分

	件 数	非 常 に 適 切	適 切	やや 不 満	非 常 に 不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	43 100.0	2 4.7	28 65.1	12 27.9	—	1 2.3	2.76	116 100.0
A 専門学校	1 100.0	—	1 100.0	—	—	—	3.00	3 2.6
B 専門学校	1 100.0	—	1 100.0	—	—	—	3.00	3 2.6
C 専門学校	13 100.0	1 7.7	9 69.2	3 23.1	—	—	2.85	37 31.9
D 専門学校	6 100.0	—	3 50.0	3 50.0	—	—	2.50	15 12.9
E 専門学校	1 100.0	—	—	—	—	1 100.0	0.00	0 0.0
F 専門学校	4 100.0	—	3 75.0	1 25.0	—	—	2.75	11 9.5
G 専門学校	1 100.0	1 100.0	—	—	—	—	4.00	4 3.4
H 専門学校	4 100.0	—	3 75.0	1 25.0	—	—	2.75	11 9.5
I 専門学校	2 100.0	—	—	2 100.0	—	—	2.00	4 3.4
J 専門学校	2 100.0	—	2 100.0	—	—	—	3.00	6 5.2
K 専門学校	2 100.0	—	—	2 100.0	—	—	2.00	4 3.4
L 専門学校	2 100.0	—	2 100.0	—	—	—	3.00	6 5.2
M 専門学校	1 100.0	—	1 100.0	—	—	—	3.00	3 2.6
N 専門学校	3 100.0	—	3 100.0	—	—	—	3.00	9 7.8
O 専門学校	—	—	—	—	—	—	—	—

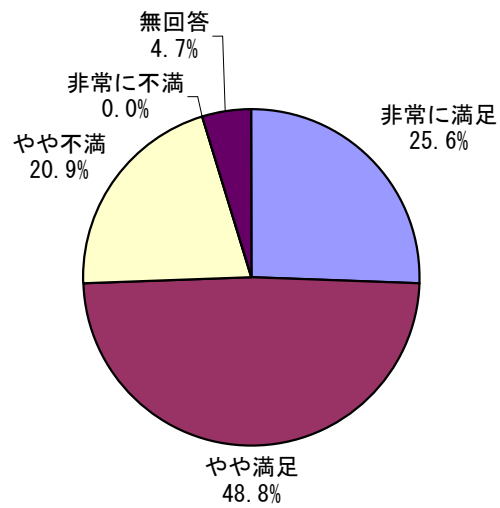
【教員用アンケート結果】





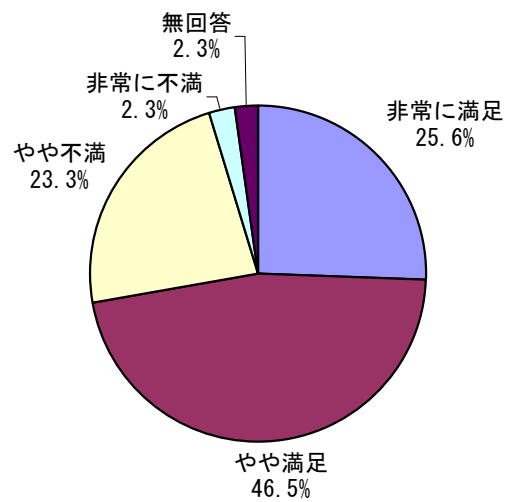
4. ファシリテータ（教員）の関わり方

N=43



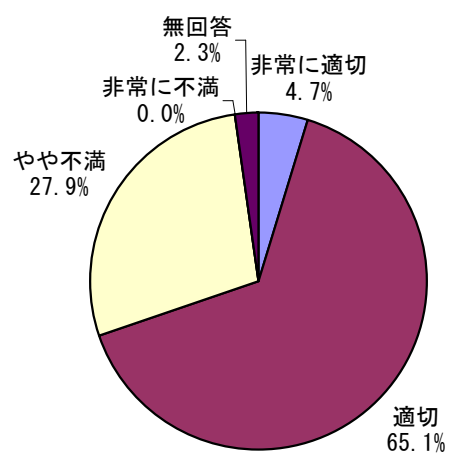
5. ファシリテータ（教員）の教え方

N=43



6. 時間配分

N=43



【学生用アンケート結果】

1. 自分の気持ちや考えをどの程度整理できましたか

	件 数	で きた	やや できた	やや 出来な かった	出来 なかつ た	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	69 22.0	212 67.5	32 10.2	1 0.3	-	3.11	977 100.0
A 専門学校	27 100.0	8 29.6	19 70.4	-	-	-	3.30	89 9.1
B 専門学校	12 100.0	4 33.3	6 50.0	1 8.3	1 8.3	-	3.08	37 3.8
C 専門学校	19 100.0	7 36.8	10 52.6	2 10.5	-	-	3.26	62 6.3
D 専門学校	20 100.0	1 5.0	13 65.0	6 30.0	-	-	2.75	55 5.6
E 専門学校	20 100.0	4 20.0	16 80.0	-	-	-	3.20	64 6.6
F 専門学校	11 100.0	3 27.3	4 36.4	4 36.4	-	-	2.91	32 3.3
G 専門学校	24 100.0	3 12.5	18 75.0	3 12.5	-	-	3.00	72 7.4
H 専門学校	46 100.0	8 17.4	37 80.4	1 2.2	-	-	3.15	145 14.8
I 専門学校	11 100.0	4 36.4	7 63.6	-	-	-	3.36	37 3.8
J 専門学校	18 100.0	7 38.9	9 50.0	2 11.1	-	-	3.28	59 6.0
K 専門学校	22 100.0	15 68.2	6 27.3	1 4.5	-	-	3.64	80 8.2
L 専門学校	18 100.0	-	13 72.2	5 27.8	-	-	2.72	49 5.0
M 専門学校	20 100.0	-	17 85.0	3 15.0	-	-	2.85	57 5.8
N 専門学校	28 100.0	3 10.7	21 75.0	4 14.3	-	-	2.96	83 8.5
O 専門学校	18 100.0	2 11.1	16 88.9	-	-	-	3.11	56 5.7

2. 今日の講座でどんな気持ちになりましたか

	件 数	と ても いい 気持 ち	や やい い気 持ち	や や嫌 な気 持ち	と ても 嫌な 気持 ち	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	51 16.2	219 69.7	39 12.4	4 1.3	1 0.3	3.01	943 100.0
A 専門学校	27 100.0	7 25.9	18 66.7	1 3.7	1 3.7	-	3.15	85 9.0
B 専門学校	12 100.0	-	10 83.3	2 16.7	-	-	2.83	34 3.6
C 専門学校	19 100.0	8 42.1	11 57.9	-	-	-	3.42	65 6.9
D 専門学校	20 100.0	-	15 75.0	5 25.0	-	-	2.75	55 5.8
E 専門学校	20 100.0	1 5.0	17 85.0	2 10.0	-	-	2.95	59 6.3
F 専門学校	11 100.0	-	11 100.0	-	-	-	3.00	33 3.5
G 専門学校	24 100.0	1 4.2	17 70.8	4 16.7	1 4.2	1 4.2	2.78	64 6.8
H 専門学校	46 100.0	4 8.7	34 73.9	8 17.4	-	-	2.91	134 14.2
I 専門学校	11 100.0	3 27.3	6 54.5	2 18.2	-	-	3.09	34 3.6
J 専門学校	18 100.0	4 22.2	10 55.6	4 22.2	-	-	3.00	54 5.7
K 専門学校	22 100.0	10 45.5	10 45.5	2 9.1	-	-	3.36	74 7.8
L 専門学校	18 100.0	-	17 94.4	1 5.6	-	-	2.94	53 5.6
M 専門学校	20 100.0	-	13 65.0	7 35.0	-	-	2.65	53 5.6
N 専門学校	28 100.0	4 14.3	22 78.6	1 3.6	1 3.6	-	3.04	85 9.0
O 専門学校	18 100.0	9 50.0	8 44.4	-	1 5.6	-	3.39	61 6.5

3. 思ったことを「振り返りシート」などに記入することはどんな感じでしたか

	件 数	とても よかつた	やや良 かつた	やや良 くなかつた	良 くなかつた	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	57 18.2	191 60.8	59 18.8	1 0.3	6 1.9	2.99	920 100.0
A 専門学校	27 100.0	6 22.2	16 59.3	4 14.8	1 -	1 3.7	3.08	80 8.7
B 専門学校	12 100.0	2 16.7	9 75.0	1 8.3	-	-	3.08	37 4.0
C 専門学校	19 100.0	8 42.1	8 42.1	3 15.8	-	-	3.26	62 6.7
D 専門学校	20 100.0	3 15.0	11 55.0	6 30.0	-	-	2.85	57 6.2
E 専門学校	20 100.0	4 20.0	13 65.0	2 10.0	-	1 5.0	3.11	59 6.4
F 専門学校	11 100.0	1 9.1	7 63.6	3 27.3	-	-	2.82	31 3.4
G 専門学校	24 100.0	3 12.5	16 66.7	5 20.8	-	-	2.92	70 7.6
H 専門学校	46 100.0	5 10.9	36 78.3	5 10.9	-	-	3.00	138 15.0
I 専門学校	11 100.0	2 18.2	7 63.6	2 18.2	-	-	3.00	33 3.6
J 専門学校	18 100.0	5 27.8	8 44.4	3 16.7	-	2 11.1	3.13	50 5.4
K 専門学校	22 100.0	5 22.7	13 59.1	3 13.6	-	1 4.5	3.10	65 7.1
L 専門学校	18 100.0	1 5.6	6 33.3	10 55.6	1 5.6	-	2.39	43 4.7
M 専門学校	20 100.0	-	11 55.0	9 45.0	-	-	2.55	51 5.5
N 専門学校	28 100.0	7 25.0	20 71.4	1 3.6	-	-	3.21	90 9.8
O 専門学校	18 100.0	5 27.8	10 55.6	2 11.1	-	1 5.6	3.18	54 5.9

4. 他の方に自分のことを話すことはどんな感じでしたか

	件 数	とても よかつた	やや良 かつた	やや良 くなかつた	良 くなかつた	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	54 17.2	155 49.4	87 27.7	13 4.1	5 1.6	2.81	868 100.0
A 専門学校	27 100.0	3 11.1	18 66.7	5 18.5	1 3.7	-	2.85	77 8.9
B 専門学校	12 100.0	2 16.7	3 25.0	6 50.0	1 8.3	-	2.50	30 3.5
C 専門学校	19 100.0	6 31.6	8 42.1	4 21.1	1 5.3	-	3.00	57 6.6
D 専門学校	20 100.0	1 5.0	8 40.0	10 50.0	1 5.0	-	2.45	49 5.6
E 専門学校	20 100.0	3 15.0	9 45.0	5 25.0	2 10.0	1 5.0	2.68	51 5.9
F 専門学校	11 100.0	2 18.2	6 54.5	3 27.3	-	-	2.91	32 3.7
G 専門学校	24 100.0	4 16.7	11 45.8	9 37.5	-	-	2.79	67 7.7
H 専門学校	46 100.0	5 10.9	29 63.0	11 23.9	1 2.2	-	2.83	130 15.0
I 専門学校	11 100.0	4 36.4	3 27.3	3 27.3	1 9.1	-	2.91	32 3.7
J 専門学校	18 100.0	5 27.8	9 50.0	2 11.1	-	2 11.1	3.19	51 5.9
K 専門学校	22 100.0	9 40.9	9 40.9	3 13.6	-	1 4.5	3.29	69 7.9
L 専門学校	18 100.0	1 5.6	8 44.4	8 44.4	1 5.6	-	2.50	45 5.2
M 専門学校	20 100.0	-	6 30.0	13 65.0	1 5.0	-	2.25	45 5.2
N 専門学校	28 100.0	4 14.3	16 57.1	4 14.3	3 10.7	1 3.6	2.78	75 8.6
O 専門学校	18 100.0	5 27.8	12 66.7	1 5.6	-	-	3.22	58 6.7

5. 内容の満足度

	件 数	非常 に満 足	やや 満足	やや 不満	非常 に不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	61 19.4	199 63.4	46 14.6	4 1.3	4 1.3	3.02	937 100.0
A 専門学校	27 100.0	7 25.9	18 66.7	2 7.4	-	-	3.19	86 9.2
B 専門学校	12 100.0	1 8.3	11 91.7	-	-	-	3.08	37 3.9
C 専門学校	19 100.0	10 52.6	8 42.1	1 5.3	-	-	3.47	66 7.0
D 専門学校	20 100.0	3 15.0	11 55.0	6 30.0	-	-	2.85	57 6.1
E 専門学校	20 100.0	3 15.0	15 75.0	2 10.0	-	-	3.05	61 6.5
F 専門学校	11 100.0	1 9.1	8 72.7	2 18.2	-	-	2.91	32 3.4
G 専門学校	24 100.0	1 4.2	17 70.8	5 20.8	1 4.2	-	2.75	66 7.0
H 専門学校	46 100.0	5 10.9	33 71.7	7 15.2	-	1 2.2	2.96	133 14.2
I 専門学校	11 100.0	4 36.4	5 45.5	1 9.1	1 9.1	-	3.09	34 3.6
J 専門学校	18 100.0	4 22.2	13 72.2	1 5.6	-	-	3.17	57 6.1
K 専門学校	22 100.0	13 59.1	7 31.8	1 4.5	1 4.5	-	3.45	76 8.1
L 専門学校	18 100.0	1 5.6	9 50.0	7 38.9	-	1 5.6	2.65	45 4.8
M 専門学校	20 100.0	1 5.0	13 65.0	5 25.0	1 5.0	-	2.70	54 5.8
N 専門学校	28 100.0	2 7.1	21 75.0	5 17.9	-	-	2.89	81 8.6
O 専門学校	18 100.0	5 27.8	10 55.6	1 5.6	-	2 11.1	3.25	52 5.5

6. 内容の理解度

	件 数	ほぼ 全て 理 解 で き た	半 分 以 上 理 解 で き た	少 し 理 解 で き た	全 然 わ か ら な か つ た	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	153 48.7	103 32.8	54 17.2	4 1.3	-	3.29	1033 100.0
A 専門学校	27 100.0	15 55.6	10 37.0	2 7.4	-	-	3.48	94 9.1
B 専門学校	12 100.0	7 58.3	4 33.3	1 8.3	-	-	3.50	42 4.1
C 専門学校	19 100.0	9 47.4	6 31.6	4 21.1	-	-	3.26	62 6.0
D 専門学校	20 100.0	9 45.0	2 10.0	8 40.0	1 5.0	-	2.95	59 5.7
E 専門学校	20 100.0	12 60.0	6 30.0	2 10.0	-	-	3.50	70 6.8
F 専門学校	11 100.0	6 54.5	4 36.4	1 9.1	-	-	3.45	38 3.7
G 専門学校	24 100.0	11 45.8	10 41.7	3 12.5	-	-	3.33	80 7.7
H 専門学校	46 100.0	15 32.6	24 52.2	7 15.2	-	-	3.17	146 14.1
I 専門学校	11 100.0	6 54.5	3 27.3	2 18.2	-	-	3.36	37 3.6
J 専門学校	18 100.0	12 66.7	3 16.7	2 11.1	1 5.6	-	3.44	62 6.0
K 専門学校	22 100.0	18 81.8	3 13.6	1 4.5	-	-	3.77	83 8.0
L 専門学校	18 100.0	2 11.1	5 27.8	10 55.6	1 5.6	-	2.44	44 4.3
M 専門学校	20 100.0	6 30.0	6 30.0	7 35.0	1 5.0	-	2.85	57 5.5
N 専門学校	28 100.0	15 53.6	11 39.3	2 7.1	-	-	3.46	97 9.4
O 専門学校	18 100.0	10 55.6	6 33.3	2 11.1	-	-	3.44	62 6.0

7. 内容の難易度

	件 数	難 し ず ぎ る	や や 難 し い	や や 易 し い	易 し ず ぎ る	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	10 3.2	147 46.8	143 45.5	13 4.1	1 0.3	2.49	780 100.0
A 専門学校	27 100.0	1 3.7	5 18.5	20 74.1	1 3.7	-	2.22	60 7.7
B 専門学校	12 100.0	-	3 25.0	9 75.0	-	-	2.25	27 3.5
C 専門学校	19 100.0	1 5.3	13 68.4	5 26.3	-	-	2.79	53 6.8
D 専門学校	20 100.0	1 5.0	14 70.0	4 20.0	1 5.0	-	2.75	55 7.1
E 専門学校	20 100.0	-	8 40.0	12 60.0	-	-	2.40	48 6.2
F 専門学校	11 100.0	-	9 81.8	2 18.2	-	-	2.82	31 4.0
G 専門学校	24 100.0	1 4.2	12 50.0	11 45.8	-	-	2.58	62 7.9
H 専門学校	46 100.0	1 2.2	21 45.7	23 50.0	1 2.2	-	2.48	114 14.6
I 専門学校	11 100.0	-	1 9.1	9 81.8	1 9.1	-	2.00	22 2.8
J 専門学校	18 100.0	-	5 27.8	11 61.1	2 11.1	-	2.17	39 5.0
K 専門学校	22 100.0	-	9 40.9	11 50.0	1 4.5	1 4.5	2.38	50 6.4
L 専門学校	18 100.0	3 16.7	11 61.1	2 11.1	2 11.1	-	2.83	51 6.5
M 専門学校	20 100.0	1 5.0	10 50.0	9 45.0	-	-	2.60	52 6.7
N 専門学校	28 100.0	1 3.6	10 35.7	13 46.4	4 14.3	-	2.29	64 8.2
O 専門学校	18 100.0	-	16 88.9	2 11.1	-	-	2.89	52 6.7

8. ファシリテータ（教員）の関わり方

	件 数	非 常 に 満 足	や や 満 足	や や 不 満	非 常 に 不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	153 48.7	154 49.0	5 1.6	-	2 0.6	3.47	1084 100.0
A 専門学校	27 100.0	17 63.0	10 37.0	-	-	-	3.63	98 9.0
B 専門学校	12 100.0	4 33.3	8 66.7	-	-	-	3.33	40 3.7
C 専門学校	19 100.0	12 63.2	7 36.8	-	-	-	3.63	69 6.4
D 専門学校	20 100.0	9 45.0	10 50.0	1 5.0	-	-	3.40	68 6.3
E 専門学校	20 100.0	15 75.0	5 25.0	-	-	-	3.75	75 6.9
F 専門学校	11 100.0	6 54.5	5 45.5	-	-	-	3.55	39 3.6
G 専門学校	24 100.0	7 29.2	17 70.8	-	-	-	3.29	79 7.3
H 専門学校	46 100.0	17 37.0	29 63.0	-	-	-	3.37	155 14.3
I 専門学校	11 100.0	8 72.7	3 27.3	-	-	-	3.73	41 3.8
J 専門学校	18 100.0	11 61.1	7 38.9	-	-	-	3.61	65 6.0
K 専門学校	22 100.0	18 81.8	3 13.6	-	-	1 4.5	3.86	81 7.5
L 専門学校	18 100.0	5 27.8	10 55.6	2 11.1	-	1 5.6	3.18	54 5.0
M 専門学校	20 100.0	1 5.0	18 90.0	1 5.0	-	-	3.00	60 5.5
N 専門学校	28 100.0	10 35.7	17 60.7	1 3.6	-	-	3.32	93 8.6
O 専門学校	18 100.0	13 72.2	5 27.8	-	-	-	3.72	67 6.2

9. ファシリテータ（教員）の教え方

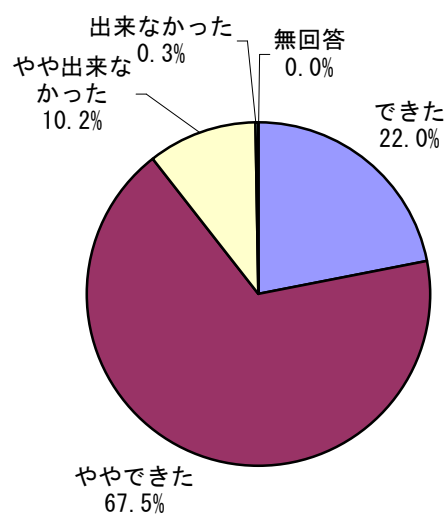
	件 数	非常 に満 足	やや 満足	やや 不満	非常 に不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	173 55.1	134 42.7	5 1.6	—	2 0.6	3.54	1104 100.0
A 専門学校	27 100.0	17 63.0	10 37.0	—	—	—	3.63	98 8.9
B 専門学校	12 100.0	8 66.7	4 33.3	—	—	—	3.67	44 4.0
C 専門学校	19 100.0	13 68.4	6 31.6	—	—	—	3.68	70 6.3
D 専門学校	20 100.0	10 50.0	9 45.0	1 5.0	—	—	3.45	69 6.3
E 専門学校	20 100.0	14 70.0	6 30.0	—	—	—	3.70	74 6.7
F 専門学校	11 100.0	5 45.5	5 45.5	1 9.1	—	—	3.36	37 3.4
G 専門学校	24 100.0	7 29.2	16 66.7	1 4.2	—	—	3.25	78 7.1
H 専門学校	46 100.0	19 41.3	27 58.7	—	—	—	3.41	157 14.2
I 専門学校	11 100.0	11 100.0	—	—	—	—	4.00	44 4.0
J 専門学校	18 100.0	15 83.3	3 16.7	—	—	—	3.83	69 6.3
K 専門学校	22 100.0	19 86.4	2 9.1	—	—	1 4.5	3.90	82 7.4
L 専門学校	18 100.0	6 33.3	10 55.6	1 5.6	—	1 5.6	3.29	56 5.1
M 専門学校	20 100.0	4 20.0	15 75.0	1 5.0	—	—	3.15	63 5.7
N 専門学校	28 100.0	12 42.9	16 57.1	—	—	—	3.43	96 8.7
O 専門学校	18 100.0	13 72.2	5 27.8	—	—	—	3.72	67 6.1

10. 時間配分

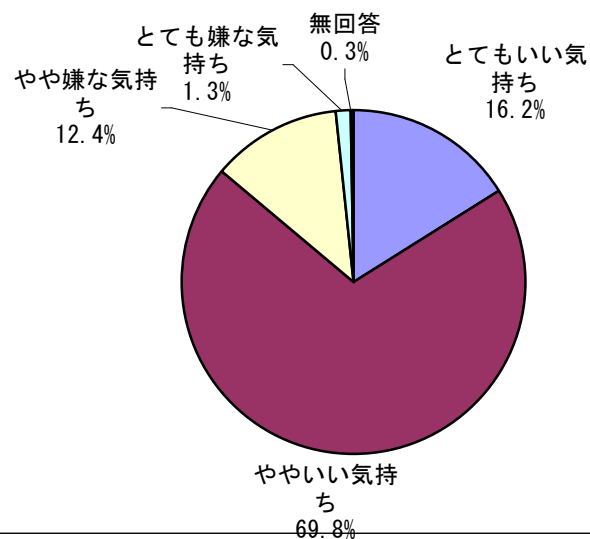
	件 数	非常 に適 切	適 切	やや 不満	非常 に不 満	無 回 答	平 均	実 数 合 計
合 計	314 100.0	61 19.4	198 63.1	52 16.6	3 1.0	—	3.01	945 100.0
A 専門学校	27 100.0	6 22.2	19 70.4	2 7.4	—	—	3.15	85 9.0
B 専門学校	12 100.0	2 16.7	10 83.3	—	—	—	3.17	38 4.0
C 専門学校	19 100.0	6 31.6	11 57.9	2 10.5	—	—	3.21	61 6.5
D 専門学校	20 100.0	3 15.0	11 55.0	5 25.0	1 5.0	—	2.80	56 5.9
E 専門学校	20 100.0	8 40.0	12 60.0	—	—	—	3.40	68 7.2
F 専門学校	11 100.0	4 36.4	6 54.5	1 9.1	—	—	3.27	36 3.8
G 専門学校	24 100.0	5 20.8	13 54.2	6 25.0	—	—	2.96	71 7.5
H 専門学校	46 100.0	9 19.6	31 67.4	6 13.0	—	—	3.07	141 14.9
I 専門学校	11 100.0	2 18.2	6 54.5	3 27.3	—	—	2.91	32 3.4
J 専門学校	18 100.0	6 33.3	7 38.9	5 27.8	—	—	3.06	55 5.8
K 専門学校	22 100.0	4 18.2	15 68.2	2 9.1	1 4.5	—	3.00	66 7.0
L 専門学校	18 100.0	—	14 77.8	3 16.7	1 5.6	—	2.72	49 5.2
M 専門学校	20 100.0	1 5.0	12 60.0	7 35.0	—	—	2.70	54 5.7
N 専門学校	28 100.0	1 3.6	22 78.6	5 17.9	—	—	2.86	80 8.5
O 専門学校	18 100.0	4 22.2	9 50.0	5 27.8	—	—	2.94	53 5.6

【学生用アンケート結果】

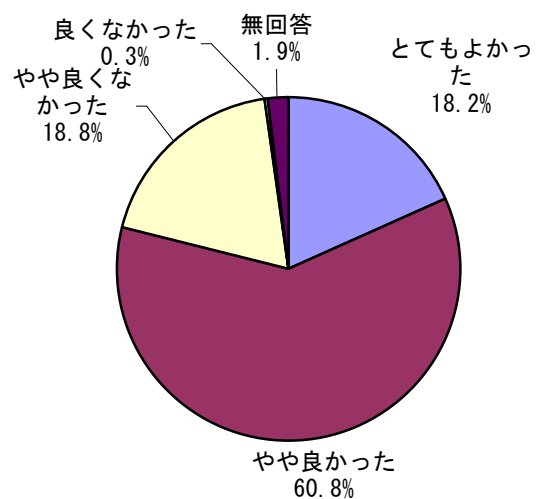
1. 自分の気持ちや考えをどの程度整理できましたか N=314



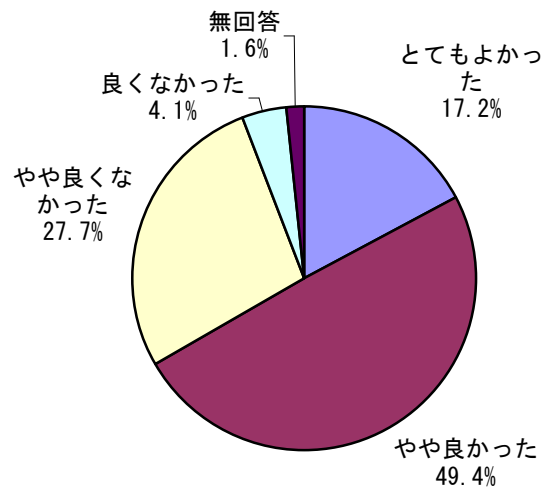
2. 今日の講座でどんな気持ちになりましたか N=314



3. 思ったことを「振り返りシート」などに記入することはどんな感じでしたか N=314

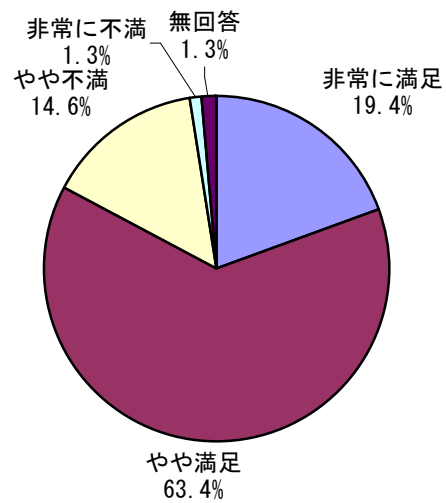


4. 他の方に自分のことを話すことはどんな感じでしたか N=314



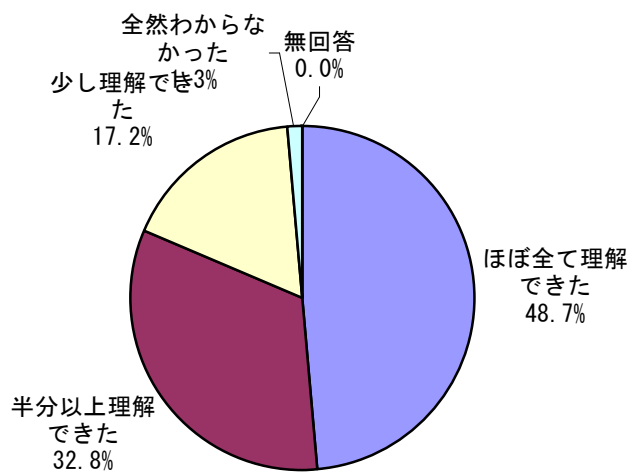
5. 内容の満足度

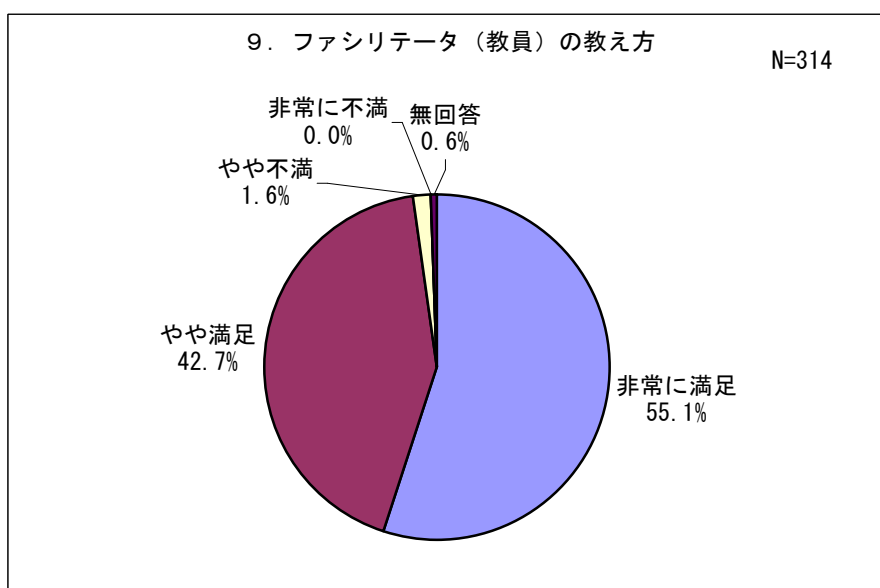
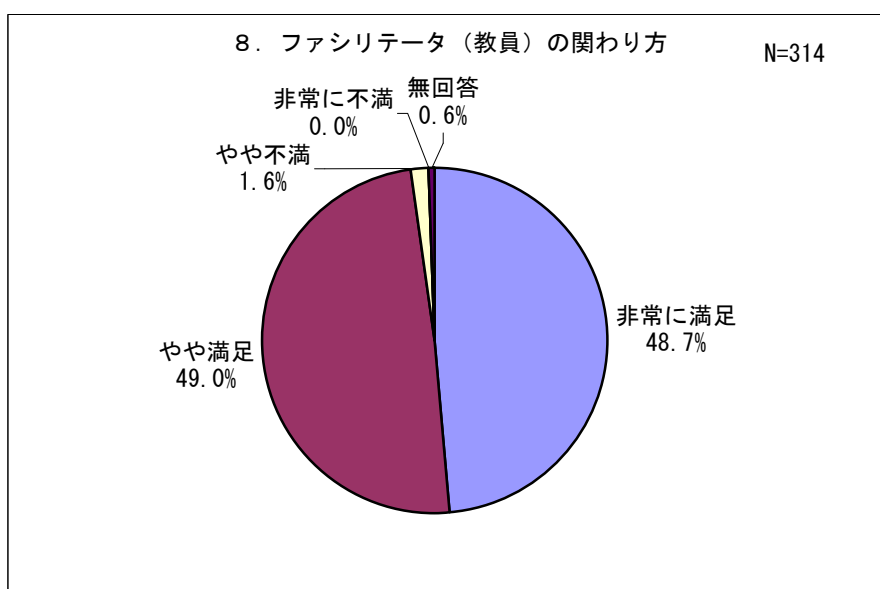
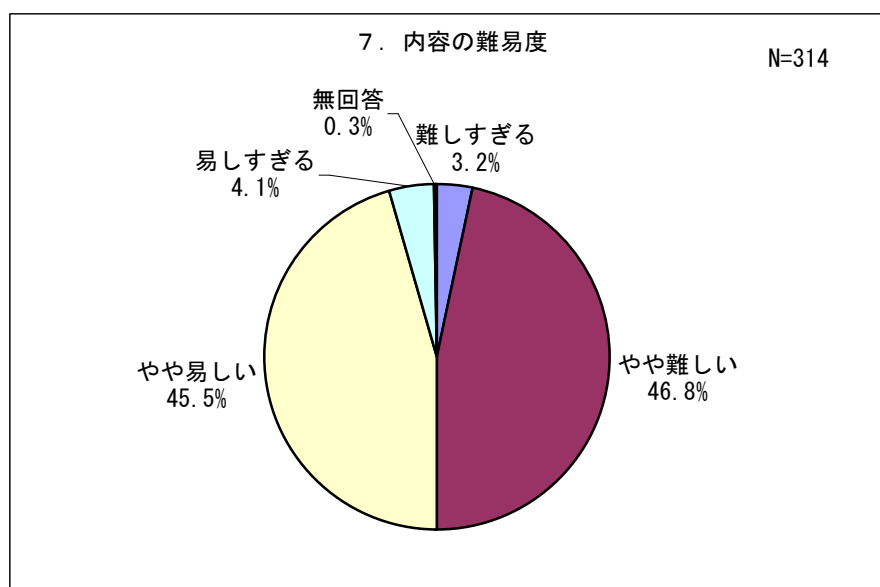
N=314

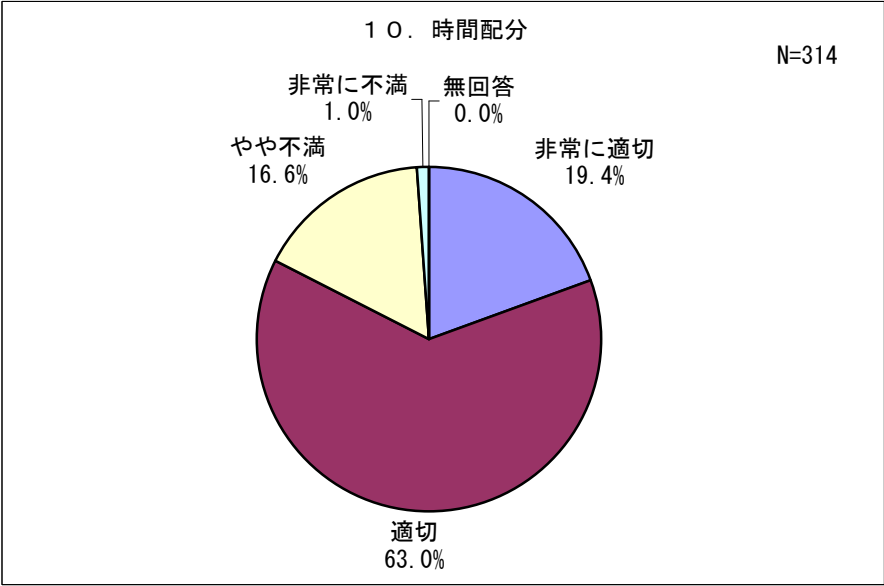


6. 内容の理解度

N=314







Ⅲ 学生教材（報告書掲載版）

P. 47～P. 122 までは、この研究で開発した教材の未定稿です。

これ以降のページ番号は、上が報告書のページ番号、下が教材未定稿のページ番号ですので、ご注意ください。

この根の気
ここの根の気
ここの根の気
ここの根の気
ここの根の気
ここの根の気
ここの根の気
ここの根の気

やややややややややややややややや

やる気の根っこ

未定稿・禁轉載

この根の気や
この根の気や
この根の気や
この根の気や
この根の気や
この根の気や
この根の気や
この根の気や

こころの根っこの

[illegible]

未定稿・禁転載

氏 名 _____

はじめに

誰でも“幸せ”な人生を送りたいと願う気持ちは同じでしょうし、その“幸せ”には人それぞれの様々な形があるでしょう。例えば、恋愛や人や物に恵まれ、スポーツや趣味に夢中になることを幸せと思う方もいるでしょう。あるいは、有償・無償の仕事や役割を持ち、自分らしくあることを幸せと思う人もいるでしょう。このように人の“幸せ”は人それぞれです。そして、“キャリア”も「学歴」や「資格」、「仕事」や「就職」のことだけを表すものではなく、人それぞれの人生そのものであり、それ自体に上下や良い悪いはないのです。

またキャリアとは、「これまで歩んできた人生であり、現在そして、これからの人生」のことなのです。

私たちは、このテキストを通じて、皆さんがこれから幸せな人生を送る(幸せなキャリアを形成する)ために、キャリアをどのように考え、自分自身のキャリアを自ら選択・決定していくために、どのように行動すれば良いのかを“チームの力”を通じて気づき学ぶことを目標に、次のようなステップで学習を進められるようこのテキストを編集しました。

1. ワークシートを使ったセルフワーク (自分自身で考えを深める作業)
2. ワークシートを使ったチーム学習 (互いに気づき、学び合う)
3. リフレクション (振り返って、学びの整理と次への課題確認)

皆さんは、それぞれのステップで、自分の意見や考えを周りの人と共有するとともに、相手の話を素直に聴くことで、“自分にとって他の人にとってないもの、あるいはその逆に気づく”と思います。そして、ひとりでは、達成することのできないことを可能にする“チームの力”の大きさにも気づいていただけたと思います。

理屈では分かっている人も人は行動がなかなか伴わないものですが、“チームの力”を借りることで、モチベーション(動機付け)や、納得してやり通すという意志・意欲を自らがコントロールできるような“やる気の根っこ”を作りましょう。

平成22年4月

財団法人専修学校教育振興会
キャリア教育教材開発委員会



I N D E X

第1章 チーム作業を進めるためのヒント

P2～5

第2章 自己理解

第1節	過去を振り返ろう！	P6～9
第2節	自分を知る手がかり	P10～13
第3節	私の大切なもの探し	P14～15
第4節	私ってどんな人？	P16～18
第5節	なぜ働くの？	P19～23

第3章 仕事理解を深める

第1節	地図を作ってみよう！	P24～25
第2節	ケーススタディで学ぶ実際の仕事	P26～32
第3節	インタビューしてみよう！	P33

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節	模擬店を出そう！	P34～42
第2節	未来カード	P43～45
第3節	背中にエール	P46

参考資料

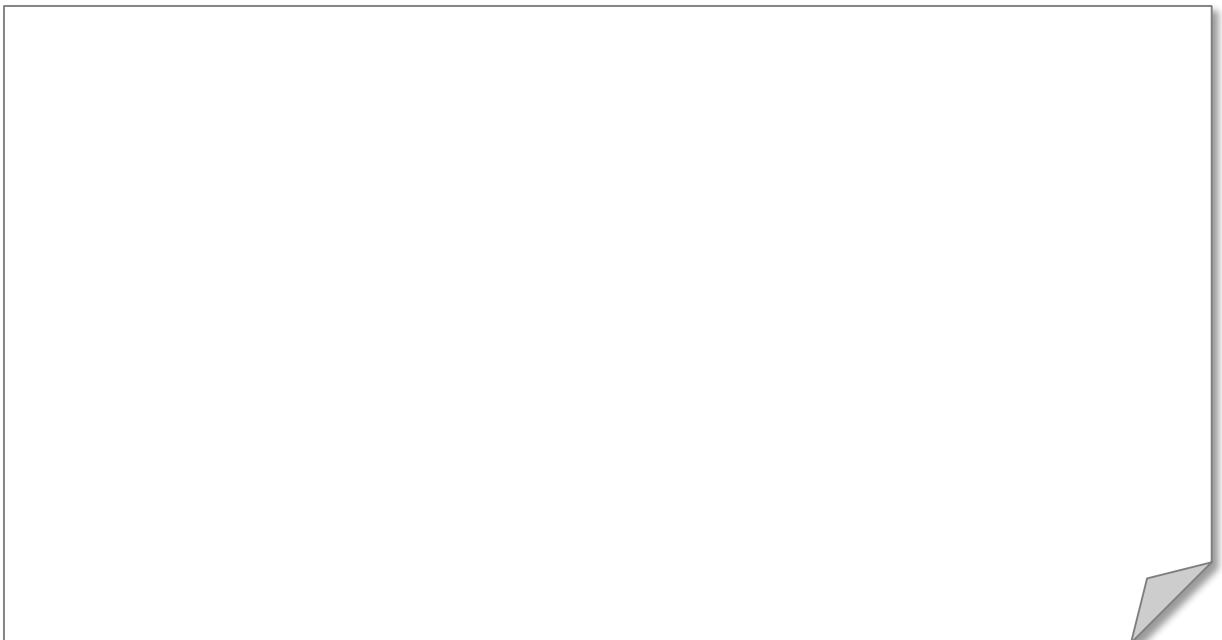
P47～69

楽しくワークをするために♪

これからのワークを楽しく有効にするために、
この時間が全員にとって安全で楽しい時間になるよう、
お互い以下の約束を守って協力しましょう！

- 積極的に、楽しみながら参加しましょう。
せっかくの時間です。いつもとは違う自分のスイッチを入れてEnjoyしましょう。
- 勇気を持って自分の意見を言い、またメンバーの意見は受け止めましょう。
自分の考えと違っていても、否定したり非難したりはしません。
- 話す順序は、なるべくチームの中で話したいと思う人からにしましょう。
強制したりするのはなるべく避け、でも限られた時間を有効に利用するよう
お互いに協力しましょう。
- 聞いたり知ったりした情報は、この授業の中だけの宝物にしましょう。
教室の外で話題にしたり、他の人に話したりするのは禁止です。
- 感心したり、いいなあと思ったりした言葉は、自分のこれからの成長のために
書き留めましょう。
プライバシーにかかわる具体的な話の内容をメモするのは禁止です。

これ以外に、なにか約束があれば皆さんで話し合い、下に記入しましょう！

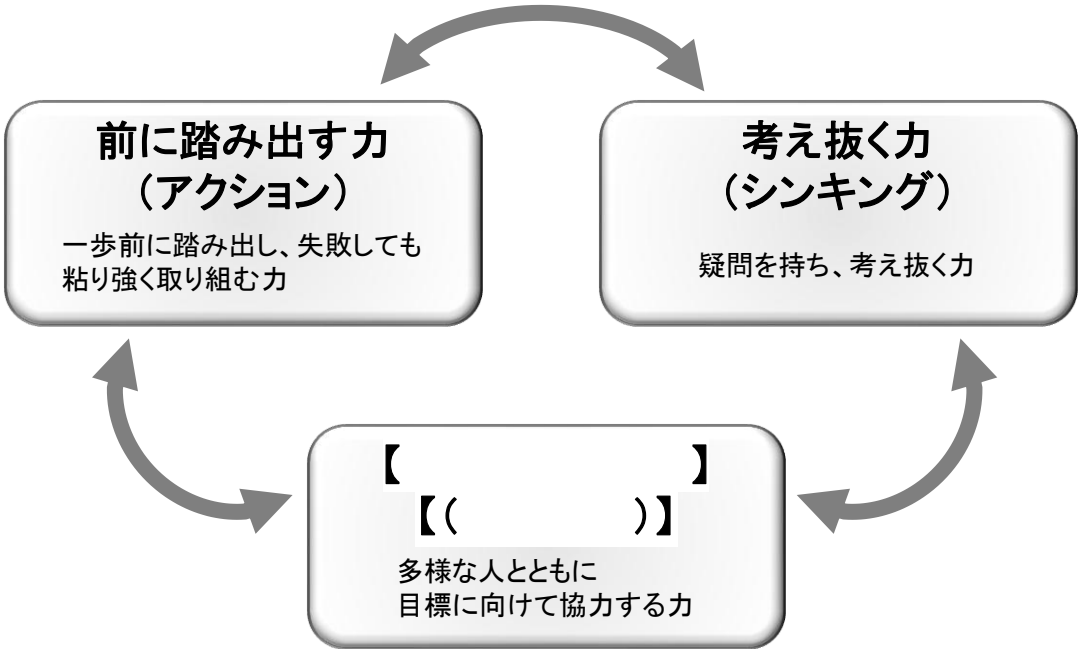


第1章 チーム作業を進めるためのヒント

1. 3つの能力と12の要素

■経済産業省【

】



未定稿・禁転載

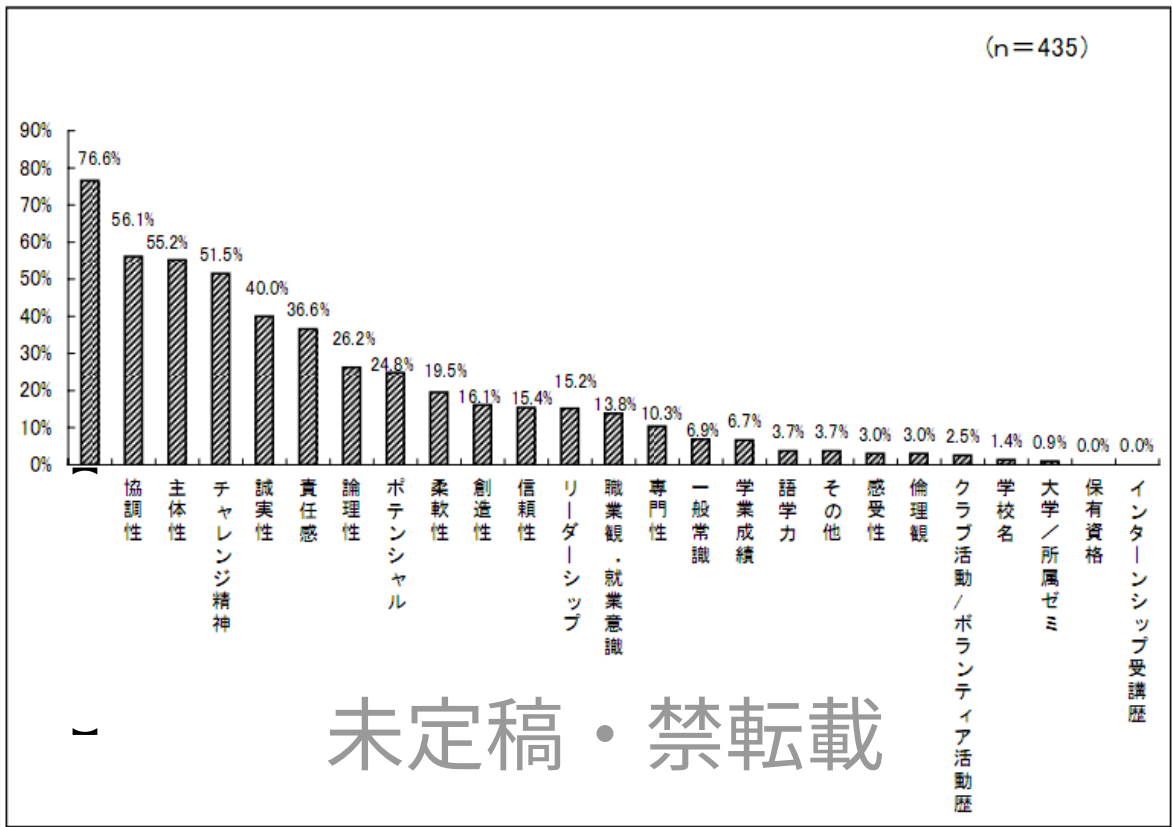
前に踏み出す力	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し、確実に行動する力
考え抜く力	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
【 】	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

経済産業省ホームページより

第1章 チーム作業を進めるためのヒント

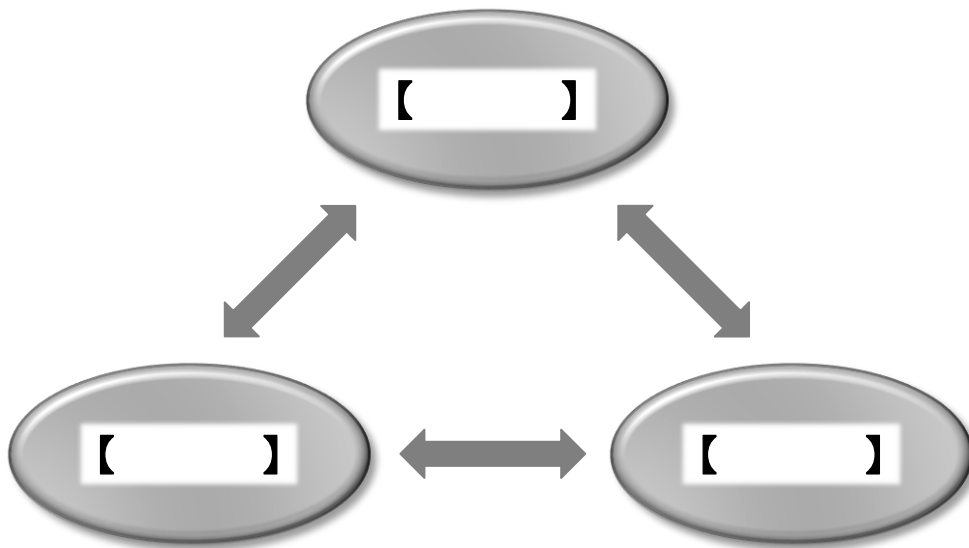
2. 新卒採用で求められる能力

■選考にあたっての重視点(複数回答)



日本経済団体連合会 2008年度・新卒採用に関するアンケート調査

3. 話し合いの意義



第1章 チーム作業を進めるためのヒント

4. チーム力を高めるための鉄則

その1 : 【 ① 】と【 ② 】に切り分ける
→仕切り係は【 ① 】に集中する

【 ① 】 : 進め方、ムード、働きかけ

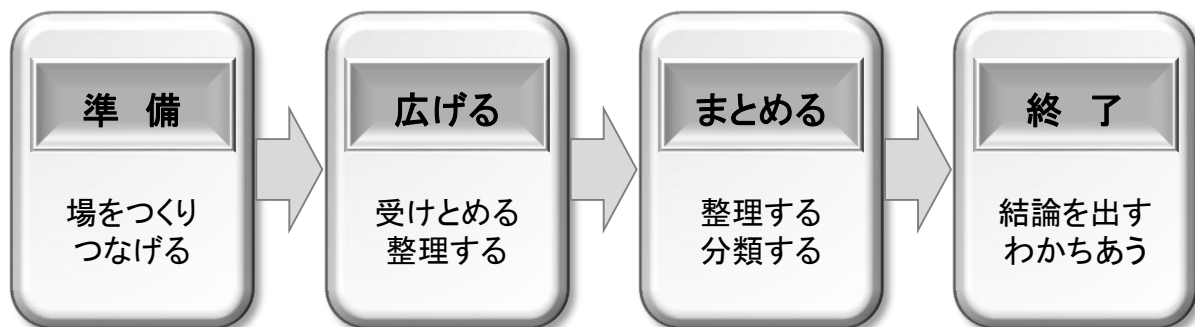
【 ② 】 : 話の内容、情報、知識、経験←参加者

その2 : 【 】を主役にする／【 】な立場

- ・ 自分で「気づいた」「解決した」「決定した」という気持ちに→自己決定感の大切さ
- ・ 発言していない人がいないかの気配り→参加者意識を高める

※誰かに肩入れをするのはNG→【 】な立場

5. 【①】の鉄則:話し合いの進め方



■仕切り係以外の役割

【 】 : 時間管理

【 】 : わかりやすく紙やボードに記録していく

第1章 チーム作業を進めるためのヒント

6. ファシリテーション／ファシリテーター

企業内の【 】などで、
 【 】したり、【 】したり、
 参加者の【 】を確認したりする行為で介入し、
 相互理解を促進し、合意形成へ導き、
 組織を【 】（協働を促進）させる手法・技術・行為の総称。

話し合いの意義は、【 】と【 】と【 】

鉄則

その1 「プロセスとコンテンツ」を分ける → ファシリテーターは【 】を！

その2 話し合いの主役は【 】、ファシリテーターは常に公平な立場で！



第2章 自己理解

第1節 過去を振り返ろう！

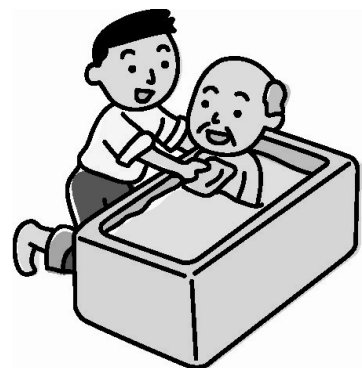
1. K君のお話から

■各自読んでみましょう

K君は、理学療法士を目指していましたが、2年連続で不合格となり、仕方なく、何となく、社会福祉学科に入学をしてきました。しかし、どの授業にも興味を持てず、授業に出ても、ただ座っているだけだった・・・とK君も、当時の彼を知る先生方も言います。

この学科は、国家試験受験のためにたくさんの現場実習がカリキュラムに入っています。入学して2ヶ月後、初めての实習先は高齢者施設でした。介護の助手として、食事の介助やおむつの交換が主な実習内容でした。福祉の仕事を目指して入学してきた学生にとっても、初めての実習は、思いと現実のギャップに直面する経験でもあります。それだけに、K君にとっては、とんでもなくつらい体験でした。まず、消毒液の臭いがつらかった、そして排泄介助もつらかったと言います。「俺が目指してたのは、理学療法士なんだよ。なんで俺は、こんなところでおむつ換えてんだよ。」と心の中でつぶやく毎日だったそうです。「もう実習やめさせてもらおう・・・」と思い始めていたときに、入居者のTさんから、「ありがとな・・・」と声をかけられたのだそうです。「えっ？俺？」こんなにイヤイヤ実習やってるのに、そんな自分に「ありがとう」と言ってくれる人がいるということに、ほんとうに驚いて、そして、ほんとうにうれしかったと言います。初めて、自分が誰かの役に立てた喜びを味わうことができ、自分が求めていたのは、この喜びだったのだと気づいたと言います。

K君は、その後、社会福祉士の国家資格を取り、今も、デイサービスでソーシャルワーカーとして働き続けています。



第2章 自己理解

第1節 過去を振り返ろう！

2. K君のお話から ～ワークシート～

■K君が進路を決めた理由は何だったと思いますか？

■K君はTさんの言葉で、気持ちに変化が生まれました。K君はどんなことに気づいたと思いますか？

未定稿・禁転載

■あなたが専攻を決めた理由は何でしたか？

■チームのメンバーはどんな理由で専攻を決めていましたか？気づいたことを書いてみましょう。

第2章 自己理解

第1節 過去を振り返ろう！

4. 私が燃えるわけは？

- ①「仕事の根っこ(人生の根っこ)」で記入したこれまでの出来事(ライフ・イベント)を振り返りながら、特にプラス(+)を参考に一番燃えてた(ヤッターと感じた)のは、いつ頃で、どんなことをしていた時、どんな風に思ったり感じたり考えたのでしょうか。またどうして燃えたのでしょうか。

いつ頃	どんなことをしていた
	思ったこと、感じたこと、考えたこと
	どうして燃えたのか

- ②「仕事の根っこ(人生の根っこ)」で記入したこれまでの出来事(ライフ・イベント)を振り返りながら、特にマイナス(ー)を参考に一番イヤだった(落ち込んだ)のは、いつ頃で、どんなことをしていた時、どんな風に思ったり感じたり考えたのでしょうか。またどうして燃えなかったのでしょうか。

いつ頃	どんなことをしていた
	思ったこと、感じたこと、考えたこと
	どうして燃えなかったのか

- ③「燃える」ためになくてはならない条件と、あってはならない条件を箇条書きに書き出しましょう。

必要な条件	あってはならない条件
○	○
○	○
○	○
○	○
○	○

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

□ 私の「心の四つの窓」

あなたは自分にどんなイメージを持っていますか？ 明るい、前向き、消極的、人見知り・・・
 こういう自分のイメージを自画像と呼んでいます。では、周囲に映っている姿（他画像と呼んでいます）はどうでしょうか？ ワークを通して、自分を知る手がかりを見つけましょう。

STEP 1

- 参考資料のカード(p. 63)を切り取り、1枚に自分の名前を記入します。
- 自分のイメージを5つ選んでそのカードに記入します。
- あまり考え込まずに、直感で選びましょう。
- 残りのカードにメンバーの名前を記入しておきます。

STEP 2

- チームのメンバーでお互いにいろいろな質問をしましょう。
- 質問タイムで、あなたが感じた相手の印象を5つ選んで、相手の名前を書いたカードに記入して、相手に渡します。
- カードは伏せておきましょう。

未定稿・禁転載

STEP 3

- 自分が記入したカードとメンバーからもらったカードを集計して、その結果を私の「心の四つの窓」ワークシート(p. 11)に記入します。
- 先生の手順に合わせて進めていきましょう。

STEP 4

- ワークをやって気づいたこと、感じたことをワークシートに記入します。
- チームで、自分の気づきや感じたことを発表しましょう。
- チームの代表からメンバーの気づきや感じたことを発表しましょう。

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

□ 私の「心の四つの窓」
～ワークシート～

	自分が知っている					自分が知らない				
他人が知っている	(1) -	【① 窓】	(1) -	【② 窓】						
	(2) -		(2) -							
	(3) -		(3) -							
	(4) -		(4) -							
	(5) -		(5) -							
	(6) -		(6) -							
	(7) -		(7) -							
	(8) -		(8) -							
	(9) -		(9) -							
	(10) -		(10) -							
他人が知らない	(1) -	【③ 窓】	(1) -	【④ 窓】						
	(2) -		(2) -							
	(3) -		(3) -							
	(4) -		(4) -							
	(5) -		(5) -							
	(6) -		(6) -							
	(7) -		(7) -							
	(8) -		(8) -							
	(9) -		(9) -							
	(10) -		(10) -							

■ワークを通じて気づいたこと、感じたことを書いてみましょう。

■4つの窓の大きさはどうでしたか。それについてどう思いましたか。

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

□ 私の「心の四つの窓」

～質問の例～

信号守る？ 好きな名言格言ある？ ダメなことはダメと言える？

やらねばならぬことをやりとおす？それともまっいいか？ あいさつは自分からする？

5分前に着く？ 人を待たせる？ 自分の信念ありますか？ 思ったことはやりとおす？

仕事と遊ぶのどちらが好き？ 約束守る？ 人に厳しい？

子供好き？ 自分は人に優しいと思う？ 困っている人見ると放っておけない？

人に優しくするとき抵抗ない？ 世話を焼くの好き？ 人の話はよく聞く？

それとも自分がしゃべる？ 異性にしてあげたいことは？ お年寄りに優しくできる？

人を理解したい？ よく相談する？ 励ますの好き？ 甘えを受け入れられる？ 笑顔できる？

時間守れる方？ 遅刻多い？ 旅は計画たててから？ それとも行き当たりばったり？

財布には決まったお金はいってる？ お金は計画立ててから使う？ 説明するの好き？

衝動買いする？ なぜだろうと考える？ 寝る時間決まってる？ よく考えてから行動する？

人を見るの好き？ 状況を良く考える？ 新聞よく読む？ 理屈言う？ 冷静？

好きな色は？ TVは？ 歌手は？ 場所は？ 季節は？ 感情を顔にすぐ出す？

宝くじが当たったら？ どんな遊びが好き？ 活発？ 元気？ 自分の顔のどこが好き？

楽しいことは何？ 場を明るくしたい？ にこにこしてる？ すぐにかっとする？

恋人とどこ行きたい？ よくひらめく？ イヤダ！とすぐ言う？ 積極的にとりくむ？

好奇心旺盛？

人に合わせられる？ 頑固？ 人に気を遣う？ くよくよする？ おとなしい？ 耐える方？

根性ある？ けんかは見て見ぬ振り？ それとも仲裁に入る？ 憂鬱になること多い？

周りの人が気になる？ 人に甘える？ 人にいろいろ頼む？ 協力する方？

「すみません」とよく言う？ 遠慮する方？ 一人で閉じこもる？ 指示を素直に受ける？

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかかり

今日のまとめ

1. 【 】との関わりで生きている。
2. 判断するのは、【 】。
3. コミュニケーションは、まず【 】を知ることから。

未定稿・禁轉載

4. 【 】とは、【 】を大きく、
【 】を小さくすること。
5. 【 】は、【 】の積み重ね。
6. お互いが【 】ことから始めよう。

第2章 自己理解

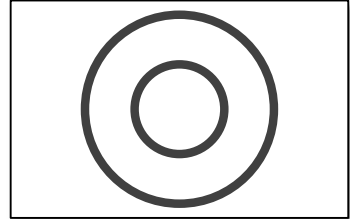
第3節 私の大切なもの探し

1. 「私の大切なもの探し」ワークの進め方

自分は普段どのように考え、どのように動いているのかを知ること、自分のものの考え方の特徴や態度、行動の仕方などに気づいて見ましょう。

STEP 1

- A3の用紙を用意し、右図のように自分を表す丸を自由に描きます。
- 中央の円に、自分の名前やニックネームを書きます。



STEP 2

- 参考資料の用語集(p. 65)を見て、(自分の態度／行動の仕方／考え方の特徴／大切なこと／周りからよく言われること)などで、用語集にないものがあれば、空欄に記入しましょう。
- 用語集を線にそって切ります。ハサミを使わず定規で切ってもかまいません。

STEP 3

- 中央に自分の名前を書いたA3用紙に、切り取った用語を置いていきます。
 - ・ 自分の名前とそれぞれの言葉の距離や位置を考えながら配置します。
 - ・ 例えば自分にぴったりの言葉を自分の近くに置いたり、あるいはその逆に遠くに置いたりしてみるのもよいでしょう。
 - ・ 言葉同士の関係も考えて位置を決めてください。例えばよく似たものをそばに置いたり、その逆というようにしてもよいでしょう。
 - ・ 用語集の言葉は全部使い、自分と直接つながらないと思う言葉も、どこかに仮に置いてください。

STEP 4

- 自分なりにそれぞれの言葉の位置が決まれば、のりで貼り付けます。
- 貼り終わったら自分なりに分類して、色鉛筆で色分けします。
- 分類の基準は自分で決めてもよいですし、また決めなくても構いません。

STEP 5

- 完成したら、まず眺めてみましょう。
- さらに色鉛筆でもっと自分に近付けたい言葉は、中央に向けて、遠ざけた言葉は外に向けて矢印を書いてみましょう。

第2章 自己理解

第3節 私の大切なもの探し

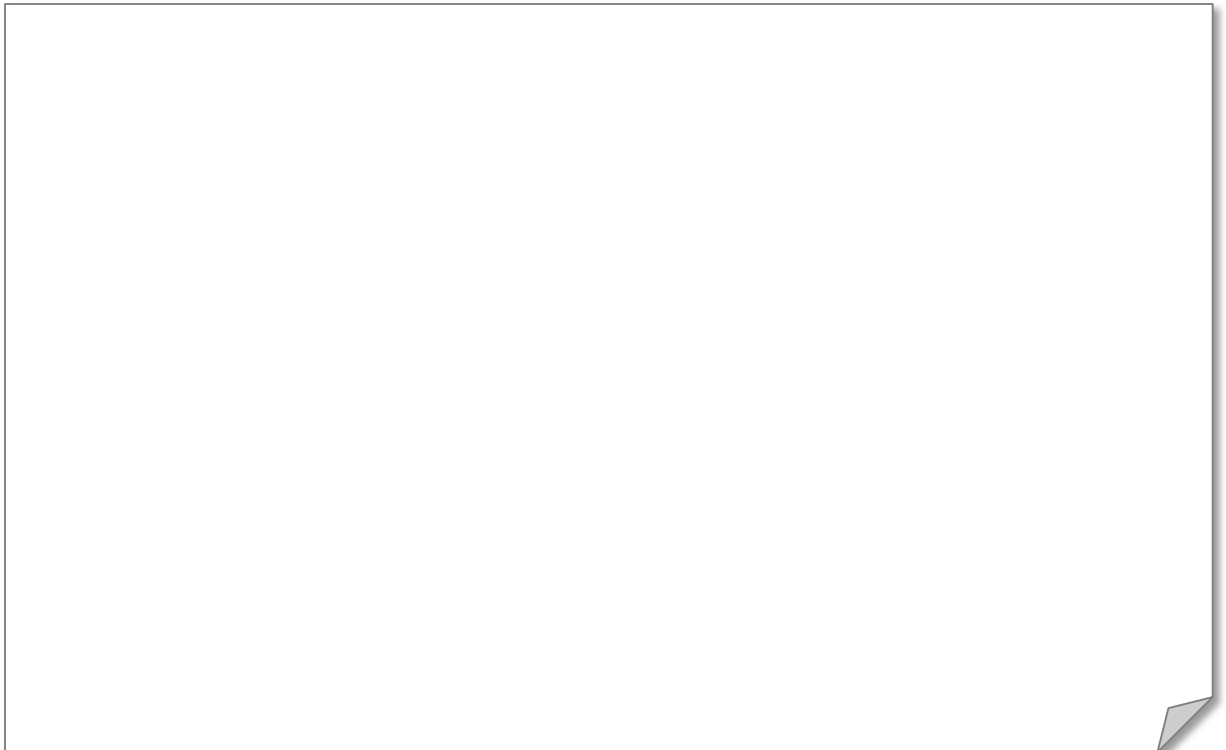
1. 「私の大切なもの探し」振り返りシート

■自分の大切なことは何か、やってみた感想を記入しましょう。



未定稿・禁転載

■チームの話し合いが終わったら、メンバーからもらった感想や自分の気づきを記入しましょう。



第2章 自己理解

第4節 私ってどんな人？

1.『ネガポジまっぷ』を作ろう（自分の強みを知る）

今の自分の強みはどんなことだと思いますか？

自分が少し自信を持てること、得意だと思うことはどんなことですか？

あなた自身を客観的にとらえ、自分の強み・弱み、長所・短所について知っておくことは大切なことです。

『ネガポジまっぷ』のワークを通して“自分の持ち味”、“自分らしさ”を見つめてみましょう。

STEP 1

- A4用紙にまっぷシートの作成例(p. 18)のような『ネガポジまっぷ』シートを作ります。
- シートの右半分に、自分の強み、得意とすること(知識・才能・特殊能力・ユニークさなど)を、左半分に自分の弱み、苦手なこと、改善したいことを書いていきます。
- 中心から放射状に広がるように、キーワードを線と丸ワクでつなげていきます。
- 線と丸ワクは、強み→赤ペン、弱み→青ペンで描きましょう。

STEP 2

- STEP 1 で書いたキーワードの丸ワクの周りに、その理由を書きます。
- 「なぜ？」「理由は？」「どんなふうに感じている？」というような問いかけをしながら線と丸ワクでつなげていきましょう。

未定稿・禁転載

STEP 3

- 弱みのキーワードがもし、見方を変えて長所や強みになったら、赤ペンを使ってつなげてみましょう。
 例) 気が強い → 負けん気が強い、粘り強い
 おとなしい → じっくり物を考える

STEP 4

- 『ネガポジまっぷ』が完成したら、全体を眺めて感じたことを記入しましょう。

第2章 自己理解

第4節 私ってどんな人？

2.『自己PRまっぷ』を作ろう

第2章の1節からの4つのワークを振り返り、自己紹介をするための『自己PRまっぷ』を作りましょう。

STEP 1

- A4用紙の中心にまっぷシートの作成例(p. 18)のような、“自分”をイメージするイラストを描きます。
イラストがうまく描けない人は、ハート♥でもマーク😊でも何でも構いません。

STEP 2

- 中心イラストから放射状に自己PRしたい情報を書いていきます。
- 「私ってこんな人」と相手に伝えるため、4つのワークを振り返り、メインとなる特徴や特性、性格などをキーワードで書き込みます。
- 『ネガポジまっぷ』と同じように、キーワードを線と丸ワクでつなげていきます。
- 線と丸ワクの色は何種類使っても構いません。関連性のある項目ごとに色分けをしていきましょう。

STEP 3

- メインキーワードが書けたら、その周りに理由やエピソードを書きます。
- このとき、なるべく短い言葉で、絵文字や記号を使って楽しく書いていきましょう。

STEP 4

- まっぷが完成したら、発表用に原稿を作ります。

STEP 5

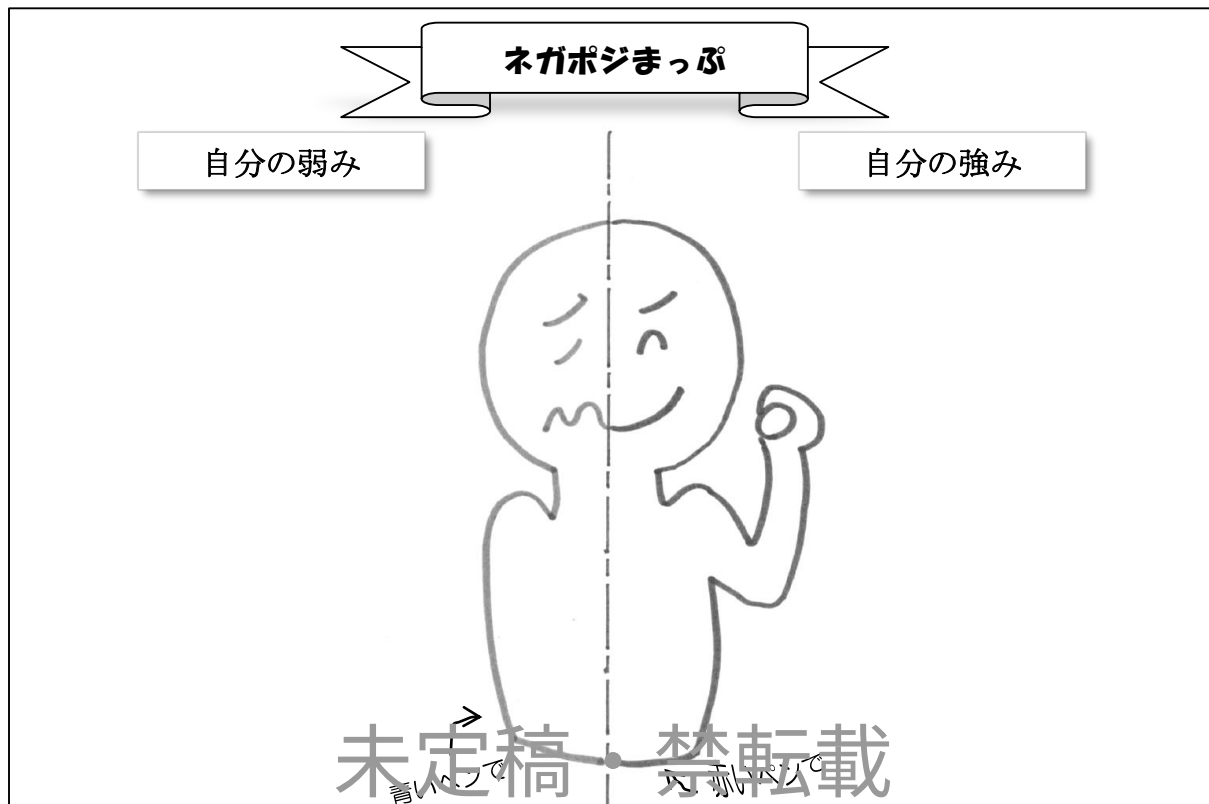
- できあがった『自己PRまっぷ』を見せながら、一人1分30分程度でメンバーに対して発表します。
- 発表が終わったら、メンバーは一言ずつ感想を言いましょう。

第2章 自己理解

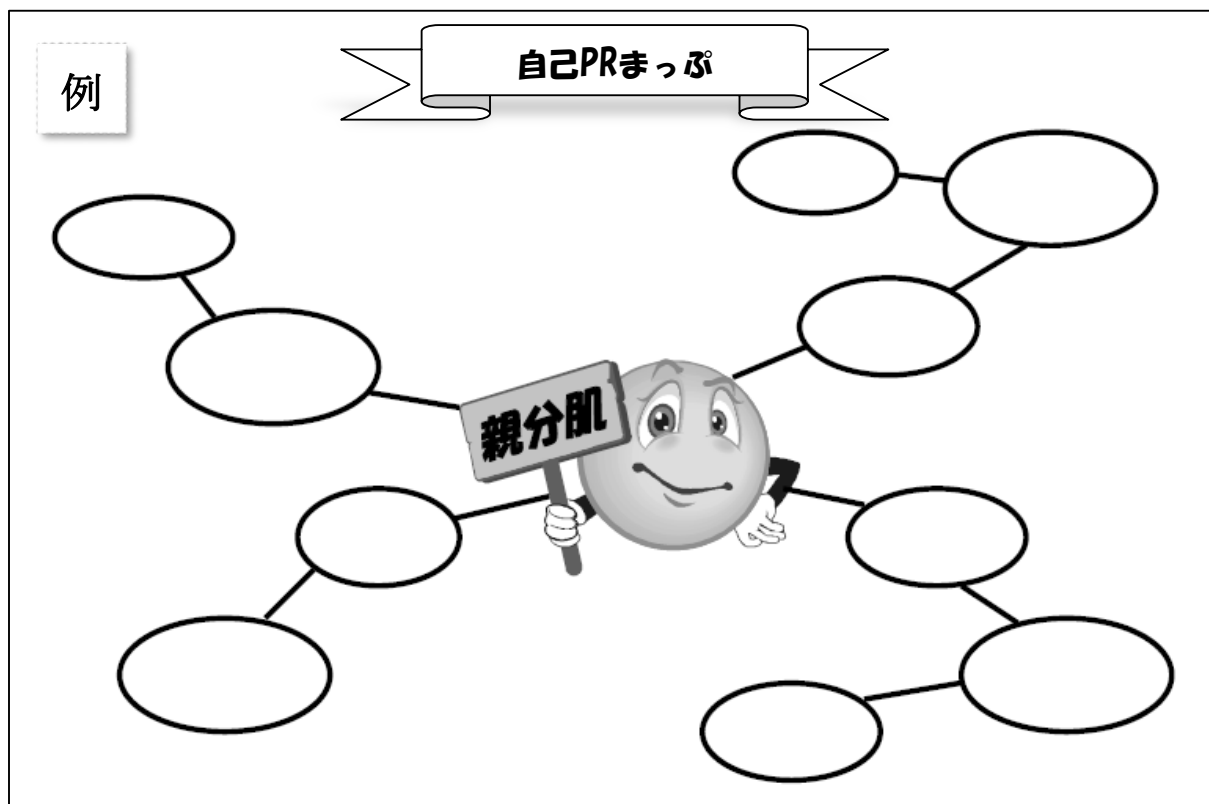
第4節 私ってどんな人？

□ まっぷシートの作成例

《ネガポジまっぷ》



《自己PRまっぷ》



第2章 自己理解

第5節 なぜ働くの？

CASE 1 Yさんのお話から

■各自読んでみましょう

Yさんは、将来、福祉の仕事をしたいと思い社会福祉の学科に入学しました。

在学中から実習やボランティアに積極的に参加し、卒業後は、長くボランティアをしてきた施設から、職員として働いて欲しいと声をかけられ、希望にあふれて入職しました。

4月から、これまでボランティアとして経験してきた仕事を中心に担当し、順調なすべり出しができたと思っていましたが、2ヶ月が過ぎる頃から、自分の気持ちがこれまでと違っていると感じるようになりました。「みんな忙しいから、私も一人で頑張らないと・・・」と、不安な思いを誰にも伝えられずにいるうちに、気持ちがいっぱいになりました。

ある日、ちょっとしたことがきっかけとなって、これまで抑えてきた気持ちがあふれてしまい、「もう、続けられません。ごめんなさい。」とメモを残して、雨の中、施設を飛び出してしまったのです。気持ちが落ちついて、職場に戻ることはできたのは10日後でした。それでも気持ちのバランスが取れず、就職をして1年後に退職をしてしまい、受験する予定だった国家試験も受けませんでした。「もう自分は福祉には向かない、もっと気楽にできる仕事でいい」と考え、それからは、福祉と関係のないアルバイトで生活をしていく日々を送りました。

半年が過ぎたころ、Yさんは、何か物足りなさを感じるようになりました。なぜだろう？と考えました。「バイトは代替りの人がいるし、この仕事を一生続ける訳にもいかないし・・・」そして、また考えました。「私は、本当は何がしたいんだろう？」「なぜ施設の仕事をやめてしまったんだろう？」そして、こう思いました。「職員になって、利用者さんにもっと深く関わって、力になれたと思うことが、自分にとっての喜びややりがい。でも、専門職としての知識も経験も足りないことに直面して、自分のことだけで精一杯だった。でも、Dさん、また、お酒飲んでないかなあ？Eさん、センターに来てるかな？って、今でも気になっている。」

そして、もう一度、福祉の道に戻ってみよう、と決めました。アルバイトを続けながら、半年後の国家試験に向けて勉強を始め、見事に合格しました。国家試験に向けて学び直したことで福祉の専門職として求められる基礎知識もつき、自信もつきました。そして、自分が福祉の道を志した思いに立ち戻り、新たな施設で専門職として働き始めました。

Yさんは、新卒で就いた仕事で、壁にぶつかりました。自分だからこそできる仕事があると思っていたのに、専門職としての能力や適性がないのではないかという厳しい現実にも直面しました。いったん道をあきらめたYさんと呼ばひ戻してくれたものは、自分のことを必要としてくれた人がいたこと、そんな自分でも、利用者さんの力になれた瞬間があったという経験でした。

第2章 自己理解

第5節 なぜ働くの？

□ Yさんのお話から ～振り返りシート～

■ Yさんはなぜ働き始めて壁にぶつかったのだと思いますか？

■ Yさんは福祉の道に戻りました。どんな気づきがあったと思いますか？

■ Yさんにとっての「働く意味」はどこにあると思いますか？

■ チームのメンバーで「働く意味」について話し合い、気づいたことを書いてみましょう。



第2章 自己理解

第5節 なぜ働くの？

CASE 2 S君のお話から

■各自読んでみましょう

S君は、情報経営を専攻する学生でした。

卒業時には、学生ではむずかしいと言われる国家試験に合格しておきたいと考え、就職活動を早く始めて夏休み前には、国家試験対策の勉強に専念しようと考えていました。そこでかなり早い時期から就職活動を始めました。まずインターネットなどの就職情報に積極的にアクセスし、ここぞと思った企業にはエントリーを行い、各社の説明会などにも参加しました。そして、多くの人が知っている大手といわれる企業を最初の受験先として選びました。

その企業で勤務するには、自宅を離れる必要がありましたが、親も「そんな有名な企業ならばいいよ」と言ってくれたことも彼の背中を押したようです。しかし結果は不合格。原因は面接試験で「あなたの学んだ専門知識や技術をどのように活かして行きたい？」と質問されても答えられなかったことのようにでした。不合格であったという結果と、同じクラスの人が別の企業から内定をもらったことにも意気消沈してしまいました。その時点でのS君にとっての最優先事項は「同級生の誰よりも早く内定を獲得する」ことだったのです。

しばらくして就職活動を再開しましたが、就職担当の先生から「A社を受けてみないか？」と勧められても、「給料はまあまあだけど、通勤に時間がかかる」、では家から近いB社は？「規模が小さいから、親がやめとけて言っています。」それならば中堅企業のC社は？「家から近いけど、給料が安いので…まだA社のほうが良かった」などと堂々巡りするばかりでした。面接対策のセミナーにもよく参加するのですが、なぜこの会社に入社したいのかという志望動機や入社後何をしたいのかという質問に対する回答からは熱意が伝わってきませんでした。複数の企業の採用試験に挑戦はしたのですが、彼の知識や技術の未熟さを補うだけの必死さや覚悟が伝わらない面接では、良い結果につながることはありませんでした。

そのまま就職先が決まらない状態でしたが、夏休み以降、国家試験に向けての学習は重ね、結果発表があった1月末には見事に国家試験には合格しました。しかし卒業式まで残り1ヶ月の時期でした。結果の報告をかねて就職指導の先生のところへ来て、「どこかいい会社ないですか？」と尋ねてきました。

すると就職指導の先生は「皆が会社名を知っていて、給料がよく、家から近い会社を君が希望することは間違っているとは思わない。でも、なぜまだ内定がもらえてないのだろうか？自分にとって大切なことって何なのだろう？何のために働くのだろうか？いちど自分に聴いてみて。」と言いました。

その後彼は、家から離れて一人暮らしをすることが必要であり、会社の規模も大きくないが、業界内で評価の高い技術をもっている企業の採用試験を受け、見事に内定を得ました。

「先生に言われてから考えました。何を目指してこの学校に入学してきたのだろうか？そして勉強してきたことをどのように活かしていきたいとしているのだろうか？そして、自分がやりたいことは、新しい分野で、しかも育成プログラムがあり先輩の指導が受けられる企業で働くことだと考え、チャレンジだとは思いましたが、新入社員や若手社員に求められることは何かなどを考え面接に望みました。専門的なことも質問で聞かれましたが、それなりに答えられたと思います。面接官に“目標を持っているね”と言われた時、はっ！としました。」

彼はいま、すばらしい先輩たちにも囲まれて、社会人として歩み出しています。

第2章 自己理解

第5節 なぜ働くの？

□ S君のお話から ～振り返りシート～

■ S君は就職の条件にどんなことを優先していましたか？
また、それが、どのように変化していききましたか？



■ あなたは仕事の価値をどのようなところに置きますか？ 5つ書いてみましょう。
書き終えたら優先順位をつけてみましょう。

仕事の価値	順位
	()
	()
	()
	()
	()

■ チームのメンバーは、どんなところに価値を置いていましたか？
気づいたことを書いてみましょう。

第2章 自己理解

第5節 なぜ働くの？

CASE 3 なぜ働くの？

①「私はなぜ働くのか」について、改めて自分の思いを考えてみましょう。

②チーム内で各自の「私が働くのは…」を話してみましょう。

未定稿・禁転載

③感想があれば記入しましょう。

第3章 仕事理解

第1節 地図を作ってみよう！

1. 仕事の進め方

- ① 仕事には【 】がある。
⇒時間、隣に行かないと見られない、見た人は書けない。
- ② 受け取る人の【 】を理解する。
⇒65歳以上向け、観光ガイド。
- ③ 【 】どうしたら応えられるか、と考え話し合う。
⇒進め方を考える、役割分担。
- ④ 【 】を提供する。
⇒実際に作業をする、成果を出す。

2. 仕事を上手に進めるには

- ① それぞれのメンバーが持っている【 】を発揮する。
- ② 【 】に応じて、役割分担をする。
- ③ 常に【 】を忘れずに、仕事を進める。

3. コミュニケーション特性

- ① 題の地図を正確に見て、他の人に伝える。
→観察力や分析力に優れている可能性が高いタイプ。ものごとを深く見たり、その事実を正確に捉えることが得意です。
- ② 時間内にきちんと仕上げられるように時間を管理する。
→緻密さや正確さに優れている可能性が高いタイプ。指示に従い、規則や習慣を重んじ、責任を持って仕事をやりきることが得意です。
- ③ お年寄りが喜んでくれるように工夫をする。
→アイデアや発想力に優れている可能性が高いタイプ。独創性や想像力に恵まれていて、常に新しいチャレンジや楽しみを見つけることが得意です。
- ④ 常に目的を忘れず、目的に沿った仕事ができているようにチームを持っていくこと。
→バランス感覚や統率力に優れている可能性が高いタイプ。指導力や説得力、表現力があり、物事の真理を見極め、本質を追求することが得意です。
- ⑤ チームがうまく話し合いをできるための雰囲気を作ること
→サービス精神があり、受容力(人を受け入れる力)に優れている可能性が高いタイプ。責任感が強く、洞察力があり、他の人の才能を活かしたり、元気付けることが得意です。

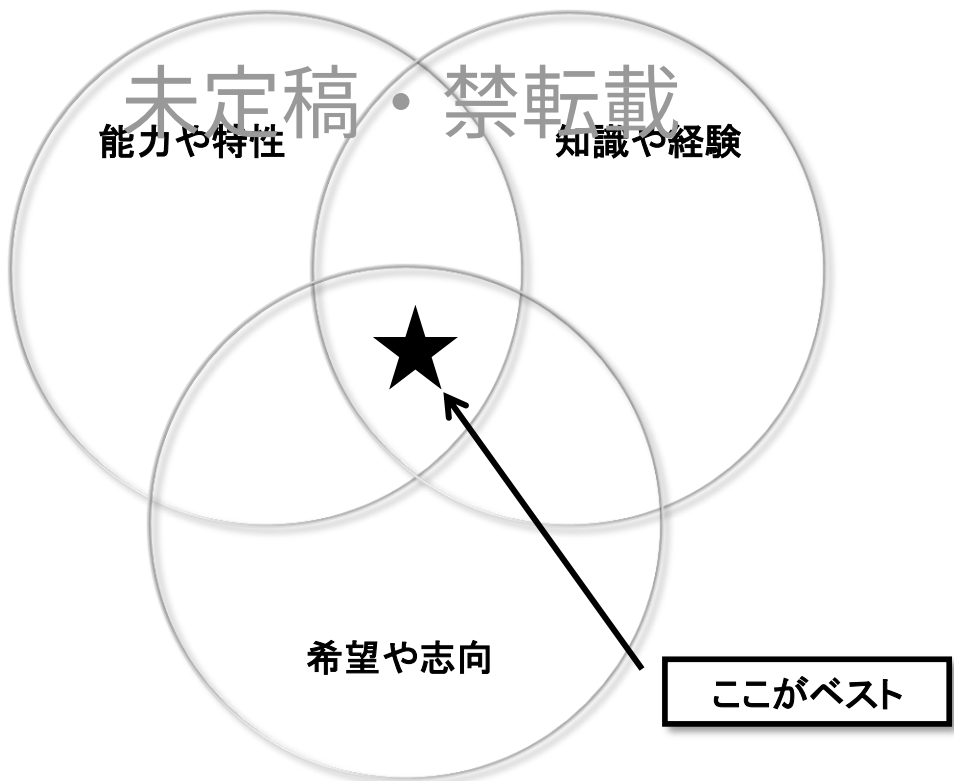
第3章 仕事理解

第1節 地図を作ってみよう！

4. 私のコミュニケーション特性

先ほどのワークの結果とメンバーからもらったコメントを書きましょう

3つの大切な軸 = 仕事の根っこ



アイデア提供：
株式会社 アイデアガレッジ
代表取締役社長 西尾竜一氏

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

卒業後、それぞれの職場で活躍をしている自分自身を意識しながら、次の各ケース文を読んだ感想を記入欄へ書いてください。

また、チームで話し合ったり、解説を聞いたりした結果、気になる言葉などがあれば、メモ欄に書きとめておいてください。

CASE 1

配属の決定

新入社員研修の終盤に、配属先の希望を聞かれた。

本当は第1希望に行きたい気持ちが90%だったが、第3希望まで記入するようにと指示があったので、3つの希望を挙げた。実際の配属先の発表では、あまり興味のない第3希望の部署であった。

他のメンバーは、ほぼ希望通りだったのに。

感想記入欄

未定稿・禁転載

メモ：チームで話し合って気がついたことなど

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

CASE 2 電話対応

電話に出ると、外出中の課長への顧客からの電話だった。外出しているとのことを伝えると、“ではこちらから、また電話します”と言われたので、そのまま挨拶をして電話をきった。

翌日、課長が“誰か〇〇会社の△△さんからの電話受けなかったか？”とやや怒った感じでいったので、“はい、ありました”と答えたところ、“なぜ、伝えてくれないんだ。先方怒っているよ”と言われた。

感想記入欄

未定稿・禁転載

メモ：チームで話し合って気がついたことなど

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

CASE 3 クレーム処理

お客様からの電話で、先日購入したばかりの機器がうまく機能しないとのクレームがあった。かなり怒っていて、“すぐに修理に來い！でないと 賠償請求するぞ”との勢いである。“保守サービス担当ではないので・・・”といったが、“じゃすぐに連絡して対処しろ”と言われた。保守サービス部門や自分の課には誰もいない状況であった。この後あなたはどのように行動しますか？

感想記入欄

未定稿・禁転載

メモ：チームで話し合って気がついたことなど

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

CASE 4 上司からの命令①

ある日の夕方、課長から“明日の10時までに、顧客に提出するこの資料まとめてくれ。今日は残業になると思うが”といわれた。ある意味役に立てるという気持ちもあり、表計算ソフトなどには、自信もあったので早速取り掛かった。

しかし、データ量も多く、思ったよりも時間がかかり焦り始めた時に、課長が“じゃ、よろしく頼む”と先に帰って行った。

感想記入欄

未定稿・禁転載

メモ：チームで話し合って気がついたことなど

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

CASE 5 上司からの命令②

ある日課長に呼ばれ、“急で悪いけど、この資料10セットコピーしてくれないか”といって、10ページで1セットになった資料を手渡された。

この後あなたは、どのような行動を行いますか？

課長の満足度の高い＝質の高い仕事をすることを目標に考えてください。

あなたなら・・・

未定稿・禁転載

メモ：チームで話し合って気がついたことなど

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

CASE 6 コンプライアンス

職場のメールアドレスをもらったので、早速昼休みに、学生時代から続けている趣味のサイトをみて投稿や通信販売のオーダーを行っていた。ところが、ある日課長に呼び出され、“仕事のこと以外で、会社のメールアドレスでメールを送信しないように”と注意を受けた。また、“仕事に関連のあるサイトはよいが、関係のないサイトは昼休みでも見ないように”と指導された。

“すいません”と謝ったものの、すっきりはしなかった。

昼休みだからいいんじゃないの？ それとメールの内容誰かが見ているんじゃないの？ これって問題では？

あなたはどのように思いますか？

感想記入欄

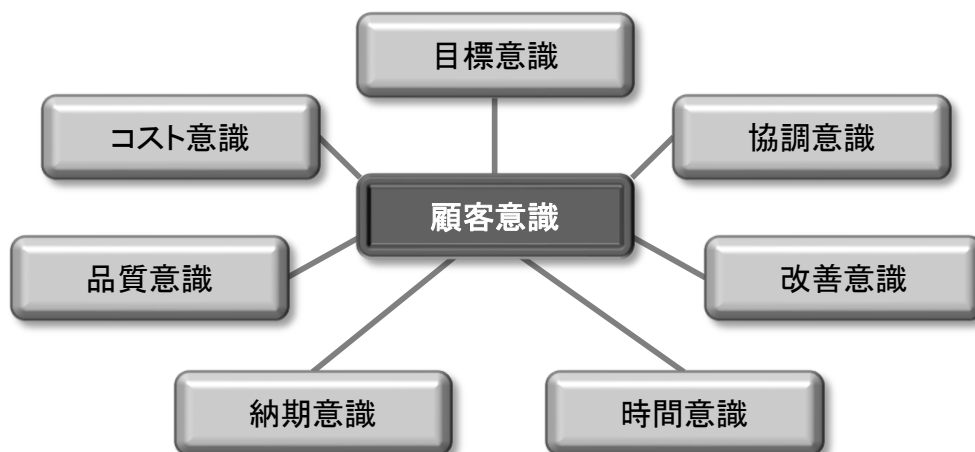
未定稿・禁転載

メモ：チームで話し合って気がついたことなど

第3章 仕事理解

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

ビジネスに必要な8つの意識



※ビジネス能力検定(B検)指導要領より

■8つの意識を確認

目標意識	
時間意識	
納期意識	未定稿・禁転載
協調意識	
顧客意識	
品質意識	
コスト意識	
改善意識	

■自分が比較的身につけているもの／得意なもの、これからの学校生活で身につけていきたいもの／強化したいものを、書いてみましょう。

第3章 仕事理解

第3節 インタビューしてみよう！

学校の先輩など、すでに働いている人に仕事をしていくうえで大切にしていること、重要な事などを聞いてみませんか。

1. インタビューできるとして、聞いてみたいことは？

聞いてみたいこと：

(その理由)

聞いてみたいこと：

(その理由)

聞いてみたいこと：

(その理由)

聞いてみたいこと：

(その理由)

未定稿・禁転載



第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

1. 模擬店①：役割表

思いつく係名 を自由に記入 (幾つでも可)	どんな 仕事内容？	どんなことが できる人が必要？	どんなタイプ (性格)が 合っている？	やりがい・楽しさ・ 難しさ等 仕事をしていて 感じることは？
				

未定稿・禁転載

2. 模擬店①：やってみたい係

	係名	なぜ選んだのか	どうやって決定したか
第1希望			
第2希望			
第3希望			

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

3. 模擬店①：係の目標設定

	個人記入	話し合いの結果
係名		
係の目標		
具体的にどんなふうに 仕事をするか		

4. 模擬店①：他の係との協力関係

他の係名	どんなふうに	
	個人記入	話し合いの結果
	未定稿・禁転載	

5. 模擬店①：気づいたこと等

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

6. 模擬店①：他の役割との関係図

■他の役割との関係を自由に描いてみましょう。

【ステップ1】自分と他者の役割を円で表す

- ・ センターが自分とは限らない
- ・ 一番大きい円が自分とは限らない
- ・ 協力、連携の強弱を自分との距離で表現

【ステップ2】関係性を矢印で表す

- ← → : 一方通行の関係性
- ↔ : 双方向の関係性
- … : 関係性が薄い

自分マーク:

役割名

他者マーク:

役割名

未定稿・禁転載

■描いた図を眺めて見て、全体の中で自分の役割をどう感じ、どこに自分を位置付けているか、なぜそのようにしたか、考えてみましょう。

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

7. 模擬店②：役割表

思いつく担当名 を自由に記入 (幾つでも可)	どんな 仕事内容？	どんなことが できる人が必要？	どんなタイプ (性格)が 合っている？	やりがい・楽しさ・ 難しさ等 仕事をしていて 感じることは？
				

未定稿・禁転載

8. 模擬店②：やってみたい担当

	担当名	なぜ選んだのか	どうやって決定したか
第1希望			
第2希望			
第3希望			

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

9. 模擬店②：担当の目標設定

	話し合いの結果
担当名	
担当の目標	
具体的にどんなふうに 仕事をするか	

10. 模擬店②：他の担当との協力関係

他の担当名	どんなふうに	
	個人記入	話し合いの結果
	未定稿・禁転載	

11. 模擬店②：気づいたこと等

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

12. 模擬店②：他の役割との関係図

■他の役割との関係を自由に描いてみましょう。

【ステップ1】自分と他者の役割を円で表す

- ・ センターが自分とは限らない
- ・ 一番大きい円が自分とは限らない
- ・ 協力、連携の強弱を自分との距離で表現

【ステップ2】関係性を矢印で表す

- ← → : 一方通行の関係性
- ↔ : 双方向の関係性
- … : 関係性が薄い

自分マーク：

役割名

他者マーク：

役割名

未定稿・禁転載

■描いた図を眺めて見て、全体の中で自分の役割をどう感じ、どこに自分を位置付けているか、なぜそのようにしたか、考えてみましょう。

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

13. 模擬店：個人目標シート

担当に就いて どんな気持ちか	
自分の担当名	
自分の目標	
具体的にどんなふうに 仕事をするか	未定稿・禁転載
その他感じたこと	



第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

14. 模擬店：担当ごとの思い

担当名	みんなの思い
	未定稿・禁転載

■係全員で決めた「成功へ導くための方策・決意」を、発表用にまとめましょう。

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう！

15. 模擬店：振り返りシート

■（p. 40）個人目標シート「担当に就いてどんな気持ちか」を読み返してから振り返ってみましょう。

担当は希望通りだったか	その時どう感じたか
○ / ×	

	場 面	なぜそう感じたのか
嬉しいと感じた場面		
嫌だなと感じた場面		

■ 自分について改めて気づいた点を書き出しましょう。

個 性		なぜそう思うのか	
適 性			
伸ばしたい点			
改めたい点			
今後どうしていきたいか （課 題）			

■ 全体を通して感じたことを書いてみましょう。

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第2節 未来カード



■どんな仕事をしている？

■何に夢中になっている？

■どんな人になっている？

■どんなことに幸せを感じている？

■どんな毎日を送っている？

■10年後の自分にメッセージを送ろう。文章・絵・旗・マーク等で自由に表現してみよう。



「人間には描いたことを現実にしてしまう力がある」といわれています。
表したものをしみじみと味わい、いつも見える所に貼っておくのもよいでしょう。

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第2節 未来カード



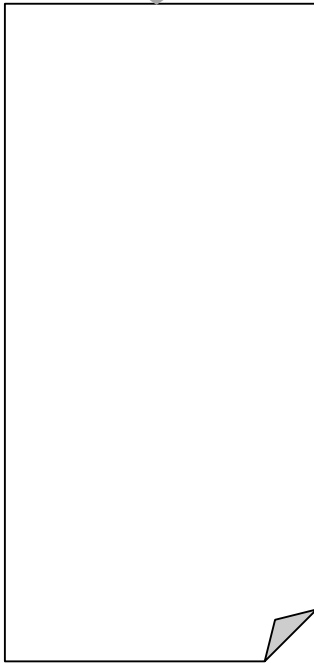
	つきたい職業	
調査すべきこと	理由	特に重視した要素
実現に必要な資格や条件		
今から取組むこと		
方法・手段		
計画		
今～半年後		
半年～1年後		
1年～1.5年後		

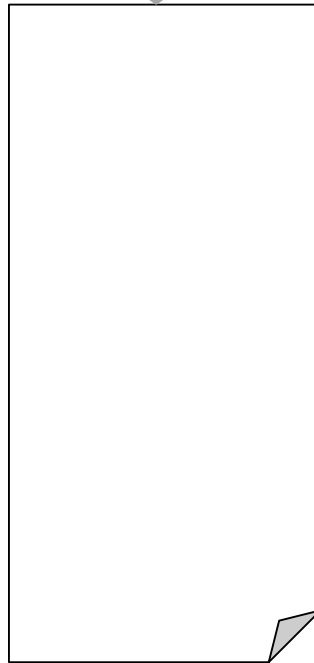
未定稿・禁転載

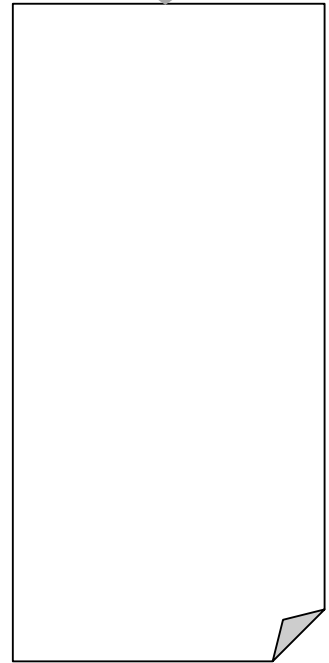
第4章 仕事選択～未来へ向けて

第2節 未来カード

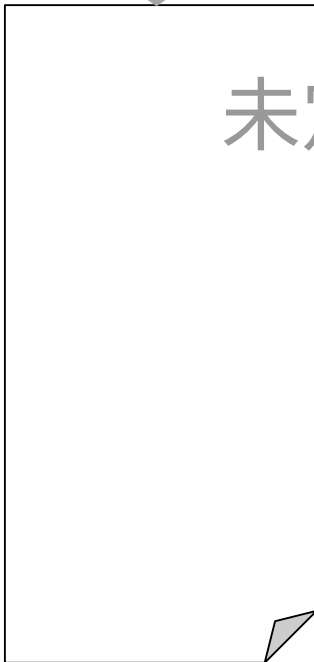
先生に相談
したいこと
課題

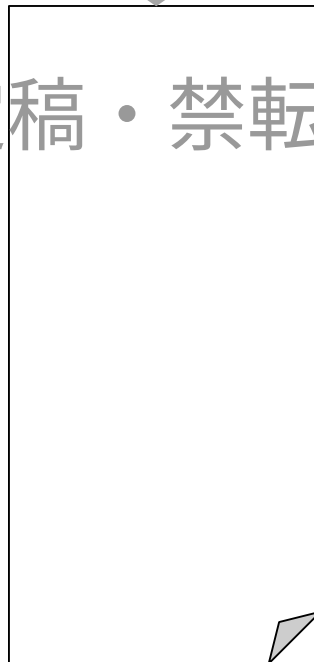



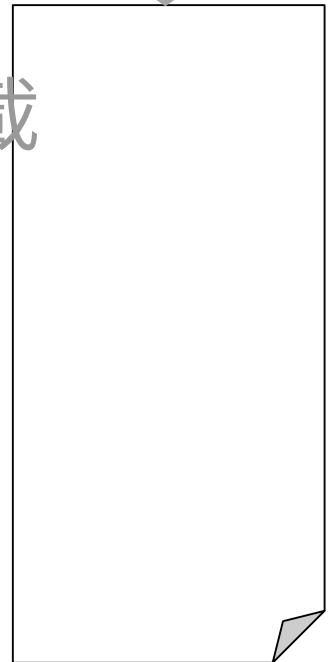




先生
コメント





未定稿・禁転載

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第3節 背中にエール

背中にエール

■皆と挨拶や握手をし合い、どんなことを感じましたか？

■皆からもらったエールを読んで、感じたことを自由に書きましょう。

未定稿・禁転載

■チームで感想を出し合って、改めて感じたことを書き留めましょう。

参 考 資 料

未定稿・禁転載

参考資料の一部には、取り外したり、切り取って使うページがあります。
そのページは61ページ以降にまとめてあります。

第1章	チーム作業を進めるときのヒント用	48、61
第2章	自己理解用	49～51、63～65
第3章	仕事理解用	52～55、67～69
第4章	仕事選択～未来へ向けて用	56～60

第1章 チーム作業を進める時のヒント

第1回世界メルヘン大会審査表

審査員名	
------	--

● 個人の順位 ●

	作品名	理 由
優勝		
準優勝		
3位		

● チームの順位 ●

	作品名	理 由
優勝		
準優勝		
3位		

未定稿・禁転載

● 感想 ●

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

1. 心の四つの窓…「ジョハリの窓」

自己理解と人間関係改善のために、自他から見た自己を心の四つの窓に分けて検討する方法があります。

この自己認識法は、ジョセフ・ルフトとハリー・インガムの共同発案であることから、「ジョハリの窓」と呼ばれています。

横軸を「自分が知っている自分」と「自分が知らない自分」に分けます。

縦軸は、「他人が知っている自分」と「他人が知らない自分」に分けます。こうして四つの窓ができます。

ジョハリの窓

	自分が知っている	自分が知らない
他人が知っている	①開かれた窓 (自分も他人も知っている部分)	②気づかない窓 (自分は知らないが、 他人は知っている部分)
他人が知らない	③隠している窓 (自分は知っているが、 他人は知らない部分)	④未知の窓 (自分も他人も知らない部分)

- ① の「開かれた窓」は、
自分のことを、自分も他人もわかっている窓で自然にのびのびと振舞える領域です。
- ② の「気づかない窓」は、
自分のことを、他人には見えているが、自分が気づかない窓で、他人との間にズレやあつれきを生じやすい領域です。
- ③ の「隠している窓」は、
自分のことを、自分では分かっていますが、他人には押し隠していますので、行動が不自然になる領域です。
- ④ の「未知の窓」は、
自分にも他人にも意識されていない領域ですが、未知の可能性を秘めており、成長の源泉ともいえる領域です。

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

2. 「開かれた窓」を大きくするために

成長する努力

	自分が知っている	自分が知らない
他人が知っている	①	➡ ②
他人が知らない	③	④

「自分の知らない領域」を右側 ② の方に広げるためには、他人の話を素直に聴くことを心がけることが大切です。他人からできるだけアドバイスをもらう、自分はどんな人に見えるかを教えてもらう、日常生活で疑問に感じたとき、それを反すうしてみる、なぜそう言われたのだろうと振り返る…などです。良いことは素直に喜び、認めてくれていることをかみしめましょう。

しかし、嫌なこと、悪いことを認めなければ窓は広がりません。教えてもらったことに感謝する気持ちを持つことが、自分を変えるためのきっかけになると考え、素直に受け入れましょう。

「他人が知らない領域」を下 ③ の方に広げるためには、自己開示をして、自分の意見を素直に言うことが大切です。自分について話す、自分をもっとアピールした方がよい領域です。自分を分かってもらうために、どう行動し、どんな言葉で表現したらよいか、自分を分かってもらう努力をしましょう。

弱点はみな隠したいものです。でも、そのままでは、良いコミュニケーションはできません。隠していることが多ければ多いほど、相手も隠すようになります。本音で伝えあえるようになると窓が開きます。

他人との関わりの中で、新しい自分に気づくことが自己成長にもつながります。自己成長とは、「開かれた窓」を大きくし、「未知の窓」を小さくすることを意味しています。

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

3. 自己改革の第一歩は己を知ること

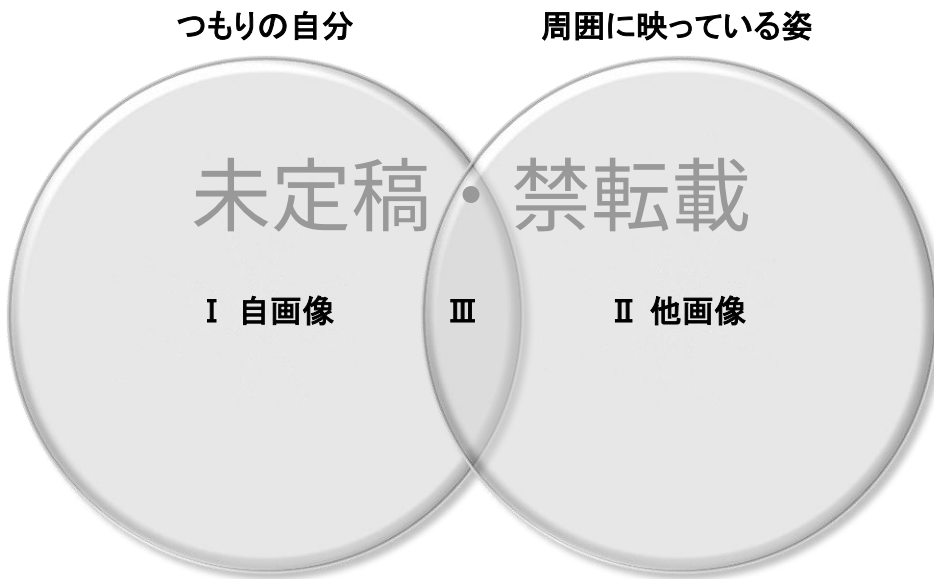
人間は、自分が本当に変わりたいと思えばそのように変われる存在であるといえます。そのためにはまず、自分は今、どんな状況であるか、どんな人間であるか、どんな行動特徴を持っているのかを知る必要があるのです。

人間は誰でも、“自分はどんな人間である”というイメージをもっています。

- ・ 自分は積極的である
- ・ 自分には社交性がない
- ・ 自分は気が弱い
- ・ 自分は責任感が強い
- ・ 人と会うのが苦手だ

といった具合です。

このような自分のイメージを自画像と呼んでいます。この自画像は、必ずしも周囲の人に映っている姿と同じではなく、むしろズレがあります。



自分は慎重で、じっくり考えてから行動するタイプだと思っていても、他から見ると消極的に見えることもあります。

自分は積極的な人間であると思っていても、他人には自己主張の強い、自分本位の人だと映ったりもします。

自画像は、自分にとって都合のよい自分であるから多分のところ、自分はこういう人間のつもりという事になります。そこで他人に映っている自分とつもりの自分が重なっているとそれは真実の自分の姿ということになります。

参考引用文献

NPO法人 日本交流分析協会
「交流分析士2級テキスト」

第3章 仕事を理解する

第1節 地図を作ってみよう！

彼(彼女)が発揮した能力、果たした役割は？

次の中から一言理由も添えて選んでください。

この仕事で彼(彼女)が最も能力を発揮したのは、

- ①課題の地図を正確に見て、他の人に伝えること
- ②時間内にきちんと仕上げられるように時間を管理すること
- ③お年寄りが喜んでくれるように工夫すること
- ④常に目的を忘れず、目的に沿った仕事ができているようにチームを持っていくこと
- ⑤チームがうまく話し合いをできるための雰囲気を作ること

未定稿・禁転載

第3章 仕事を理解する

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

コラム1 あるフリーターの独り言

秋山は今日で27歳になった。現在は、いわゆるフリーターである。専門学校で3年間勉強して卒業してから6年になろうとしている。この間、一度も正社員として就業したことはなく、派遣会社の登録社員として3年間勤務していた。契約の満了後、新しい派遣の紹介があっても、うまくいかずここ2年は、短期のアルバイトを繰り返す生活が続いている。

専門学校での勉強は興味深く、関連資格試験にも複数合格していたが、就職にあたってもっと自分の可能性を見つけない、より自分を活かせる仕事を探したいと思って、学校から紹介された複数の会社に興味・関心はあったが、正社員としての就職ではなく、現在の方向を選択したのであった。

最初は学んでいた専門分野以外の多くの事を学習したり、体験できることもあって充実感も感じていた。収入も正社員で就職した同級生と比較しても変わらないように思っていた。実際には、正社員の場合は、健康保険や年金保険、労働保険などの社会保険料が差し引かれた後の金額であったが登録社員であった最初は、自分で国民年金の支払いを行っていたので、その分を考えると少ない金額であった。また、就職した年の年末には、正社員にはボーナスが支給されたが自分にはなかった。

その分は、一生懸命働いて取り返すという意気込みであったが、仕事の時間単価は、派遣先と登録派遣会社との間で決められるので、自分の思った通りにはいかなかった。残業して頑張ればいいやと考えたが、派遣社員は残業することはできず、もし残って働いても自分の責任なので、給与の対象にならなかった。

最初は、就職活動の時に選択した、“自分の可能性発見”があったので、それなりに納得して頑張った。しかし、派遣先は変化するが担当する業務の内容の変化が少なくなってきた。会社には新たな分野に挑戦してゆきたいと、機会あるごとに話してはいたが、派遣会社としての得意分野や顧客の状況もあり、“時間給を高くするには、経験が必要だ”とも言われていた。

このようなことが3年続いた。その多年齢が上がるとともに、仕事への経験が求められ、一方時間給が上がることで、派遣先との調整がうまくいかず、派遣先が決まらない状況が続いた。別の派遣会社への登録も行いながら、いつでも仕事の要望に耐えられるように、短期間のアルバイトをしながら現在に至っている。

誕生日を前にした先日ふっと考えた。同級生で正社員として勤務したメンバーは、会社への不満を口にしながらも、一生懸命頑張っており、たまに会った時に仕事の話をする表情には、誇らしさも感じる。専門学校時代に学んだ知識を直接活かせるような職務をしている者もいれば、直接は関係があると思えない職種を行っているメンバーもいる。その姿をみて、就職活動の時に先生に言われた言葉を思い出していた。

“自分に合った仕事を探すより、どのような仕事であっても自分を活かせる人間になれ”

感想記入欄

第3章 仕事を理解する

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

コラム2 プロ意識

入社して9カ月が過ぎ、研修終了後に配属された現在の職場で1年が経過しようとしていたある日高橋は、上司である主任に言われた“2年目だから、そろそろプロ意識を持てよ。”について考えていた。現在担当している仕事は、毎日が勉強で厳しさも感じるが、やりがいも感じているので、毎日楽しく取り組んでいるつもりであった。毎日の仕事でも、自分に納得いかない点があれば、すぐに先輩や上司に質問をおこない、自分が納得いくまで取り組んでいた。だから、毎週行われる課のミーティングや月1回の全体会議は正直あまり身が入らなかった。また、仕事とは関係が少ないいろいろな役割についても、仕事に取り組む時ほどの気持ちが入らなかった。

ある日2年先輩と仕事を終えてから一緒に食事をする機会があったので、思い切って先輩に聞いてみた。先輩は、“自分ひとりで仕事していると思っているの？”と聞いてきた。高橋は思わず“えっ”と言葉を飲んだ。言葉にはしなかったが、“求められている仕事はしていると思います”といったかった。先輩は続けて話した。“今君が、自分の役割に集中できているとしたら、誰がその環境を作ってくれているのだろうね。会社って人の集まりだよ。多くの人が、それぞれの役割を果たすと同時に、お互いに助け合って、会社の目標や課の目標を達成していこうとしているんだよね。みんなが自分だけが良かったらと思っていたらどうなるんだろうね？”

高橋は先輩と話してよかったと思った。自分の専門性を発揮して1日も早く評価されたいと考え頑張ることは、間違っていないけど、学校で良い成績をとるのとは違い、組織全体としてのことを、同じ目標に向かっていくことへの意識が少なかった。

というよりなかったと反省した。



感想記入欄

第3章 仕事を理解する

第2節 ケーススタディで学ぶ実際の仕事

コラム3 入社3年目

就職して働きだすと、折に触れて、自分の人生や、職業を通しての人生＝キャリア・ライフを考えることが、いま以上に求められます。就職した1年目、社内での研修に始まり、試用期間を終え、正式に社員となります。きっと毎日が驚きや緊張の連続でしょう。しかし、3か月を終えるあたりで、生活ペースや社内環境にも慣れてくることでの”気の緩み”がでます。この時に、遅刻や体調不良での欠勤などもしてしまうので注意してください。自分の体調管理は、社会人では自己管理・自己責任となります。

1年目は、とにかく慌ただしく過ぎていくことでしょう。そして2年目。新入社員＝後輩が入社してきます。その彼らを見て、去年の自分を思い出しながら、”私たちもっとしっかりしていたよね”などと同期のメンバーと話していると、先輩や上司から、”同じようなものだよ”などと言われるかもしれません。でもその新人たちを良い意味で意識しながら、1年先輩として頑張っていくあなたがいいます。

おそらく2年目には昨年と違った大きな壁や悩みがあなたの前に立ちはだかります。それは当然なのです。あなたの成長に伴って、仕事の内容が深くなり、果たしていかなければいけない役割も増えているからです。極端な表現かもしれませんが、”悩みは成長の証”ともいえます。

しかし3年目を迎えるにあたって、もっと大きな悩みにぶつかるのではないのでしょうか？それは、”このままこの会社に勤務していてよいのだろうか？”という悩みです。特に現在の仕事が、入社前に描いていた自分の仕事や役割と異なっている場合など、そのように感じることも多いかもしれません。すると学生時代の同期で他社に入社した人達の話が思い出されます。彼らは自分の思った通りの仕事に就いていると・・・

これらも成長の証といえます。しかし、この後の状況によって本当に成長したのかどうか、自分のキャリア・ビジョンを持っているかどうか異なってきます。学生時代の就職活動時点では、それなりに情報収集したり自己分析を行ったりした結果で選択もしました。それは評価しますが、ジョハリの窓にあるように、あなたの未知の部分はまだまだ多くあります。就職して、これまでに経験できなかった多くの事を体験することで、新たな自分の特質や才能？を見いだせることでしょう。その結果は、新たな職業興味へとつながっていくのです。

入社し研修を終えた頃にぜひ”3年後の自分”について目標を設定し書き留めてください。その目標を毎年見直し、必要に応じて、より具体的にしていくなど行ってみませんか。2年目の終り頃には、”さらに3年後の自分”について目標設定することも必要です。”この後の状況で・・・”と前述しましたが、現在の仕事内容に不満があったり、単に面白くないから退職して、別の会社へというのではなく(多くの場合それがきっかけですが)自分のキャリア・プランをより実現していくためにという形にして欲しいと思います。

感想記入欄

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう

1. 模擬店①：役割表 例

思いつく係／担当名を自由に記入（幾つでも可）	どんな仕事内容？	どんなことができる人が必要？	どんなタイプ（性格）が合っている？	やりがい・楽しさ・難しさ等仕事をしていて感じることは？
①	＜店舗設置・店舗づくり＞ 店舗の設置場所の調整交渉 模擬店舗設置 設備・機械・仕掛けなどを備えつける 道具調達・管理 当日のメンテナンス	体力 工具・機械操作ができる 立体的に考えられる 全体を見通しながら遂行できる 細やかな目線	ガテン系 力強いがやさしい 人と接するより、物作りが好き	屋台を完成させ、来客やスタッフに喜ばれたとき 誰も気づかないところに手を加え、功を奏した時
②	＜調査・模擬店予報士＞ 他店舗研究：動向、日程、内容等の比較調査 過去の実績研究：販売物、設置場所、天候等の環境と動員数の因果関係 保健所・町内等の情報収集・連絡調整	分析力 論理的に物事を考えられる 感情よりルールに則って善悪を判断できる	論理的 理性的 コツコツ型 地味 ルールをきちんと守る 完璧主義 集団行動より一人が好き	下調べがしっかりしていたお陰で、アクシデントが無く物事が進んだ時 予測と結果が近似していた時
③	＜デザイン＞ ポスター・スタッフジャンパー・ちらし・チケット・HPのデザイン 店舗レイアウト	創造力 感性を表現できる 流行へのアンテナを張り、収集できる	個性的 遊び心がある 好奇心旺盛 オシャレ 派手 直感で行動する 型破り 感受性が強い 人と同じはイヤ	自分達がデザインしたイメージキャラクターが好評だった時 HPデザインが受けてヒット数が急上昇し、集客率に繋がった時
④	＜みんなのお世話＞ 器具（鉄板・コンロ等）レンタル手配と、使用法のデモンストレーション 当日：調理 来賓者への連絡調整とお茶出し 救急隊 父兄対応（問合せ・クレーム）	教えるのが上手 奉仕精神旺盛 医療・販売も好き 人の気持ちがわかる	面倒見がいい 人と接するのが好き やさしい 責任感が強い 人に教えたり、お世話するのが好き	困った人を助けて、役に立てた時 難解な質問やクレームにきちんと応えられた時
⑤	＜企画・運営・管理＞ 店長として目標収益の決定・周知 妥当な業者選択と戦略的な値踏み交渉 各係へ役割調整をし、意見を吸い上げる 宣伝方法や呼び込み方法の企画 当日の指揮監督：集客率を上げ客の流れを作る 危機管理：トラブルは早急に先生と連携	周囲を巻き込む力 人を動かす力 物事を進めていく実行力 イニシアティブ 統率力 発想力 牽引力	リーダー的でたくましい 物怖じしない 人の上に立つことが好き 社交的 新しもの好き	指示した人員配置がうまく回り、皆が働きやすく楽しそうな姿を見た時 他店に無い企画を立て、売り上げが予想を上まわった時
⑥	＜会計・事務局＞ 模擬店実行委員会での記録と議事録作成配布 予算取りと会計報告 経費の出納管理 当日：銀行での事前両替・レジ業務・小口現金管理 納品業者への対応（在庫管理と発注・商品受取と出金等）	細かい計算が得意 決められた方式通りに遂行できる	まじめ 几帳面 合理的 打算的 規則的なことが好き 粘り強い リーダーよりも、後ろから着いてくるのが好き	計算がきちんと合った時 相手のニーズに即して、迅速に正確な数字を伝えられた時
⑦				

未定稿・禁転載

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう

私の国は？

- 自分やメンバーのイメージは、どの国に当てはまりますか？
- 解説を読んで「キーワード」欄より特色を選び()へ記入しましょう。



- ①エンジニア・販売・企画等、
特定の分野で能力発揮することに
幸せを感じる。

①インド

【 】



- ⑤ルールや規則に縛られず
自分のやり方で仕事を進める。
仕事のペースも自由に決めたい。

⑤イタリア

【 】

私の国は？



- ②集団を統率、
権限を行使し、
組織の期待に応える
ことに幸せを感じる。

②イギリス

【 】



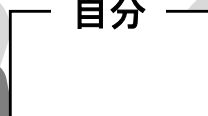
- ⑥暮らしやすさ、他者の救済、
教育などを成し遂げ、自分の関心
ある分野で仕事をしたい。

⑥スウェーデン

【 】

未定稿・禁転載

自分



- ③充実感・保障・年金等、経済的安定を
望む。転職せず、一つの組織へ忠誠、
献身を尽くす。

③日本

【 】



- ⑦個人的欲求、家族の願望、自分の
仕事のバランスや調整に力を入れる。
自分のライフワークに合わせた仕事を
望む。

⑦フランス

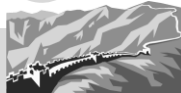
【 】



- ④新しいものを創り出す。
障害を乗り越えリスクを恐れない。
自分の努力で達成したいという
欲求が原動力。

④中国

【 】



- ⑧困難な問題の解決や手ごわい
相手に打ち勝とうとする。
競争にやりがいを感じる。
目新しさ、変化、難しさが目標。

⑧アメリカ

【 】



～キーワード～

- | | | | |
|-----------|------------|---------|-----------|
| A. 安定 | B. 起業家の創造性 | C. 経営管理 | D. 社会への貢献 |
| E. 自律(自立) | F. 全体性と調和 | G. 専門 | H. チャレンジ |

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう

1. 自分のイメージの国を選んでみましょう。その理由は？

	選んだもの	理 由
自 分		

2. メンバーのイメージの国を選んでみましょう。その理由は？

	選んだもの	理 由
さん		
さん		
さん		
さん		

3. メンバーが考えたあなたのイメージを書き留めましょう。

	選んだもの	理 由
さんが		
さんが		
さんが		
さんが		

4. 自分が選んだ自分のイメージと、他人からもらった自分のイメージを比べてどう感じましたか？

第4章 仕事選択～未来へ向けて

第1節 模擬店を出そう

突然の雨… さあ、あなたはどう思う？

設 問

模擬店を開いている最中に、雨が降ってきてぬれてしまった。
その時あなたはどう思う？

回 答

回答をA/Bより選択し、○をつけてください

- A : 天気予報をちゃんと調べて、雨対策を打っておけばよかったな。
- B : あ～運が悪い。模擬店なんかに参加させたリーダーが悪いんだ。

■選んだ理由

未定稿・禁転載

■＜振り返り＞

感じたことを自由に書きましょう

第4章 仕事選択～未来へ向けて

おまけ

ここまで、たどり着きました。

皆さんの後ろにはしっかり轍(わだち)が刻み込まれています。

轍(わだち)は「車輪の跡」という意味の他、「キャリア」を意味します。

ワークを終えて「キャリア」をどのように理解しましたか。

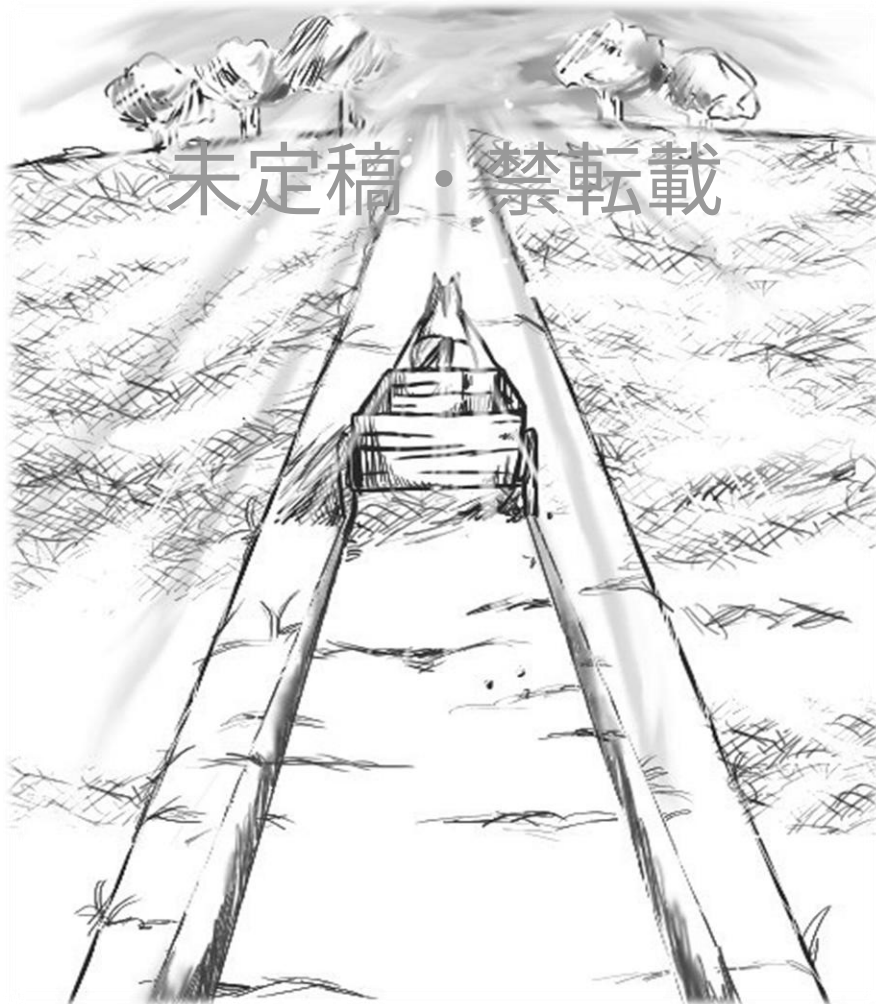
「私にとってキャリアとは

ということです。」

その轍(キャリア)はどこに向かって進んでいこうとしていますか。

「私の轍(キャリア)は

へ向かって進んでいきます。」



**自分に正直になることは難しく、そして素晴らしい。
その気づきはやがて轍(キャリア)となり、未来へ続いていく。**

第1章 チーム作業を進める時のヒント

チーム作業役割診断シート

日付

記入者

ファシリテーター:

ファシリテーション プロセス チェック項目	1:できなかった 2:あまりできなかった 3:できた 4:よくできた	コメント
場作りができたか (話易い雰囲気作り、約束事の確認、 役割分担)		
話を引き出すことができたか (傾聴、復唱、適切な質問、発言の促進、 非言語メッセージの解説)		
話をまとめることができたか (整理、要約、優先順位付け)		
結果を共有することができたか (結論、合意、振り返り)		
ファシリテーター スキル チェック項目	1:できなかった 2:あまりできなかった 3:できた 4:よくできた	コメント
全員の参加を促せたか		
チームの雰囲気作りができたか		
中立的な立場をとることができたか		
時間管理ができたか		

気づいた点・改善点など

未定稿・禁転載

第2章 自己理解

第2節 自分を知る手がかり

カード（点線で切り離して使用してください）

相手の名前	より さんへ
1. 明るい楽しい	
2. 責任感がある	
3. おとなしい	
4. 観察力がある	
5. 楽天家	
6. 親切	
7. 我慢強い	
8. 計画的	
9. 優しい	
10. 礼儀正しい	

相手の名前	より さんへ
1. 明るい楽しい	
2. 責任感がある	
3. おとなしい	
4. 観察力がある	
5. 楽天家	
6. 親切	
7. 我慢強い	
8. 計画的	
9. 優しい	
10. 礼儀正しい	

相手の名前	より さんへ
1. 明るい楽しい	
2. 責任感がある	
3. おとなしい	
4. 観察力がある	
5. 楽天家	
6. 親切	
7. 我慢強い	
8. 計画的	
9. 優しい	
10. 礼儀正しい	

相手の名前	より さんへ
1. 明るい楽しい	
2. 責任感がある	
3. おとなしい	
4. 観察力がある	
5. 楽天家	
6. 親切	
7. 我慢強い	
8. 計画的	
9. 優しい	
10. 礼儀正しい	

相手の名前	より さんへ
1. 明るい楽しい	
2. 責任感がある	
3. おとなしい	
4. 観察力がある	
5. 楽天家	
6. 親切	
7. 我慢強い	
8. 計画的	
9. 優しい	
10. 礼儀正しい	

相手の名前	より さんへ
1. 明るい楽しい	
2. 責任感がある	
3. おとなしい	
4. 観察力がある	
5. 楽天家	
6. 親切	
7. 我慢強い	
8. 計画的	
9. 優しい	
10. 礼儀正しい	

未定稿・禁転載

第2章 自己理解

第3節 私の大切なもの探し

用 語 集

名誉	貢献	起業	成功
体力	信頼	理想	公正
変化	論理	個性	成長
平凡	支援	完璧	安心
挑戦	友情	学習	責任
健康	感性	冒険	協調
美	収入	慎重	専門
行動	自立	友情	興味
安全	自由	計画	余暇
素朴	権威	体力	誠実

未定稿・禁転載

第3章 仕事を理解する

第1節 地図を作ってみよう！

● 私から見た、メンバーの特性 ●

【 】さん

特性:

① ② ③ ④ ⑤

理由:

【 】さん

特性:

① ② ③ ④ ⑤

理由:

【 】さん

特性:

① ② ③ ④ ⑤

理由:

【 】さん

特性:

① ② ③ ④ ⑤

理由:

【 】さん

特性:

① ② ③ ④ ⑤

理由:

【 】さん

特性:

① ② ③ ④ ⑤

理由:

未定稿・禁転載

第3章 仕事を理解する

第1節 地図を作ってみよう！

メンバーから見た、私の特性

【 】さんは

私の特性を：

① ② ③ ④ ⑤

理由：

【 】さんは

私の特性を：

① ② ③ ④ ⑤

理由：

【 】さんは

私の特性を：

① ② ③ ④ ⑤

理由：

【 】さんは

私の特性を：

① ② ③ ④ ⑤

理由：

【 】さんは

私の特性を：

① ② ③ ④ ⑤

理由：

【 】さんは

私の特性を：

① ② ③ ④ ⑤

理由：

未定稿・禁転載

チーム学習型キャリア教育ワークブック
「やる気の根っこ」

定価：本体900円+税

2010年4月1日 初版第1刷発行
未定稿・禁転載

編者 財団法人 専修学校教育振興会
キャリア・サポート教材開発研究委員会

委員（50音順）浅輪 玲子
岡村 慎一
上浦 環
神山 恵美子
財津 香壽子
西田 君美雄

アドバイザー 小林 智明

オブザーバー 小野 紘昭

監修 財団法人 専修学校教育振興会
キャリア・サポート事業運営委員会

発行 財団法人 専修学校教育振興会
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
（私学会館別館）

電話 03(3230)4814 ホームページ: <http://www.sgec.or.jp>

- 本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著者および出版者の権利の侵害となりますので、あらかじめ当財団あて許諾を求めてください。
- 落丁・乱丁はおとりかえします。

未定稿・禁転載

チーム学習型キャリア教育ワークブック
「やる気の根っこ」

財団法人専修学校教育振興会

IV 教員用ガイド＜抜粋＞（報告書掲載版）

P. 125～P. 203 までは、この研究で開発した教員用ガイドの未定稿です。

これ以降のページ番号は、下が報告書のページ番号、上が教員用ガイド未定稿のページ番号ですので、ご注意ください。



ワークを始める前に



安心・安全・助け合える場の提供

学生と同じ目線で温かさを持って、あるがままの学生の姿を尊重。
机のレイアウト・ニックネームやネームプレートを活用し雰囲気作り。



チーム分け

関係性・個人特性に配慮が必要→意図的に事前編成。
新しい出会いを提供→小ゲームでシャッフル。



導入時

毎回基本ルール確認と前回までの流れを振り返る。
NO: 誹謗・中傷・暴力・排斥
OK: 守秘義務「ここで知り得たことを安易に外にもらさないこと。
むしろ、その人の痛みを大事に受け留めることをしよう。」
オープンマインド「他人の良い点を積極的に伝えよう。」



役割分担

ワーク前に学生主体で分担させてみる。
グループの持ち味を活用しコンセンサスを形成。



ワークの展開

成果物の質よりプロセスへの視点を促す。
「やってみよう→味わってみよう→自分の中で動き出している何かを感じ取る。」
「出来栄えより、どの要因(誰の意見)で気持ちに変化が起こったかを考えてみよう。」



効果測定

浸透具合を長期的に見守る。
①ワーク時の反応 ②学校生活での表情・言動



個別フォロー

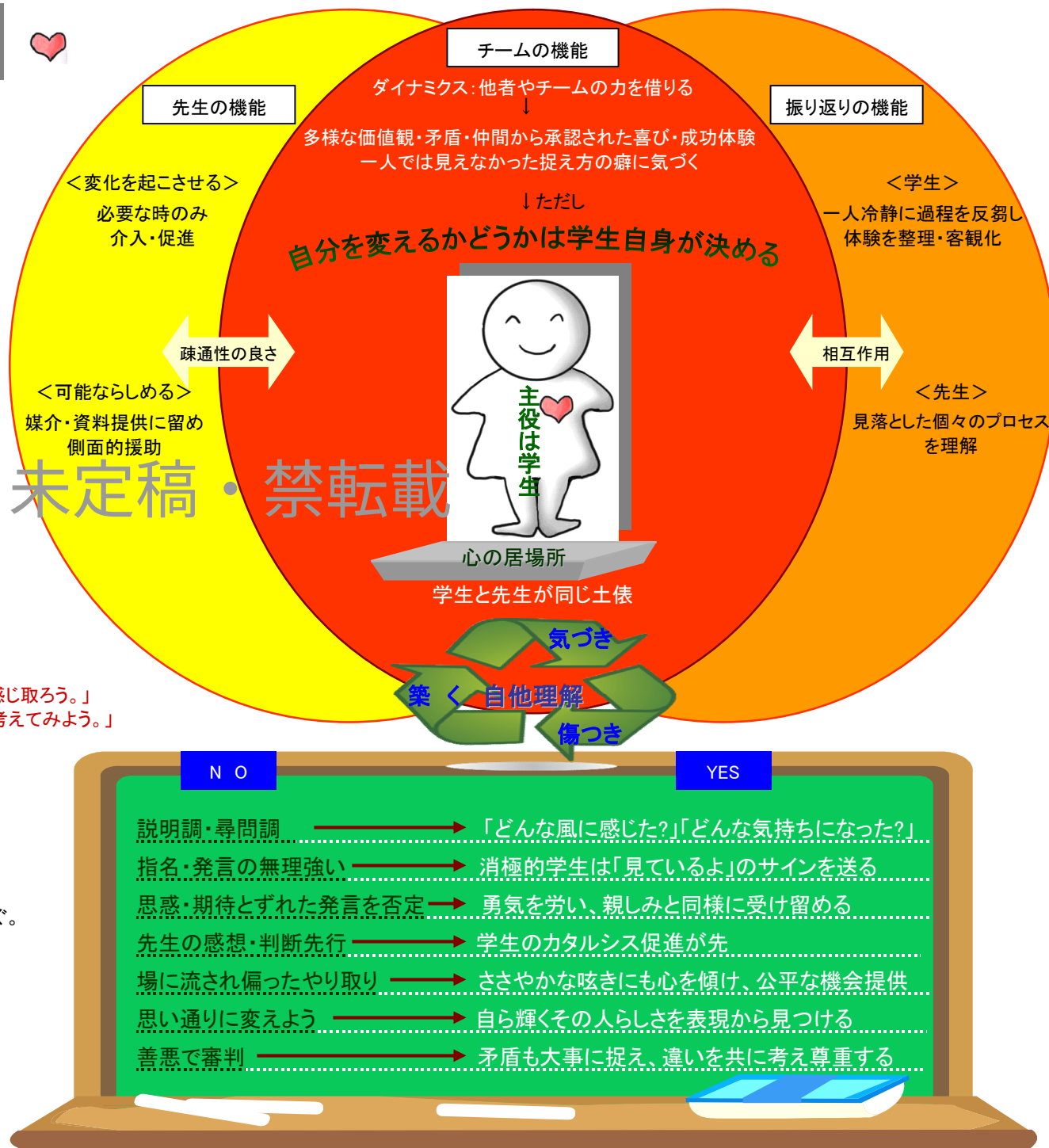
葛藤から抜け出せない学生を点検: 個別時間を設定し個の埋没を防ぐ。



危機管理

力量を超える問題を一人で何とかしない。
情報共有しリファールのタイミングを逃さない。

教員_第0章_ワークを始める前に 100301.doc



教員用ガイド

- | | |
|---------|--|
| 1. ワーク名 | 第2章 第1節「過去を振り返ろう！」 |
| 2. 教材 | ワークシート |
| 3. 備品 | ストップウォッチ（教師用） |
| 4. 指導目標 | 自分が将来の方向性を決定する上で、どんな視点で考えているのか。過去を思い出して、自分が頑張ったことや嫌だったことを振り返る。更に、他者に伝え、そして聴くことで、自分にとって大切に思うことや嫌だと思うことについて気づきを得る。 |

◎教員としての大切な価値観

- ・経験には意味がある。
- ・生き甲斐、働き甲斐はあるはず。
- ・人生はダイナミックだ。
- ・人生は必然の連続だ。

《留意事項》

参加者が全員で心地よい時間を作る

- セルフワークでは、一回りを気にせず正直に自分の気持ちを書きます。ワークシートに記入する時間では、開始と終了の合図をします。その時間は一人ひとりの大切な時間なので、静かに自分自身との対話をしましょう。終了前に書き終えた方は、終了の合図まで他の方が心地よく対話をしていることに配慮して、今一度脳裏で自分と対話しておきましょう。
- 記入したワークシートは、他人に見せる必要はありません。教員も本人の承諾なく見ることはしません。安心して自由に書いてみましょう。同時に隣の方や前後の方のワークシートを本人の承諾なしに見ることは遠慮しましょう。
- ワークシートは、今後皆さんが気づいたときに振り返って何度でも書き直したり、書き加えたりして構いません。また、将来働きだしたとき、思い出すこともあると思います。
- チームワークでは、書いたことをすべてお話する必要はありません。自分から話をしたいと思う事柄を話していただければ結構です。また、他人の個人的な内容をメモすることは遠慮しましょう。チームで話をする際は、原則、筆記用具を持たず話をする、聴くことに専念しましょう。
- メンバーで話をする際、他人の話を中断するような質問や自分の発言は控えましょう。他人の話に反論することはしないことをルールとします。各自の話は、人それぞれの声だと受け止めましょう。
- メンバー内で、話をする役、聴く役と固定的にならないように、全メンバーで互いに気遣いながら進行しましょう。進行役をあえて決めず、全員がお互いに意識して、話をする順を決めてください。話することが苦手の方もいます。温かくチームメンバーとして対応しましょう。話ができないことは悪いことではありません。
- 授業時間で、話された内容はこの授業内だけに留めてください。授業が終われば、内容はリセットして、他人に話しをすることは避けましょう。

5. 授業の展開 (90 分)

[illegible]

	<仕事の根っこ（人生の根っこ）> 1. ライフ・イベント表を記入（15分） ライフイベントを振り返り、その時の気持ちのライフラインとして表現する。 2. チームで簡単に一人ずつ自分のライフイベントを紹介します。（12分） 3. ライフイベントについて、説明をする。（5分）	1. 「小学校入学時あたりから現在に至るまでの出来事・ライフイベントを、年齢と書きます。自分の気持ちの振れをプラスマイナスの程度を点で記入し、その点を一本の線として、つなげていきます。」 * 見本として、例を教員自身が、説明しながらライフイベント表を板書するか、例示の表をOHP等で示すとよりわかりやすいでしょう。 「記入する時間は12分程度を目安で記入しましょう。自分はどのようなときに活力が高まるのか、どのようなときにへこんでしまうのか、自分史の事実から気づくこともあるでしょう。」 2. 「ライフイベント表を書き終えた方は、記入して思ったことを感想欄に書いておきましょう。」 1. 左右前後の4名程度、顔があわせて、全員が自分のライフイベント表を話しができるあるいはしてもよいと思う範囲で紹介する。 「4人のメンバーになりましょう。全員が一人2分程度で自分のライフイベントを紹介してください。その際、特に自分が一番プラスに振れたところはどんな時で何がそう思えたのか、逆にへこんだのはどんな時で何がそう思えたのかを、話してもよいと思うことをお話ししましょう。他のメンバーは、話を聴くときは、質問や自分の話をすることは避けましょう。それでは、話をしたい方から順にお話を開始してください。（ ）時には合図を一旦しますので、時間内に全員が話し終わるように各自で時間配分をしましょう。それでは、始めてください。」 「2分前です。全員が紹介しましたか？」 全体を見渡した上で、 「時間になりました。それでは、前を向きましょう」 ライフイベント表を書くことで、人によっては次のような気づきがあったかもしれません。 ・へんだことや良かったと思えたことの「わけがわかる」ことによる安心もうまれたりします。 ・「気持ちが落ち込んだときのイベント、あるいは満足していたときのイベントを見つめてみると、自分が生きていく上で、働く上で大切にしているものは一体何かが浮き彫りになってきませんか。これが分かっていると不測の事態におかれても明るい光や解決の糸口を見つけられることが多いようですよ。 ここでも個人個人が違う価値観で生きていることが互いに分かったことと思います。ポジションにこだわる自分であったとか、自分らしさに重点を置く自分であったとか、役割を担うのを大切にする自分であったとか、自由	セルフワーク チーム学習 4名一組 一斉
--	---	--	--

	<私が燃えるわけは？> 1. ライフイベント表を振り返りながら、一番燃えてたことについて、書き出す。(8分) 2. ライフイベント表を振り返りながら、一番嫌だったことについて、書き出す。(8分) 3 「燃える」ために必要な条件とあつてはならない条件を書き出す。(5分)	を追い求める自分であったとか。人というのは自分の根柢が分かってくると安心できたり、冷静になれたりするようですね。ただ、どうであれ、自分らしさというのは是非大切にしていだきたいものです。」 1.「次に、ライフイベント表を振り返りながら、これまでの人生で一番夢中になったり燃えたりヤッターと感じたのは、いつ頃で、どんなことをしていた時でしたか。その時は思ったことや感じたこと、考えたことも書き出し、どうして燃えたのかを書きましょう。」 2.「これまでの人生で一番嫌だったり落ち込んだりしたことは、いつ頃で、どんなことをしていた時でしたか。その時は思ったことや感じたこと、考えたことも書き出し、どうして燃えなかったのかを書きましょう。」 3.「ライフイベントを書き、「燃えるわけ」と「燃えないわけ」を書いてみて、燃えるために自分にとって必要な求める条件とあつてはならない条件を書き出しましょう。」	セ ル フ ワーク
まとめ 5分	第1節を振り返り	1.今日のセルフワークとチームでの話し合いを通じて、時間をみて、感想を発表してもらおう。 *指名をせずに発表してもらいたい旨を伝えて、挙手した方の発表を期待する。 2.セルフワーク中の記入に様子やチームの話し合いから、留意事項を提案として伝える。 例えば、「今日はなかなか記入できなかった方もいるでしょう。今日はかけなかったという事実として、また気になったときに書けばいいでしょう。」 「チームでの話しあいでは、今日の内容はどれもその人にとっては正解です。いまは話せないということもあるんだ。と受け入れましょう。」 3.本時のワークシートをリングファイルに綴じて、終わります。 「ワークシートの右上に、「今日の日付」を記入しておきましょう。」	

《作成例》

年	その時の出来事、 ライフイベント	— 自分としての意義やヤル気や気持ち の振れ +
92	幼稚園通いが始まる	
93	初めてのお遣いで褒められる	
95	小学校入学	
96	仲良しの級友が転校	
96	ペットの犬が亡くなる	
96	少年サッカーチーム入団	
99	レギュラー選抜から漏れる	
99	塾通い始まる	
00	校内合唱祭でクラスが優勝	
01	中学校入学	
01	合唱部入部	
02	学園祭実行委員	
03	楽しみだった修学旅行入院で欠席	
03	高校受験第1志望校不合格	
04	ボランティア活動老人ホーム訪問	
05	後輩の女子から告白される	

未定稿・禁転載

教員用ガイド

1. ワーク名 第2章2節 自己理解 「自分を知る手がかり」(180 分用)
2. 教 材 ワークシート 私の「心の四つの窓」 (人数分)
ワークシート「心の四つの窓」記入例 (教師用) 拡大して掲示
カード (5 枚/人・切り分けて準備)
カード記入例 (教師用) 拡大して掲示
資料「質問の例」 (人数分)
「ジョハリの窓」から学ぶこと (人数分)
ワークシート「今日のまとめ」(人数分)
ワークシート「今日のまとめ」(教員用) 拡大して掲示
3. 備 品 ストップウォッチ (教師用)、
赤・黒ボールペン、
マーカーペン (個人)
4. 指導目標 自他から見た自己を「四つの窓」に分けて検討し、自己理解と人間
関係改善について考える。

① 心地よい時間を作る

チーム作業で、「質問される」ことの心地よさを実感し、緊張感がほぐれ、場が和み、仲間同士が打ち解ける楽しい時間を作ることができる。

② 自分について発見する

- ・自分が思っていたことと、他人が思っていたことが一致してうれしい
→ 自分に自信が持てる。
- ・自分が思っていなかったことを他人が思ってくれることに驚きがある
→ 認められ、うれしい。
- ・自分は思っている、他人には伝わっていなかったことに驚きがある
→ 意外だなあ、もっと表現してもいいかもしれない。
- ・自分にも他人にも発掘されていない未知の可能性の部分もあるということ。
→ 出会っていない自分がいるらしい。

③ 「自己成長」について学ぶ

- ・私たちは、他者との関わりの中で生きている。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものだ。私たちは自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長するのであり、他者は自分が成長するための大切な存在である。
- ・自己成長のためには「開かれた窓」を大きくすることが必要であるが、そのためには人の話や意見に素直に謙虚に耳を傾け、また自分の意見も素直に伝

- える態度が大切であることを学ぶ。それは、自分が関わっていく全ての人々とのコミュニケーションの核となるものである。
- ・まず、お互いが「聴き合う」ことから始めよう。

5. ワーク「自分を知る手がかり」の流れ（180分バージョン）

★ ポイント

1 導 入（5分） 「自分はどんな人？」

2 手順の説明とワーク（40分）
5人チーム×5の場合
準 備 10分
(質問 5分+記入1分) × 5人 = 30分

★ ワークを楽しむ。

3 集 計（15分）

4 振り返り（15分）
★ 自分に気づいて書く。

5 振り返りの発表（15分）
★ 聴き合って、他人の気づきも共有する。

～ 休憩 ～

6 ワークの意義を考える（60分）
「ジョハリの窓」から学ぶこと

7 まとめ（25分）
★ ワークの意義を考える。

8 予備・・・アンケート実施など・・・（5分）

未定稿・禁転載

6. 授業の展開 (180 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教師の発問および注意点	形態
1 導入 5 分	1. 隣同士で、相手に自分の性格について話す。	1. 「自分はどんな性格ですか？隣同士で、自分の性格に 2 つ言ってみてください。」 (例として、教師が自分の性格を 2 つ言う。優しい、短気、優柔不断など)) 「相手に自分の性格を伝えられましたか？」 自分のことは知っているようで、改めて人に伝えようとすると意外と知らないものですね。」 「今日は、『自分を知る手がかり』のワークをやってみましょう。」	2 名 1 組
2 手順の説明とワーク 40 分 手順 1 ～ 6 (10 分) 手順 7 ～ 10 (30 分)	1. 5 名 1 組のチームを作る。 *決められたチームを認識する。 2. 資料枚数を確認する。 *カード 5 枚 *ワークシート「私の『心の四つの窓』」 *質問例 3. 自分のカードに自分のイメージ 5 つを選び、 <u>赤ボールペン</u> で○を付ける。時間をかけずに、直感で記入する。 4. 他の 4 枚のカードに、 <u>黒ボールペン</u> で自分の名前と他の 4 人の名前を 記入する。 5. 4 枚のカードと <u>黒ボールペン</u> を持って、向い合える場所に移動し、輪を作る。 6. 最初に（親）になる人を決める。 7. (親) の名前を書いたカードを準備し、(親) に質問を始める。 * (他のメンバーから (親) への質問 5 分 + カードへの記入 1 分) × 5 回 = 30 分 * 時間を守る	1. 「それでは、まず 5 名のチームを作りましょう。」 * 机の近い 5 名を 1 チームにする。 2. 「これから、資料を配ります。全部で 3 種類あります。」 3. 「5 枚のカードのうち 1 枚に自分の名前を <u>赤ボールペン</u> で書いてください。そして自分のイメージを 1 ～ 10 の項目から 5 つ 選び、そのカードに <u>赤ボールペン</u> で○をつけましょう。深く考え込まず、直感でつけてください。記入したら、 <u>カードを伏せておきましょう。</u> 」 4. 「次に、他の 4 枚のカードに、自分の名前と 4 人のメンバーの名前を <u>黒ボールペン</u> で記入しましょう。」 5. 「4 人の名前の入った 4 枚のカードと資料「質問例」、黒ボールペンを持って向い合える場所に移動し、チームごとに輪になってください。」 6. 「各チームで、じゃんけんで最初の（親）を決めてください。」 7. 「これから（親）に対して、（親）の隣の人から順に 1 問ずついろいろな質問をしてください。質問時間は 4 分間です。自由に質問をして構いませんが、質問がとぎれたら、「質問の事例」を参考にしましょう。女性の年齢など プライバシーに触れる問題は避けましょう。また『あなたは人生をどう思いますか?』など、長すぎる答えになるような質問も避けましょう。自分が答えたくない問題はパスしてもかまいません。 では、始めて下さい。」	5 名 1 組

	*直観で記入する。時間をかけない。 質問のやりとりで 心地よい時間を作る 10.自分の席に戻る。	*4分経過したところで質問を終了させる。ストップウォッチを使用する。 8.「それでは、今の質問タイムでの、あなたが感じた印象を項目の中から 5 つ選び、<u>黒ボールペン</u>で○をつけましょう。記入をしたら、(親)にカードを伏せて渡してください。」 *時間を取らないように促す。 9.「では、今度は(親)の右隣の人が(親)になります。同じように、4 分間、質問をして、カードに 記入してください。」 *チーム全員が順番に同様の手順で(親)をやる。 *5人全員が終わったことを確認する。 10.「自分の席に戻ってください。」	
3 集 計 15 分 手順 1 (5 分) 手順 2 (10 分)	1.カードの集計をする。 *各自が勝手に作業を進めないで、指示を守る。 *項目ごとに集計する。 2.集計結果をワークシート「私の「心の四つの窓」」に転記する。 ①<u>赤ボールペン</u>で○を転記する。 ②数字を転記する。 ③窓ごとにマーカーを引く ④マーカーの項目を横に書く。 *先生の説明に合わせて、4つの窓の意味を考えながら記入していく。	1.「これから、全員一齐にカードの集計をしていきますので、私の手順に合わせて進めてください。」 「集計結果に良い、悪いはありません。」 *「<u>カード記入例</u>」(拡大版)を掲示する。 「自分が○をつけた自分のカードの右端に、他の 4人から○をつけてもらった数の合計を(1)～(10)までの項目ごとに記入します。合計の数は0～4になります。」 2.「ワークシートを用意しましょう。」 *「<u>ワークシート記入例</u>」(拡大版)を掲示する。 *意味がわかるように説明しながら、ひとつずつゆっくり進めていく。 ①「まず、4つの窓すべてに、<u>赤ボールペン</u>で自分が赤○をつけた番号と同じ番号に○をつけます。」 ②「次に、他の 4人から集計した数を4つの窓すべての番号の横に記入します。」 ③④「次に、①の窓で、赤○がついていて、つまり自分はそう思っていて、しかも他人もそう思ってくれたところ (人数が0以外)にマーカーを引き、その項目の言葉(例：観察力がある)を窓の中に記入します。」 「②の窓で、赤○はついていなくて、つまり自分はそう思っていないくて、しかし他人はそう思っているところ (人数が0以外)にマーカーを引き、その項目の言葉(例：明るく楽しい)を窓の中に記入します。」 「③の窓で、赤○はついていて、つまり自分はそう思っていて、しかし他人はそう思っていないところ (人数が0)にマーカーを引き、その項目の言葉(例：我慢強い)を窓の中に記入します。」 「④の窓で、赤○はついていなくて、つまり自分はそう	個 人 ワーク

		思っていないくて、しかも他人もそう思っていないとこ (人数が0) 窓の中に記入します。」 *全員が記入できているか確認をしてから次に進める。	
4 振り返り 15分 手順1 (5分) 手順2 (10分)	1.「四つの窓」には、名前がついていること とその特徴を知り、ワークシートに窓の 名前を記入する。 ①の横に「開かれた窓」と記入する。 ②の横に「気づかない窓」と記入する。 ③の横に「隠している窓」と記入する。 ④の横に「未知の窓」と記入する。 2.気づきや感想をワークシートに記入する。 *自分の気づきや感想、自分の窓の大きさ で気づいたことを書く。 自分の気づきが一番大切	1.「ワークシートへの記入が終わったようですので、四 つの窓の表すものを簡単に説明します。四つの窓には それぞれ名前がついています。」 「①の窓は『開かれた窓』と言います。自分も他人も 知っている項目です、 「②の窓は『気づかない窓』です。自分は知らないが、 他人は知っている項目です。 「③の窓は『隠している窓』です。自分は知っている が、他人は知らない項目です。 「④の窓は『未知の窓』で、自分も他人も知らない項 目です。 2.そして、このワークをおこなっての感想をワーク シートに記入しよう。」 「自分が思っている項目と他人が思っている項目は一致 しましたか？あるいは、そうではありませんでした か？いろんな気づきがあったと思います。その気づき や感想を自由に書いてください。また、窓の大きさは どうでしたか？どの窓が大きく、どの窓が小さかった ですか？この2つの観点で書いてください。」 *この時間をたっぷりと取り、一人ひとりの気づきを 感じる事が大切。じっくり取り組ませる。	一 斉
5 振り返り の発表 15分	1.各自がワークをやって気づいたことを発 表する。 *ワークを行った5名1組のチームで再 度、集まる。 (1人2分×5回=10分) 2.チームの代表が発表する。 (1チーム1分×5チーム=5分) 聴き合って、他人の気づきも 共有する 3.自分の席に戻る。	1.「5名のチームで、このワークを通して気づいたこと、 感じたことを発表し合いましょう。ワークをやったメ ンバーで再度、集まってください。」 2.「各チームの代表から、メンバーにどんな気づきが あったか、どんなことを感じたのかを発表してもらい ましょう。発表者を決めてください。」 *学生の発言を板書する。 *進行によって発表させるチーム数を調整する。 3.「自分の席に戻ってください。」	5人 1組
<休憩>			

6 ジョハリの窓から学ぶこと (60 分) 手順 1 (5 分)	1. 前の時間を振り返り、「ジョハリの窓から学ぶこと」ことを考える。	1. 「このワークは、自分を知り、自分を理解するためのものでした。自分についての新しい気づきがありましたね。」 * 教師が、学生の言葉を受けて、その言葉を取り入れながら全体を振り返り、それぞれの窓について確認していく。 「自分が思っていたことと、他人が思っていたことが、一致していてうれしく、自分に自信を持った人もいるでしょう。」 <うれしい、自信になる、これでいい> 「自分が思っていなかったことを他人が思ってくれていたことがあることに驚き、意外に思った人もいるでしょう。」 <意外、ビックリ、うれしい> 「隠された窓」は大きく、わかってもらっているつもりだったのにむずかしいなあ、なぜなんだろうと思った人もいるでしょう。また、自分が隠していることを知られないように取り繕っていることに気づいた人もいるかもしれませんね。」 <自分は〇〇のつもりだったのなぜわかっていないんだろう> 「自分と他人に発露されていない、未知の可能性の部分もあることを知った人もいるでしょう。これは自分がまだ体験していないことがあるということです。これからの体験で自分も他人も想像もつかない力を発揮することがあるかもしれませんね。」 <どんなことだろう？>	一 斉
手順 2 ～ 3 (25 分)	2. ②の窓が大きいとうまくいかない例を考える。える。 * 隣の人と 2 人で考える (5 分) * 指名された人が発表する (5 分) 3. ②の窓を小さく (①の窓を広げる) するためにはどうするか考える。	2. 「もし、実はおしゃべりなのに、自分はおとなしいと思いついていたら、相手はどう思うでしょうか？ 隣の人と考えてみましょう。」 * 話し合いが進んでいないようであれば、具体的な例を教師が提示する。(例：みんなでお茶をしている時に、一人でしゃべりまくっていたら？友人とバスに乗っていて、相手は眠りたいのにしゃべり続けたら？など)。 * 何名かに発表させる。 * 発表内容を聞き取り、板書する。 * 発表後にまとめる。 「コミュニケーションがうまくいかないことがあるかもしれませんね。ズレやあつれきを生んだり、知らぬは本人ばかりなり、となることもあるでしょう。自分に気づくことが大切なのです。おしゃべりな自分に気づくことで、人とのコミュニケーションも変わってくるでしょう。」 3. 「②の窓を小さくするためにはどうしたらいいでしょうか？ワークをやったメンバーで話し合ってみましょう。座席の近くに移動してください。」	2 名 1 組 5 名 1 組

手順 4 ～ 5 (25 分) 4.③の窓が大きいとうまいいかない例を考える ＊ワークを行った 5 人 1 組のチームで座席の近くに集まる。 ＊5 人で考える (5 分) ＊代表が発表する (5 分)	＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。 「自分の知らない領域」を右側②に広げるためには、他人の話を素直に聴くことを心がけることが大切です。他人からできるだけアドバイスをもらう、自分はどんな人に見えるかを教えてもらう、日常生活で疑問に感じたとき、それを反すうしてみる、なぜそう言われたのだろうと振り返る・・・などです。」 「自分にとって良いことは受け入れやすいのですが、否定的な内容だと、落ちこんだり、ムツとすることもあられるかもしれません。それを受容することは、時にはきついことですが、マイナスの出来事も自分を成長させる糧となるとプラスに 受け止めてみてください。 自分が思っているつもりでも、それを判断するのは相手です。相手がどう思っているかを知っておくことも大切なことです。」 「良いことは素直に喜び、認めてくれることをかみしめましょう。しかし、嫌なこと、悪いことを認めなければ窓は広がりません。教えてもらったことに感謝する 気持ちを持つことが、自分を変えるためのきっかけになると考え、素直に受け入れましょう。」 4.「もし、自分の気持ちを隠していたら、相手はどう思うでしょうか？隣の人と考えてみましょう。」 ＊話し合いが進んでいないようであれば、具体的な例を教師が提示する。(例：本当はやりたくないことをやらされた時、本当は伝えなければいけないことを黙っている時など)。 ＊何名かに発表させる。 ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。 「これも、コミュニケーションがうまいいかないかもしれませんね。弱みなどを隠したり、取り繕うことで、言動が不自然になったり、ちぐはぐになったりすることもあるでしょう。伝えきれていない自分に気づくことで、人とのコミュニケーションも変わってくるでしょう。 「隠している窓」を小さくするとよいですね。」 5.「③のワークをやったメンバーで話し合ってみましょう。座席の近くに移動してください。」 ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。
5.③の窓を小さくするためにはどうするかを考える。 ＊ワークを行った 5 人 1 組のチームで座席の近くに集まる。	5.「③のワークをやったメンバーで話し合ってみましょう。座席の近くに移動してください。」 ＊発表内容を聞き取り、板書する。 ＊発表後にまとめる。

	*5人で考える（5分） *代表が発表する（5分）	「他人が知らない領域」を下③に広げるためには、自己開示をして、自分の意見を素直に言うことが大切です。自分について話す、自分をもっとアピールした方がよい領域です。自分を分かってもらうために、どう行動し、どんな言葉で表現したらよいか、自分を分かってもらう努力をしましょう。 弱点はみな隠したいものです。でも、そのままでは、良いコミュニケーションはできません。隠していることが多ければ多いほど、相手も隠すようになります。本音で伝えあえるようになると窓が開き、信頼関係を築くことができるようになります。」	
7 まとめ (25分)	1.このワークで学んだことを考える。 「ジョハリの窓から学こと」を読む。 2.板書をノートに写す。 ①他者との関わりで生きている。 ②判断するのは相手。 ③コミュニケーションはまず自分を知ることから	1.「ジョハリの窓から学ぶこと」を配布し、全員で読み合わせる。 ①それぞれの窓の事例を説明する。 ②本時のプラスマイナスの項目であったが、マイナスのイメージの項目も説明する。 ③大切な所を示しながら読む。マーカーを引くように指示する。 ④開かれた窓①を大きくすることが大切であることをおさえておく。 2.「今日のまとめ」（拡大版）を掲示する。 ①「今日のワークは自分一人ではできませんでしたね。質問をして、それに答えてくれる人がいてできたということを知ってください。」 「私たちは、他者との関わりの中で生きています。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものです。私たちは、自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長します。他者は自分が成長するための大切な存在であるのです。相手があるの自分であること、家族や友人、話を聴いてくれる人、といった自分の周りの人を大事にすることの大切さを感じてください。」 ②「自分のことを明るいと思っていなくても、人は明るいと思ってくれていましたね。逆に、自分はおしゃべりだと思っていないのに、相手は自分のことをおしゃべりでうるさいと思っているかもしれませんね。判断するのは相手なのです。」 ③「②の窓や③の窓でコミュニケーションをしてもうまくいかないことを知りましたね。コミュニケーションは②の窓や③の窓の項目を知ることから始まります。自	一 斉

	④自己成長とは「開かれた窓」を大きく、「未知の窓」を小さくすること ⑤人生は一瞬一瞬の積み重ね ⑥お互いが「聴き合う」ことから始めよう	分が気づいていないこと、自分が隠していることに気づいていくということなのです。」 ④「自己成長とは、「開かれた窓」を大きくし、「未知の窓」を小さくすることを意味しています。今日も、自己成長をしているのですよ。」 ⑤「このワークの結果は、この場、この人数、このメンバー、この質問、この時間による体験の結果が「四つの窓」に表れたもので、もちろんほんの一部分ではあります。しかし、このような一瞬一瞬の積み重ねの連続が人生となっていくのです。」 ⑥「まず、お互いが「聴き合う」ことから始めてみましょう。そして自分に気づいていきましょう。」	
8 予備 (5分)			

未定稿・禁転載

指導・協力

NPO 法人 日本交流分析協会

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 第2章2節 自己理解 「自分を知る手がかり」(90 分用)
2. 教 材 ワークシート 私の「心の四つの窓」 (人数分)
ワークシート「心の四つの窓」記入例 (教師用) 拡大して掲示
カード (5 枚/人・切り分けて準備)
カード記入例 (教師用) 拡大して掲示
資料「質問の例」 (人数分)
「ジョハリの窓」から学ぶこと (人数分)
ワークシート「今日のまとめ」(人数分)
ワークシート「今日のまとめ」(教員用) 拡大して掲示
3. 備 品 ストップウォッチ (教師用)、 赤・黒ボールペン、
マーカーペン (個人)
4. 指導目標 自他からみた自己を「四つの窓」に分けて検討し、自己理解と人間
関係改善について考える。

① 心地よい時間を作る

チーム作業で、「質問される」ことの心地よさを実感し、緊張感がほぐれ、場が和み、仲間同士が打ち解ける快い時間を作ることができる。

② 自分について発見する

- ・自分が思っていたことと、他人が思っていたことが一致してうれしい
→ 自分に自信が持てる。
- ・自分が思っていなかったことを他人が思ってくれることに驚きがある
→ 認められ、うれしい。
- ・自分は思っている、他人には伝わっていなかったことに驚きがある
→ 意外だなあ、もっと表現してもいいかもしれない。
- ・自分にも他人にも発掘されていない未知の可能性の部分もあるということ。
→ 出会っていない自分がいるらしい。

③ 「自己成長」について学ぶ

- ・私たちは、他者との関わりの中で生きている。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものだ。私たちは自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長するのであり、他者は自分が成長するための大切な存在である。
- ・自己成長のためには「開かれた窓」を大きくすることが必要であるが、そのためには人の話や意見に素直に謙虚に耳を傾け、また自分の意見も素直に伝える態度が大切であることを学ぶ。それは、自分が関わっていく全ての人々

- とのコミュニケーションの核となるものである。
- ・まず、お互いが「聴き合う」ことから始めよう。

5. ワーク「自分を知る手がかり」の流れ (90分バージョン)

★ ポイント

1 導 入 (3分) 「自分はどんな人？」

2 手順の説明とワーク (30分)

5人チーム×5の場合

準 備 5分

<質問 4分+記入 1分>×5人=25分

★ ワークを楽しむ。

3 集 計 (10分)

4 振り返り (12分)

★ 自分に気づいて書く。

5 振り返りの発表 (15分)

★ 聴き合って、他人の気づきも共有する。

6 まとめ (20分)

★ ワークの意義を考える。

未定稿・禁転載

6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教員の発問および注意点	形態
1 導入 3 分	1. 隣同士で、相手に自分の性格について話す。	1 「自分はどんな性格ですか？隣同士で、自分の性格を 2 つ言ってみてください。」 (例として、教師が自分の性格を 2 つ言う。優しい、短気、優柔不断など) 「相手に自分の性格を伝えられましたか？」 自分のことは知っているようで、改めて人に伝えようとする意外と知らないものですね。」 「今日は、『自分を知る手がかり』のワークをやってみましょう。」	2 名 1 組
2 手順の説明とワーク 30 分 手順 1 ～ 6 (10 分) 手順 7 ～ 10 (20 分)	1. 5 名 1 組のチームを作る。 (決められたチームを認識する) 2. 資料枚数を確認する。 *カード 5 枚 *ワークシート「私の『心の四つの窓』」 *質問例 3. 自分のカードに自分のイメージ 5 つを選び、赤ボールペンで○を付ける。時間をかけずに、直感で記入する。 4. 他の 4 枚のカードに、黒ボールペンで自分の名前と他の 4 人の名前を記入する。 5. 4 枚のカードと黒ボールペンを持って、向い合える場所に移動し、輪を作る。 6. 最初に (親) になる人を決める。 7. (親) の名前を書いたカードを準備し、(親) に質問を始める。 * (他のメンバーから (親) への質問 4 分 + カードへの記入 1 分) × 5 回 = 25 分 * 時間を守る * 直観で記入する。時間をかけない。	1. 「それでは、まず 5 名のチームを作りましょう。」 * 机の近い 5 名を 1 チームにする。 2. 「これから、資料を配ります。全部で 3 種類あります。」 3. 「5 枚のカードのうち 1 枚に自分の名前を <u>赤ボールペン</u> で書いてください。そして自分のイメージを 1 ～ 10 の項目から 5 つ選び、そのカードに <u>赤ボールペン</u> で○をつけましょう。深く考え込まず、直感でつけてください。記入したら、 <u>カードを伏せておきましょう。</u> 」 4 「次に、他の 4 枚のカードに、自分の名前と 4 人のメンバーの名前を <u>黒ボールペン</u> で記入しましょう。」 5. 「4 人の名前の入った 4 枚のカードと資料「質問例」、黒ボールペンを持って向い合える場所に移動し、チームごとに輪になってください。」 6 「各チームで、じゃんけんで最初の (親) を決めてください。」 7. 「これから (親) に対して、(親) の隣の人から順に 1 問ずついろいろな質問をしてください。質問時間は 4 分間です。自由に質問をして構いませんが、質問がとぎれたら、「質問の事例」を参考にしましょう。女性の年齢など プライバシーに触れる問題は避けましょう。また『あなたは人生をどう思いますか?』など、長すぎる答えになるような質問も避けましょう。自分が答えたくない問題はパスしてもかまいません。では、始めて下さい。」 * 4 分経過したところで質問を終了させる。ストップウォッチを使用する。 8. 「それでは、今の質問タイムでの、あなたが感じた印	5 名 1 組

	質問のやりとりで 心地よい時間を作る 10.自分の席に戻る。	象を項目の中から5つ選び、<u>黒ボールペン</u>で○をつけましょう。記入をしたら、(親)にカードを伏せて渡してください。」 *時間を取らないように促す。 9.「では、今度は(親)の右隣の人が(親)になります。同じように、4分間、質問をして、カードに記入してください。」 *チーム全員が順番に同様の手順で(親)をやる。 *5人全員が終わったことを確認する。 10.「自分の席に戻ってください。」	
3 集 計 12 分	1.カードの集計をする。 *各自が勝手に作業を進めないで、指示を守る。 *項目ごとに集計する。 2.集計結果をワークシート「私の「心の四つの窓」」に転記する。 ①赤ボールペンで○を転記する。 ②数字を転記する。 ③窓ごとにマーカーを引く ④マーカーの項目を横に書く。 *先生の説明に合わせて、4つの窓の意味を考えながら記入していく。	1.「これから、全員一斉にカードの集計をしていきますので、私の手順に合わせて進めてください。」 「集計結果に良い、悪いはありません。」 *「カード記入例」(拡大版)を掲示する。 「自分が赤○をつけた自分のカードの右端に、他の4人から○をつけてもらった数の合計を(1)～(10)までの項目ごとに記入します。合計の数は0～4になります。」 2.「ワークシートを用意しましょう。」 *「ワークシート記入例」(拡大版)を掲示する。 *意味がわかるように説明しながらひとつずつ、ゆっくり進めていく。 ①「まず、4つの窓すべてに、<u>赤ボールペン</u>で自分が赤○をつけた番号と同じ番号に○をつけます。」 ②「次に、他の4人から集計した数を4つの窓すべての番号の横に記入します。」 ③④「次に、①の窓で、赤○がついていて、つまり自分はそう思っていて、しかも他人もそう思ってくれたところ(人数が0以外)にマーカーを引き、その項目の言葉(例：観察力がある)を窓の中に記入します。」 「②の窓で、赤○はついていなくて、つまり自分はそう思っていないくて、しかし他人はそう思っているところ(人数が0以外)にマーカーを引き、その項目の言葉(例：明るく楽しい)を窓の中に記入します。」 「③の窓で、赤○はついていて、つまり自分はそう思っていて、しかし他人はそう思っていないところ(人数が0)にマーカーを引き、その項目の言葉(例：我慢強い)を窓の中に記入します。」 「④の窓で、赤○はついていなくて、つまり自分はそう思っていないくて、しかも他人もそう思っていないところ(人数が0)窓の中に記入します。」 *全員が記入できているか確認をしてから次に進める	個 人 ワーク

4 振り返り 10分 手順1 (3分) 手順2 (7分)	1.「四つの窓」には、名前がついていることとその特徴を知り、ワークシートに窓の名前を記入する。 ①の横に「開かれた窓」と記入する。 ②の横に「気づかない窓」と記入する。 ③の横に「隠している窓」と記入する。 ④の横に「未知の窓」と記入する。 2.気づきや感想をワークシートに記入する。 *自分の気づきや感想、自分の窓の大きさで気づいたことを書く。 自分の気づきが一番大切	1.「ワークシートへの記入が終わったようですので、四つの窓の表すものを簡単に説明します。」 「四つの窓には、それぞれ名前がついています。」 「①の窓は『開かれた窓』と言います。自分も他人も知っている項目です、 「②の窓は『気づかない窓』です。自分は知らないが、他人は知っている項目です。 「③の窓は『隠している窓』です。自分は知っているが、他人は知らない項目です。 「④の窓は『未知の窓』で、自分も他人も知らない項目です。」 2.「それでは、このワークをおこなった感想をワークシートに記入しましょう。」 「自分が思っている項目と他人が思っている項目は一致しましたか？あるいは、そうではありませんでしたか？いろんな気づきがあったと思います。その気づきや感想を自由に書いてください。また、窓の大きさはどうでしたか？プラスの窓が大きくて、どの窓が小さかったですか？この2つの観点で書いてください。」 *この時間をたっぷりと取り、一人ひとりの気づきを感じる事が大切。じっくり取り組ませる。	個人ワーク
5 振り返りの発表 15分	1.各自がワークをやった気づいたことを発表する。 *ワークを行った5名1組のチームで再度、集まる。 (1人1分×5回=5分) 2.チームの代表が発表する。 (1チーム2分×5チーム=10分) 聴き合って、他人の気づきも共有する 3.自分の席に戻る。	1.「5名のチームで、このワークを通して気づいたこと、感じたことを発表しましょう。ワークをやったメンバーで再度、集まってください。」 2.「各チームの代表から、メンバーにどんな気づきがあったか、どんなことを感じたのかを発表してもらいましょう。発表者を決めてください。」 *学生の発言を板書する。 *進行によって発表させるチーム数を調整する。 3.「自分の席に戻ってください。」	5名1組
6 まとめ 20分	1.このワークで学んだことを考える。 「ジョハリの窓から学ぶこと」を読む。 *大切なところにラインを引きながら読む。	1.「ジョハリの窓から学ぶこと」を配布し、全員で読み合わせる。 ①それぞれの窓の事例を説明する。 ②本時はプラスイメージの項目であったが、マイナスのイメージの項目も説明する。	一斉

	2.本時の大切なまとめの板書をノートに写す。 ①他者との関わりで生きている。 ②判断するのは相手 ③コミュニケーションはまず自分を知ることから ④自己成長とは「開かれた窓」を大きく、「未知の窓」を小さくすること ⑤人生は一瞬一瞬の積み重ね ⑥互いが「聴き合う」ことから始めよう	③大切な所を示しながら読む。マーカーを引くように指示する。 ④開かれた窓①を大きくすることが大切であることをおさえておく。 2.まとめを板書する。 ①「今日のワークは自分一人ではできませんでしたね。質問をして、それに答えてくれる人がいてできたということを知ってください。」 「私たちは、他者との関わりの中で生きています。自分ひとりでは、本当の自分のことはわからないものです。 私たちは、自分のことを聴いてくれる人、自分に伝えてくれる人と共にあって成長します。他者は自分が成長するための大切な存在であるのです。相手があつての自分であること、家族や友人、話を聴いてくれる人、といった自分の周りの人を大事にすることの大切さを感じてください。」 ②「自分のことを明かすと思っていなくても、人は明るく思っていますね。逆に、自分はおしゃべりだと思っていないのに、相手は自分のことをおしゃべりでうるさいと思っているかもしれませんね。判断するのは相手なのです。」 ③「②の窓や③の窓でコミュニケーションをしてもうまくいかないことを知りましたね。コミュニケーションは②の窓や③の窓の項目を知ることから始まります。自分が気づいていないこと、自分が隠していることに気づいていくということなのです。」 ④「自己成長とは、「開かれた窓」を大きくし、「未知の窓」を小さくすることを意味しています。今日も、自己成長をしているのですよ。」 ⑤「このワークの結果は、この場、この人数、このメンバー、この質問、この時間による体験の結果が「四つの窓」に表れたもので、もちろんほんの一部分ではあります。しかし、このような一瞬一瞬の積み重ねの連続が人生となっていくのです。」 ⑥「まず、お互いが「聴き合う」ことから始めてみましょう。そして自分に気づいていきましょう。」	
--	---	---	--

指導・協力
NPO 法人 日本交流分析協会

(記入例)	より
相手の名前	さんへ
1. 明るい楽しい	4
2. 責任感がある	4
3. おとなしい	3
④観察力がある	2
5. 楽道家	2
6. 親切	0
⑦我慢強い	0
⑧計画的	1
⑨優しい	2
⑩礼儀正しい	2

© NPO法人 日本交流分析協会

私の「心の四つの窓」(記入例)

	自分が知っている			自分が知らない		
他人が知っている	(1)－ 4	(1) 窓)	観察力がある	(1)－ 4	(2) 窓)	明るく楽しい
	(2)－ 4			(2)－ 4		責任感がある
	(3)－ 3			(3)－ 3		おとなしい
	④－ 2			④－ 2		
	(5)－ 2			(5)－ 2		楽天主
	(6)－ 0			(6)－ 0		
	⑦－ 0			⑦－ 0		
	⑧－ 1		計画的	⑧－ 1		
	⑨－ 2		優しい	⑨－ 2		
	⑩－ 2		礼儀正しい	⑩－ 2		
他人が知らない	(1)－ 4	(3) 窓)	我慢強い	(1)－ 4	(4) 窓)	
	(2)－ 4			(2)－ 4		
	(3)－ 3			(3)－ 3		
	④－ 2			④－ 2		
	(5)－ 2			(5)－ 2		
	(6)－ 0			(6)－ 0		親切
	⑦－ 0			⑦－ 0		
	⑧－ 1			⑧－ 1		
	⑨－ 2			⑨－ 2		
	⑩－ 2			⑩－ 2		

未定稿・禁転載

◆ ワークを通して気づいたこと、感じたことを書いてみましょう

◆ 4つ窓の大きさはどうでしたか？それについてどう思いましたか？

大 切 な こ と

1. 他者との関わりの中で生きている。
2. 判断するのは相手。
3. コミュニケーションはまず自分を知ることから。

未定稿・禁転載

4. 自己成長とは「開かれた窓」を大きく、「未知の窓」を小さくすること。
5. 人生は一瞬一瞬の積み重ね。
6. お互いが「聴き合う」ことから始めよう。

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 第2章3節 自己理解 「私の大切なもの探し」
2. 教 材 ワークの進め方シート
用語集
A3用紙
振り返りシート
3. 備 品 はさみ、のり、色鉛筆 ※各自持参 但し、予備をチーム分準備
4. 指導目標 自分は普段どのように考え、どのように動いているのかを知ること、自分のものの考え方の特徴や態度、行動の仕方などに気づいて見ることで、自分が大切にしている思いや価値観といえるものを自分自身理解しておく。

5. ワークの流れ

- 1 導 入 (5分)
- 2 手順の説 明とセルフワーク (25分)
- 3 セルフワークのまとめ記入 (10分)
- 4 振り返り (35分)
- 5 まとめ (15分)

未定稿・禁転載

6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教師の発問および注意点	形態
1 導入 5分		* 今日の内容と目標および全体の進め方の説明をする 1. 「人はそれぞれ生まれ育ってきた過程で身につけたことがあります。その中には、自分にとって大切にしたい思いや大事なことがらなど価値観と呼ばれるものがあります。」 「今日は、自分の大切なものを探してみましよう。そして、自分で探し出した大切なものを自分なりに言葉・文章にしてみることで、改めて気づきを得ていただきたいと思います。」 「そして、自分自身が気づいた大切なものを、チームになって、許せる範囲で話して見ましよう。同じ職業を目指す、或いは同じ学びをしている皆さんですが、いろいろな大切なものをもたれた方がいることに気づかれるかもしれません。」	一斉
2 手順の説明とセルフワーク 25分 手順1～8 (25分)	1. 資料の確認をする。 * ワークの進め方シート * 用語集 * A3用紙 2. 本日、使用する備品の確認 * はさみ * のり * 色鉛筆 3. A3用紙に○を書く 4. 空欄に自分の態度・行動の仕方や考え方の特徴、大切なことで、用語集にないものがあれば記入 5. 用語集を線に沿って切る 6. A3用紙の真中に自分の名前やニックネームを書き、切り取った用語を真ん中の自分を意識しておいていく 7. のり付けする 8. 色鉛筆で色分け	1. 「それでは、はじめましよう。まずは、資料をお配りします。各自1枚ずつ取ってください。資料は3種類です。」 2. 「皆さん、届きましたか？」 「今日は、はさみ、のり、色鉛筆を持ってくることになっていますが、ない方はいますか？」 隣り同士でかりることが出来ない方は、後ほど使用する際に声をかけてください。」 * 「ワークの進め方」シートを見ながら、セルフワークについて、説明をする。○の書き方の例を板書する。 3. 「まずは、ワークの進め方を説明します。A3用紙を横にしておき○を板書で示したように書いておいてください。○の大きさや形は各自自由で構いません。」 4. 「次に用語集を見て、自分の態度・行動の仕方や考え方の特徴、大切なことで、用語集にないものがあれば、空欄に記入ましよう。他人からよく言われることも付け加えましよう。」 5. 「用語集を線にそって切ります。はさみを使わず定規で切ったりしても構いません。」 6. 「A3用紙の前において、その用紙の真ん中に自分の名前やニックネームを書き入れましよう。そして、切	一斉

		り取った用語を真ん中の自分を意識しておいていきます。」 *その際、真ん中の自分とそれぞれの言葉の距離や位置を考えながら配置します。例えば、自分にぴったりとした言葉を、自分の近くに置いたり、或いはその逆というように置いたりしてみるのもいいでしょう。 *言葉同士の関係も考えて位置を決めていくとよいでしょう。例えば、よく似たものをそばに置いたり、その逆というようにしてもいいでしょう。 *コピーされた言葉は全部使い、自分と直接つながないと思うような言葉も、どこかに仮においてみて下さい。 7.「自分なりにそれぞれの言葉の位置が決まれば、のりで貼り付けます。」 8.「貼り終わったら、自分なりに分類して、色鉛筆で色分けします。分類の基準は自分で決めればいいですし、また決めなくても構いません。ご自分が思うような場合合わせをしてみてください。」	
3 セルフワークのまとめ記入 10 分	セルフワークで用紙に貼り付けた全画像から、自分自身の大切なものを整理・統合させるために、振り返りシートに文章で書きとめておく。	「完成」したら、まず眺めてみましょう。さらに、色鉛筆でもっと私に近づけたい言葉は私（中央）に向けて、遠ざけたい言葉は外に向けて、矢印を書いてみましょう。」 *振り返りシートを一人 1 枚ずつ配る 「それでは、自分の大切なことは何か」を文章で表現してみましょう。」 *全体を巡回して、様子をみて次にうつる。	個人ワーク
4 振り返り 35 分	1. 色んな声を聴くことができるように 6～7 人のチームを作る。 *ただし、時間が限られる場合は、4～5 人で実施しても構わない。 2. チームのメンバーで意見交換 *順番を強制しないでひとり 3 分以内 *話をしているときは途中で遮らずに聴く *話終わったら感想を言ってあげる *全部で 1 人 5 分	*6 人 1 組でチームを作ります。机をつけて囲むようにして準備してください。 1.「このワークを通して自分の大切なものを、改めて気づいたり、感じたりしたことを、チームメンバーにシートを見せながら、話をしてみましょう。」 2.「話す時間は 3 分以内をお願いします。順番は強制をせずに決めるようにしましょう。話をする方が話をしている時は、他の方はまずは聴くことにしてください。途中で話をさえぎることは遠慮しましょう。話が終わった時点で、他のメンバーは、一人ずつ、一言、話し手の内容について感想を言ってあげましょう。全員からのフィードバックを含めて、一人について 5 分以内とします。6 人では 30 分ですね。」 「それでは、始めてください。」 *終了時間を板書しておきます。 7 分前に 「そろそろ時間になります。皆さん全員話おわりまし	6 名 1 組

		たか」 ＊まだチームに複数残っているようならば、少しはやめるように促す。 終了1分前に 「時間です。まだ終わっていない方は？ 全員話はしているようですので、こちらで終わります。」	
5 まとめ 15分	1. チーム作業をしての感想をシートに書く 2. チームごとに、1名ずつ話をした感想を発表してもらう。 ＊自分の大切なこと（思い）について、意識して、自らの価値観と他者の価値観の違いを受容して、仕事選択をする際のより所となる価値観を確認しておく。	1. 「それでは、シートにチームで話をしたことの感想として、書き留めておきましょう。5分程度時間をとります。どうぞ、お書きください。」 ＊5分経過又は記入している状況を見て、 2. 「それでは、チームで一人ずつ、話をした感想をお聴きします。どなたか話したい方いらっしゃいますか。」 ＊いれば、そのまま発表してもらう。いなければ、 「それでは、チームで一人ずつ決めて、順番に発表していただきます。簡単で結構です。」 「では、順番に発表していただきます。」 「発表ありがとうございました。」 ＊できれば、一人ひとりにコメントを簡単にする。 ＊そして、コラムを参考に、職業選択に必要な要素としての価値観（大切なこと）を知ることで、これからの仕事選びの参考にしてほしい旨を伝える。 ＊なお、他人と比較したり、どの価値観が正しいといった評価をするものではなく、自分自身の大切なことを自分が理解しておくことが重要であることを説明する。	一 斉

未定稿・禁転載

教員用コラム

《自分の何に気づくのか》・・・3つの側面・・・

1. 社会的な側面

(ア) 普段の生活の中での自分の態度や行動の仕方、一般的に性格と言われる。

気質	先天的	変化しにくい
態度や行動の仕方	後天的	変化が可能

(イ) コミュニケーションの仕方・・・話し方・聴き方などが相手との関係のあり方に影響

(ウ) 影響の与え方・・・自分の発言や行動が、相手にどのような影響を与えているか

2. 心理的な側面

(ア) ものの考え方（価値観）・・・多様化している価値観を受容する（違いを認める）

(イ) 感情の問題（心の動き）・・・よく気がつく人は、相手を良く見ている人。人は心の中で起こっていること（感情）をそのまま外に、からだの動き（表情など）で出しているもの。

3. からだの側面

自分のからだの状況を知ること、自分が相手に与えている影響の質や程度を知ることができるし、それに合わせて、柔軟に対応することができるようになります。相手のからだの状況を意識することは、顔色や表情などに目を向け、伝えることで関係を深めていくきっかけになります。

「気づきのメカニズム」

1. 気づきとは

“気”という言葉は、頭で考えることではなく、内面で起こること、心のレベルで気持ちが動くことを言っています。

気づくとは、心にストレートなもので、ハッとする状態と言えるでしょう。

2. 気づき～行動変容へのメカニズム

K・レビンとは、行動変容の過程に関して「解凍、変化、再凍結」の

1) 気づきの前状態（レディネス）

人は、意識・無意識に関わらず、どこかで変化・成長を願っていますが、一方で、今の状態を保持したいという思いも強いもので抵抗感もあります。

まずは、この抵抗感を壊すことから、変化が始まります。安定状態をぐらぐら揺り動かすことをしないと、停止状態になってしまいます。

今の状態を解凍することによって気づきへのレディネスをつくることになるのです。

2) 気づきから変化へ

揺れ動いている状況のときに、内外から何らかの刺激が加わることで気づきが始まります。

例えば、仲間映った自分の姿をフィードバックされることで、自分のありように気づかされることになるのです。

それまでとは違った自分の姿を見つけることが起こります。新しい自分の発見といえればよいです。

よう。ただし、ここでの刺激の与え方、つまり、フィードバックの仕方は、あくまで相手本位で評価しないこと、非難攻撃であったり、相手がある方向に持っていこうとするものであってはなりません。評価されると防衛的になってしまったり、あるがままの姿が見えなくなり、気づきにつながりません。

3) 変化の定着化

変化したことをそのまま放っておくと、元の状態に戻ってしまう恐れがあります。変化はなかなか定着しないものです。そこで、体験したことの一般化や他者からの承認などが有効でしょう。

4) 気づきの促進のために

- 1) 自分への意識・・・自分ってなにものか？ということに、どれ程関心を持っているかということです。人は、新しい試みをする中で、自分に意識を向けてみると、新しい発見があるものです。
- 2) 自己フィードバック・・・他人からなされるものですが、なかなか普通してもらえないものです。そのため、自分で自分にフィードバックすることを、まずは自分の発言や行動が、相手にどのような影響を与えたのか。ということに目を向けます。
- 3) 他者からフィードバック・・・他者に映っている自分の姿を、評価しないでそのまま教えてもらうことです。

未定稿・禁転載

参考：星野欣生『職場の人間関係づくりトレーニング』金子書房 2007 年（5 ページ～14 ページをもとに作成）

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 第2章4節 自己理解 「私ってどんな人？」
2. 教 材 ワークシート
3. 備 品 カラーペン赤・青（個人）、
その他の色のカラーペン（個人適宜）、
ストップウォッチ（教員用）
4. 指導目標 ・自分の特性を分析することにより、自分にどのような能力・特性がある
 のかを明確化する。
 ・第2章1節から本節までのワークを統合するために、自己紹介マップ
 により自己分析および自己洞察を行う。
5. ワーク「私ってどんな人？」の流れ（90分）
 - 1 導 入（5分） ワークの説明
 - 2 展開①（20分） 「ネガポジマップ」の作成
 - 3 展開②（60分） 「自己PRマップ」の作成
 - 4 まとめ（5分） 振り返り

6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	指 導 上 の 留 意 点	形 態
1 導 入 5 分		1. 「第4節「私ってどんな人？」は、2つのワークを通して、自分の“自己イメージ”を明確にしていきます。」 「前半は自分の特性を、強み・弱みに分けてマップに描き込んでいくワークを行います。」 後半は、第1節からこの第4節までのワークすべてを振り返り、自分とはどんな人物なのかを分析しながら、自己PR用のマップを作成していきます。」 「マップを描く時は、絵文字や、カラフルな色を使って楽しく作っていきましょう。」 最後にメンバーに対し、自己PRの発表を行います。」	一 斉
2 展開① 20 分	「ネガポジまっぷ」の作成	「ある特性を使って、うまくいくことが多ければ長所や強みといわれ、うまくいかないことが多ければ短所や弱点だといわれます。」 たとえば「順番を示した」なら、着実に進める」という特性の人に ・ある場面では「ミスなく安心して任せられる」 ・別の場面では「言われてできることは基本。臨機応変に対応することが必要」といわれます。 特性は、使い方や環境によって、長所になったり短所になったりするものです。特性そのものには、いいも悪いありません。 今はまだ使いこなせていない特性も、磨いていけば長所や強みになっていきます。 だから、今考える特性は、一般的に良いこととして言われているレベルでなくてもかまいませんし、強みや長所にこだわらなくていいのです。 プラスに見える特性はもちろん、マイナスに見える特性も自分らしさです。強みや長所にこだわらずに、自分らしい特性を書き出してみましょう。」	
	Step1 自分の強み・弱みのキーワード出し ・A4用紙または『ネガポジまっぷ』シート（カラー）の確認	1. A4用紙に「まっぷシートの作成例」のような『ネガポジまっぷ』シートをつくります。 または web 版『ネガポジまっぷ』シートを予め人数分印刷し、配布する。 シートの右半分は、自分の強みや得意とすること（知識・才能・特殊能力・ユニークさなど）を書き込みます。 続いて、左半分に自分の弱み、苦手なこと、改善した	個人ワーク

	Step2 各キーワードに対する理由の記入 Step3 弱みのキーワードの見直し Step4 ワークの振り返り	いことを書きます。 ・中心から放射状に広がるように、キーワードを線と丸ワクでつなげていきます。 ・線と丸ワクの色は、強みを赤ペン、弱みを青ペンで描きます。 2. Step1 で書いたキーワードの丸ワクの周りにその理由を書きます。 ・「それはなぜ?」「どんな理由から?」「そのことをどんなふうに感じている?」というような問いかけをしながら、線と丸ワクでつなげていきましょう。 まっぷ記入のイメージがつかみやすくなるよう 参照資料の「記入例」を配布する。 3. 全体の書き込みができれば、弱みのキーワードに注目してみましょう。 弱みのキーワードがもし、見方を変えて長所や強みになったら、赤ペンを使ってつなげてみましょう。 例) 気が強い→負けん気が強い、粘り強い おとなしい→しっかりものを考える 4. 『ネガポジまっぷ』が完成したら、全体をながめて感じたことを記入しましょう。	
3 展開② 60分	1. 「自己PRまっぷ」の作成 Step1～Step3までで〈30分〉 Step1 自分のイメージイラストを描く ・『自己PRまっぷ』シートを配布する Step2 自己PRのキーワード出し Step3 各キーワードに対する理由・エピソード	1. 第2章1節から行ってきたワーク（「過去を振り返ろう」、「自分を知る手がかり」、「私の大切なもの探し」と、先ほどの「ネガポジまっぷ」の4つを振り返り、自己紹介をするための『自己PRまっぷ』を作ります。 まず、A4用紙の中心に“自分”をイメージするイラストを描きます。まっぷシートの作成例を参考にして書いてみましょう。どんなイラストでもかまいません。イラストがうまく描けない人は、ハートマークでも顔マークでもいいです。 2. 中心イラストから放射状に自己PRしたい情報を書いていきます。 「私ってこんな人」と相手に伝えるため、4つのワークを振り返り、メインとなる特徴や特性、性格などをキーワードで書き込みます。 ・『ネガポジまっぷ』と同じようにキーワードを線と丸ワクでつなげていきます。 ・線と丸ワクの色は何種類使ってもかまいません。関連性のある項目ごとに色分けしていきましょう。 3. 主になるキーワード（メインキーワード）が書けた	個人ワーク

	ードの記入 Step4 発表用原稿作成〈10分〉 Step5 メンバーに対し発表〈20分〉 ・4～5人のチームを作る ・時間を計りながら、クラス全体で同時進行する (発表：1人 1分30秒) (感想：1人 30秒×4～5人)	ら、その周りに理由やエピソードを書きます。 このときなるべく短い言葉で、絵文字や記号を使って楽しく書いていきましょう。 4. まっぷが完成したら、メンバーに自己PRの発表をするための原稿を作ります。 マップを見せながら、1分30秒で伝えられるようなストーリーを作りましょう。 5. 4～5人1組でチームを作ります。机をつけて囲むように準備してください。 発表原稿を基に、メンバーにまっぷを見せながら発表します。 発表が終わったら、メンバーは一言ずつ感想を言いましょう。 終了時間を板書しておく	
4 まとめ 5分	第4節振り返り	「学校、サークル、アルバイト、就職…新しい環境で初めて出会う人たちと信頼関係を築き、よりよいコミュニケーションを図っていくには、まず自分のことを相手に理解してもらう、お互いを認め合うことからスタートします。」 「自分のことを相手に理解してもらうには、まず自分が自分のことをわかっていなければなりません。 「私って一体どんな人なの?」、「どんなイメージがあるのだろうか?」ということを明確にさせるには、さまざまな角度から、自分のことを客観的に分析することが必要です。」 「自分を他者にアピールするには、現在の自分を把握し、自分について自分なりの自己評価と自信をもつことが必要です。 また、自己紹介や自己アピールをするには、まったくの他人が聞いても理解でき、納得できる内容にしなければ自分のことをわかってもらうことはできません。」 「自分の気持ちや状況は、具体化して言葉で表現することで、初めて相手に伝わることになります。」 「第2章では自己理解のためのワークをいくつか行ってきました。そして今回は様々な角度から自分を分析したものを積み直す(再構築して、統合する)ことを目的に、この『自己PRまっぷ』を作成しました。 このまっぷは、今日で終わりということではなく、これからの人生のターニングポイントに立った時に、自分を振り返るという意味でつくってみるといいでしょう。」	

参考：梅田幸子『あなたの天職がわかる 最強の自己分析』(株)中経出版 2009年1月25日(31ページ～33ページ、82ページ～83ページ)

ネガ・ポジまっぴ

自分の弱み

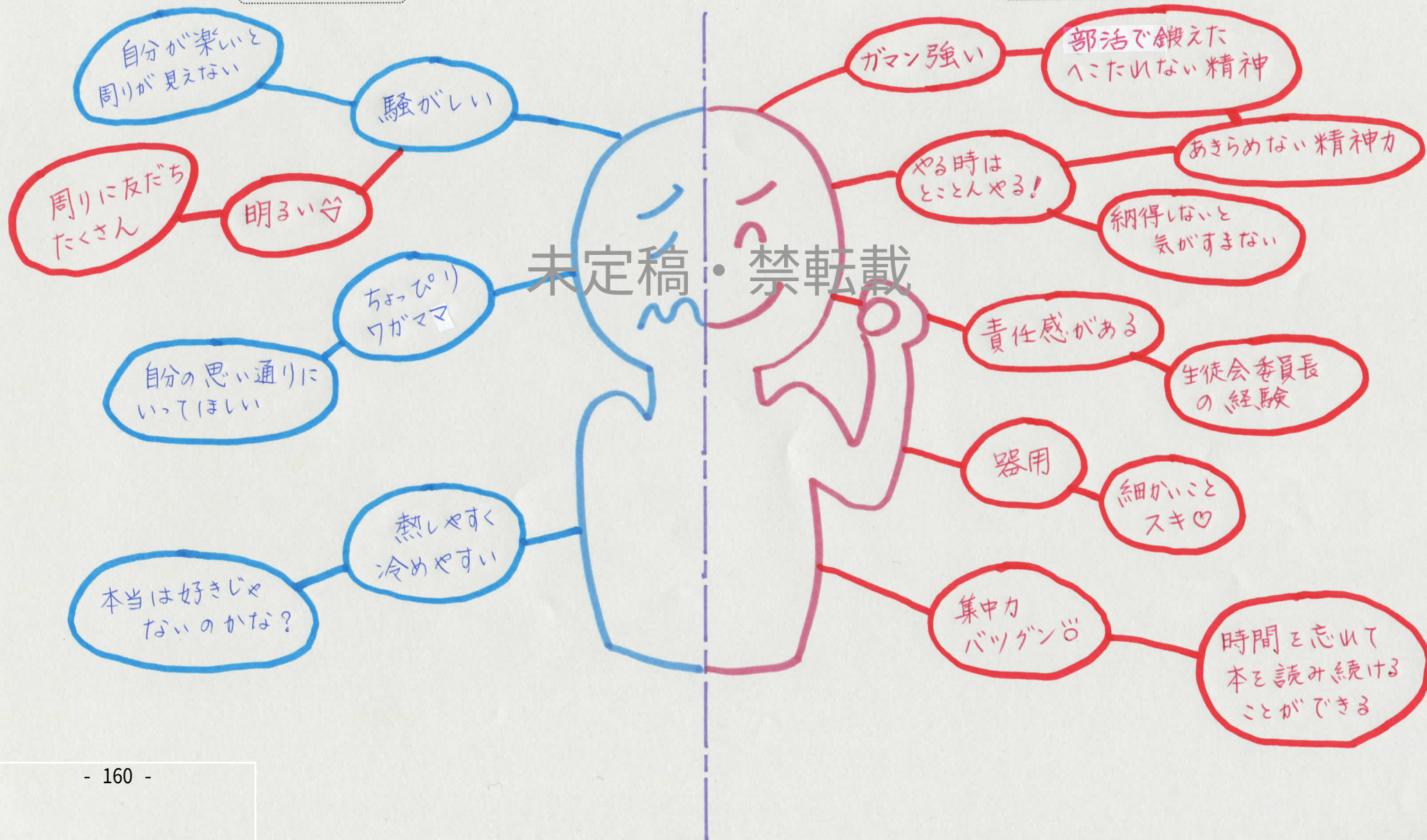
自分の強み

未定稿・禁転載

ネガ・ポジまっぴ

自分の弱み

自分の強み



教 員 用 ガ イ ド

- | | |
|---------|--|
| 1. ワーク名 | 第2章 第5節「なぜ働くの？」 |
| 2. 教 材 | ワークシート |
| 3. 備 品 | ストップウォッチ（教師用） |
| 4. 指導目標 | ケースを通して、仕事・働くことを思い考えてみる。
働く理由について、他者に伝え、そして聴くことで、他者と自分の働く意味をそれぞれ受け入れてみる。働くことには、多様な価値感の中、人それぞれであることに気づく。 |

◎教員としての大切な価値観

- ・働く意味は、人それぞれ多様である。
- ・今見つからない人は、見つからない今を受け止め、探す意識をもつこと。
- ・他人と違うことは、有意性がある。

《留意事項》

参加者が全員で心地よい時間を作る

- セルフワークでは、一回りな気にせず正直な自分の気持ちを書きます。ワークシートに記入する時間では、開始と終了の合図をします。その時間は一人ひとりの大切な時間なので、静かに自分自身との対話をしましょう。終了前に書き終えた方は、終了の合図まで他の方が心地よく対話をしていることに配慮して、今一度脳裏で自分と対話しておきましょう。
- 記入したワークシートは、他人に見せる必要はありません。教員も本人の承諾なく見ることはしません。安心して自由に書いてみましょう。同時に隣の方や前後の方のワークシートを本人の承諾なしに見ることは遠慮しましょう。
- ワークシートは、今後皆さんが気づいたときに振り返って何度でも書き直したり、書き加えたりして構いません。また、将来働きだしたとき、思い出すこともあると思います。
- チームワークでは、書いたことをすべてお話する必要はありません。自分から話をしたいと思う事柄を話していただければ結構です。また、他人の個人的な内容をメモすることは遠慮しましょう。チームで話をする際は、原則、筆記用具を持たず話をする、聴くことに専念しましょう。
- メンバーで話をする際、他人の話を中断するような質問や自分の発言は控えましょう。他人の話に反論することはしないことをルールとします。各自の話は、人それぞれの声だと受け止めましょう。
- メンバー内で、話をする役、聴く役と固定的にならないように、全メンバーで互いに気遣いながら進行しましょう。進行役をあえて決めず、全員がお互いに意識して、話をする順を決めてください。話をするのが苦手の方もいます。温かくチームメンバーとして対応しましょう。話ができないことは悪いことではありません。
- 授業時間で、話された内容はこの授業内だけに留めてください。授業が終われば、内容はリセットして、他人に話しをすることは避けましょう。

5. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学習内容および手順	指導上の留意点	形態
導入 5分	1.本時の授業内容の概要を説明する。 2.ケース：Yさんの話を読んで、セルフワークとチーム学習を行う。	1.第5節「なぜ働くの？」は、2件のケースから、働く意味や価値感を考え、話し合いをします。そして、自分にとっての働く理由や思いを考えてみます。話し合う時間では、その場の雰囲気大切に皆さん参加しましょう。	一斉
展開 75分	1.Yさんの話から 説明からセルフワーク (10分) 2.4～5人のメンバーで一人ずつ自分の専攻理由の話しをする (12分)	1.「それでは、17ページのYさんの話を各自読んでみましょう。そして、読み終わりましたら、18ページに「Yさんにとっての「働く意味」はどこにあると思いましたか」、各自書いてください。 10分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 (巡回をして進捗状況を見てください。時間は数分前後させて構いません。) ＊ ペンが止まっている人には、近くによって、「今どんな感じですか?」「私がアドバイスできることありませんか?」などと声をかけましょう。 2.チームを作ります。メンバーは4～5人で作ってください。時間も考慮して、先生が分けてください。 「一人2分程度です。順番は話をしたい方から、「それでは私が」と言って話しをしてください。時間は自分で管理しましょう。話をしている間は、他の方は優しく注目して静かに聴きましょう。 終われば、他の方へとすすめてください。」 チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内でお話をしていてください。 18ページのメンバーの意見を聞いて、気づいたことを書いておきましょう。 ＊ チーム間の進捗状況を巡回しながら確認すること。 場合によっては、短縮延長を行い、状況を見て、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言してください。	セルフワーク チーム学習
	1.S君の話から 説明からセルフワーク (13分)	1.「次に、19ページのS君の話を各自読んでみましょう。そして、読み終わりましたら、20ページに「S君は就職の条件にどんなことを優先していたか。また、それがどのように変化していったか」、各自書いてください。 8分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 (巡回をして進捗状況を見てください。時間は数分前後させて構いません。) ＊ ペンが止まっている人には、近くによって、「今どんな感じですか?」「私がアドバイスできることありませんか?」などと声をかけましょう。	セルフワーク

	2. 4～5人のメンバーで一人ずつ、自分の専攻理由の話しをする（12分）	すか？」などと声をかけましょう。 2. 次に20ページ中段の「あなた自身の仕事の価値はどのようなところにおいているか5つ書き出してみよう。そして、その5つに優先順位を1から5を書き込みましょう。 5分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 （巡回をして進捗状況を見てください。時間は数分前後させて構いません。） 2. チームを作ります。メンバーは4～5人で作ってください。時間も考慮して、先生が分けてください。 「一人2分程度です。順番は話をしたい方から、「それでは私が」と言って話しをしてください。時間は自分で管理しましょう。話をしている間は、他の方は優しく注目して静かに聴きましょう。 終われば、他の方へとすすめてください。 チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内で話をさせてください。 20ページのメンバーの意見を聞いて、気づいたことを書いておく。 ＊ チーム間の進捗状況を巡回しながら確認すること。 場合によっては、短縮延長を行い、状況をみて、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言してください。	チーム学習
	1. 「なぜ働くの？」という問いに考えてみる（8分） 2. 6～8人のメンバーで一人ずつ、自分の専攻理由の話しをする（20分）	1. 「次に、21ページの①「私はなぜ働くのか」について、自分の思いを考えてみましょう。文章でも単語でも思いつくまま書き留めてください。 8分程度の時間をとります。それでは始めましょう。」 （巡回をして進捗状況を見てください。時間は数分前後させて構いません。） 2. チームを作ります。メンバーは6～8人で作ってください。時間も考慮して、先生が分けてください。 ＊これまでのチームメンバーより多くの人数を想定しています。できるだけ沢山の方の話を聴くためですが、時間と雰囲気によっては、4名程度でも構いません。 「一人2分程度です。順番は話をしたい方から、「それでは私が」と言って話しをしてください。時間は自分で管理しましょう。話をしている間は、他の方は優しく注目して静かに聴きましょう、否定したり非難することは遠慮しましょう。 一人ひとり異なる働く理由があるものです。統一見解や結論は出す必要はありません。他人がどこに価値をおい	セルフワーク チーム学習

		ているかを受け止めて聴きましょう。 終われば、他の方へとすすめてください。 本来は、話の中身をメモすることは控えますが、誰が言ったかを特定せず、いいなと思った言葉は、自分のこれからの成長のためにのみ書き留めておきましょう。 チームによっては、早く終わったりするかもしれませんが、他のチームが終わるまではもう一度メンバー内でお話をしてください。」 ＊チーム間の進捗状況を巡回しながら確認すること。場合によっては、短縮延長を行い、状況をみて、気づきの記入を進めて、時間内に終わるように助言してください。	
まとめ 10分	第5節を振り返り	1.今日のセルフワークとチームでの話し合いを通じて、時間をみて、感想を発表してもらおう。 ＊指名をせずに発表してもらいたい旨を伝えて、挙手した方の発表を期待する。 2.セルフワーク中の記入に様子やチームの話し合いから、留意事項を提案として伝える。 例えば、「今日はなかなか記入できなかった方もいるでしょう。今日は受けなかったという事実として、また気になったときに受けたいと思います。」 「チームでの話しあいでは、今日の内容はどれもその人にとっては正解です。いまは話せないということもあるんだ。と受け入れましょう。」 3.本時のワークシートをリングファイルに綴じて、終わります。 「ワークシートの右上に、「今日の日付」を記入しておきましょう。」	

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 第3章1節 仕事理解 「地図を作ってみよう！」
2. 教 材 ワーク解答（チーム数）
 地元の地図（チーム数分、Google等の地図でも可）
 地元の観光情報
 （観光ガイド本、パンフレット、インターネット検索も可）
 コミュニケーション特性評価カード（人数分）
3. 備 品 ストップウォッチ（教師用）
 メモ用紙（裏紙でも可）
 筆記用具（個人）
4. 指導目標 仕事理解の入り口として、チーム作業を通じて、仕事をする上での自分の特性を知り、それを実際の職業に結びつける。

①チーム作業を通じて自分の役割を知る
チームでの作業を通して、自然と自分の得意とする役割を知る。また、他のメンバーから自分の役割を教わることで気づきを得る。

②仕事の全体像とコミュニケーション特性を理解する
仕事における制約を学び、仕事での自分自身のコミュニケーション特性について知る。

③自分にあった仕事を考える
「能力と特性」「希望や志向」「知識や経験」という切り口で仕事をとらえる。

5. ワーク「地図を作ってみよう！」の流れ （90分バージョン）

- 1

 「ウォーミングアップ」（15分）
★5人一組のチーム
★アイスブレイク的なゲーム
- 2

 案内マップ作成ワーク（30分）
★先ほどと同じ5人1組でワークに取り組む
- 3

 仕事の進め方、コミュニケーション特性についての説明（10分）
- 4

 メンバーのコミュニケーション特性の話し合い（15分）
★先ほどのワークを振り返りながら、自分のコミュニケーション特性を考える
★メンバーのコミュニケーション特性を考える
★皆で、考えを発表しあう

5 自分にあった仕事（10分）

6 まとめ・復習（10分）

未定稿・禁転載

6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教員の発問および注意点	形態
1 ウォーミングアップ 15 分 手順 1 (5 分) 手順 2 (5 分程度) 手順 3 (5 分)	1. アイスブレイクの役割。チームでの作業が円滑に行えるように、教員は気を配る。 2. チーム作業	1. 説明 「ウォーミングアップとして、簡単なクイズをチームで行ってもらいます。まずは 5 人 1 組になってください。」 →あらかじめ 5 人 1 組になるようにしておくのも可 「隣の部屋の机の上(もしくは廊下)に、ある図形が書かれた紙が置いてあります。チームのうち一人が、それを見に行き、その紙に書かれているものを、チームに渡した紙にみんなで再現してください。メモを取ってきたり、写メしてはダメです。見に行った人が直接紙に書くのも禁止します。あくまで口頭で伝えてください。」 「見に行けるのは一回につき、ひとりだけ。見に行く回数には制限ありません。見に行った人が戻ってきたら、別の人が見に行ってもかまいません。制限時間は 5 分。絵の上手い下手ではなく、どれだけ正確に再現できているか、が大切です。」 2. 「ではじめてください。」 ・チームで一人だけが見に行く ・メモなどを取ってはいけない ・見に行った人が直接鉛筆を持たない というルールが守られているか確認する。 3. 「どうでしたか?ちゃんとできましたか?」 (時間があれば、チーム毎に発表してもらおうなど) 正解の紙を、隣の部屋から持ってきて、答えあわせを試みる。	5 人 1 組
2 案内マップ作成 30 分 手順 1 (5 分)		1. (説明) 「今のチームで、もう一度作業をしてもらいます。今度が本番です。しかも、次は仕事です。目的があります。」 「制限時間は 20 分。今回も絵の上手い下手は問いません。いかに目的に沿っているかが、大切です。」	5 人 1 組

手順 2 (30 分程度)		「今回は地元の案内マップを皆さんで作ってもらいます。これは 65 歳以上のお年より向けのマップです。ルールは先ほどと一緒に、基本的な地図は皆さんにお配りしますが、観光情報は別室にあります。」 「お年寄りが見ることを意識して、喜んでもらえるようなマップを、再現するのではなく、話し合っ作ってください。」 2. 「でははじめてください。」	
3 仕事の進め方等 説明 10 分		1. シェアリング 「どんな観光マップができましたか？」 →発表する、隣のチームと情報交換するなど 2. 仕事の進め方。 お年寄りかもしれませんが、今していただいたのは仕事なのです」 「仕事の進め方としては、 ①仕事には条件(制約)がある →時間、隣に行かないと見られない、見た人は書けない、 ②受け取る人のニーズ(求めているもの)を理解する →65 歳以上向け、観光ガイド ③チームでどうしたら応えられるか、と考え話し合う →進め方を考える、役割分担 ④ニーズに応じているものを提供する →実際に作業をする、成果を出す の 4 つの要素が必要になります」 「上手に仕事を進めるには、 ①それぞれのメンバーが持っている能力を発揮する ②能力に応じて、役割分担をする ③常に目的を忘れずに、仕事を進める の 3 点が大切です。」 3. 仕事のコミュニケーション特性 「この仕事の中で、あなたはどんな能力を発揮し、どんな役割を果たしていましたか？それが、仕事のコミュニケーションにおける自分の特性なのです。」	講義

4 コミュニケーション特性 15 分		「あなた自身ではなく、他の人がどのように感じているかを知ることが、より正確にあなたの特性を知ることになります。」 1. 準備 ・特性評価カードを配る 2. 説明 「では今配った紙に、メンバーの名前をすべて書いてください。」 「そして、それぞれの人の特性を、先ほどの作業を思い出しながら、ひとつ選び、その理由や、一緒に仕事をしていてよかったな、たすかったな、と思うことを一言かいてください。3 分間です。」 3. 作業 4. チームの話し合い 「それではチームで、それぞれ感じた特性を教えてください。教えてもらった特性は、是非メモしてください。」	5 人 1 組
5 特性の説明と、自分にあった仕事 10 分		1. 説明 「5 つの能力について、簡単に説明します。 ①観察力や分析力に優れている可能性が高いタイプの人です。ものごとを深く見たり、その事実を正確に捉えることが出来ます。 ②緻密さや正確さに優れている可能性が高いタイプの人です。決まったことに対して、責任を持ってやりきることが出来ます。 ③アイデアや発想力に優れている可能性が高いタイプの人です。常に新しいチャレンジや楽しみを見つけることが出来ます。 ④バランス感覚や統率力に優れている可能性が高いタイプの人です。物事の真理を見極め、本質を追求することが出来ます。 ⑤サービス精神があり、受容力（人を受け入れる力）に優れている可能性が高いタイプの人です。他の人の才能	講義

		を活かしたり、元気付けることが出来ます。 2. 他人から見たあなたの能力 「では先ほど、メンバーからのあなたに対するフィードバックをもう一度見てください。 特性が、ひとつに集中している場合は、その能力が際立っているということです。分散している場合は、いろいろな能力がバランスよく発揮できているということ。 理解してほしいのは、あなたにはコミュニケーションにおいて、優れている能力が必ずあるということです。 その能力が、あなたが仕事についたときに、価値となって、必ず誰かの役に立つのです。」 3. 自分にあった仕事 「次に3つの大切な輪について説明します。 3つの大切な輪 能力や特性 知識や経験 希望や志向 ココがベスト これは、先ほどのゲームでやったときに見えたような、あなたが持っている仕事の根っこの力です。 この根っこの力は、これから先、あなたが仕事をして生きていくにあたっての、心強い味方になります。 自分にあった仕事を見つけるために、自分がどんな能力や特性を持っているのかを、確認することが大切です。」 4. 素直になろう 「是非自分のやりたいことに、素直になりましょう！ 何をしたいのか？＝希望や志向というもの、大切なことです。 5. 志向について 「先ほどのゲームを思い出してください。	
--	--	--	--

		たとえば、 地図全体をどう表現するかを考えるのが楽しかった。 ⇒WEB制作やクリエイティブに志向があるかも。 ⇒ITやものづくりにも志向の可能性あり。 お年寄りの気持ちを考えるのが楽しかった。 ⇒介護や医療に志向があるかも。 お年寄りをどう案内するかを考えるのが楽しかった。 ⇒観光やホテルに志向があるかも。 ⇒様々なコーディネートの仕事に志向があるかも。 お年寄りに『地元のコレ』を食べてもらいたいと思った。 ⇒調理の分野に志向があるかも。 #ここは、それぞれの専門学校ごとにアレンジしてください」 6. 「なんとなく、でもいいんです。 楽しいな、楽しかったな、と思う気持ちが、正直なあなたの「志向」です。そしてその志向が固まって、これ！という希望が生まれてくるんです。」	
6 まとめ 10分		1. 知識と経験 「そして、 自分の能力・特性を活かし、 志向や希望をかなえていくためには、 知識と経験、つまり資格に向けて勉強をしたり、実習をしたりするのが必要なんです。」 2. 仕事理解 「根っここの力があって、 やりたい気持ちがいっぱいでも、 それをやれる知識と経験は不可欠。 だから、自分でどんな知識と、経験を身につけるのが、 自分にとって必要なのか、それを知り、自分で選び、一歩前に出るのが、具体的な仕事理解であり、進路選びにつながります。 3. 「もう一度、今日のシートと、丸が3つの図を見てください。 そして、あなたの目指す仕事について、考えてみてください。」	講義

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 第3章2節 仕事理解 「ケーススタディで学ぶ実際の仕事」
2. 教 材 学生用ガイド
3. 備 品 ストップウォッチ（教師用）、
筆記用具（個人）
4. 指導目標 実際に仕事を行っていく時に知っておくべき用語や起こりうる状況を、
（全体） ケーススタディで確認する。ともすれば専門能力だけに頼ってしまう
結果、職場が求める能力との違いでストレスを感じることを防ぐとと
もに、学生のより適切な企業選択につなげたい。

① ケースを読み仕事上の様々な困難なケースを想像してみる

ともすれば理不尽なことが、実際の業務の現場では起こりうる。早期退職を防ぐためにも、事前にケースを通じ、社会人としてどのような対応を求められているのかを、考える。

② チームで話し合い、問題を共有する

なにか困難なことがあったときに、周りに相談し、いろいろな気づきが得られることを体感する。

③ 専門能力だけではない、職場で求められる能力について理解する

5. CASE 別のねらい

① CASE1 配属の決定

○ 自分の未知の可能性があることに気付こう。

業務のモチベーションを高めるには、自分が気に入った仕事をしていくことも必要だが、これからの長い社会人生活、仕事を通してのキャリア・ライフを歩んでいくときに重要なのは、自分の未知の可能性を発見していくことである。→ジョハリの窓

② CASE2 電話応対

○ メモ作成の重要性・コミュニケーションの重要性の確認を

名指し人に内容が適切に伝わることの重要性の確認。伝言メモを作成することも、社内コミュニケーションの重要な要素であることを理解して欲しい。

また、実際の会話の内容にかかわらず、情報を伝えることの重要性も理解して欲しい。自分の価値観だけで判断しないことを理解して欲しい。

③ CASE3 クレーム処理

○ 今できることは何？その範囲を広げていこう！

顧客意識＝CS意識が重要ではあるが、お客さまのいわれたとおりの行動をすることだけが、必ずしもCS意識ではないことを確認。

また、非常に困った状況に陥ったとき、どのように対応・対処していけばよいのかを考えて欲しい。（決して How To ではなく）

④ CASE4 上司からの命令①

○ 組織構成員の役割と仕事について理解を

業務指示であっても、引き受けたということは、どのような意味を持つのかを理解して欲しい。

課長（この場合）の役割、個々の社員の役割があり、それらが有機的結合されて組織運営がなされていることを説明してほしい。

⑤ CASE5 上司からの命令②

○ 提案型質問の確認

この状況で依頼を受けた人が、依頼者の満足度を達成する仕事はできない。

→情報が不足している。

そこで情報収集に入るわけだが、例えば“いつまでに？”、“どのように？”といった質問を依頼者はどのように感じるだろうか？

“～時頃だったらお届けできますが、よろしいですか？”、“ステプラーで1部ずつ留めたいと思いますが、よろしいでしょうか？”というように、自分のプランを織り込んで、依頼者に確認することで、より具体的に作業の情報が得られることを確認して欲しい。

⑥ CASE6 コンプライアンス

○ コンプライアンス意識の確認

社内で個人に提供される、メールアドレスやパソコン環境は業務を推進するためのものであり、決して個人のものではないことを確認して欲しい。

また昼休み中とはいえ、業務に関連の薄いことは避けること。社内でやり取りされるメールやアクセスサイトについて、システム管理者は内容を閲覧しても、それは憲法の通信の自由に抵触しないとの判例が出ていることも確認して欲しい。

6. ワークの流れ

1 「ウォーミングアップ」（10分）

★Step 1 の振り返り

★アイスブレイク的なゲーム など

2 ケース（20分×2）

★ケースを2，3選び、最初は個人で、次に3～5人のチームで話し合う。

3 職場で求められる能力についての説明（20分程度）

4 まとめ・復習（10分）

7. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教員の発問および注意点	形 態
1 ウォーミングアップ 10 分	1. 今までの振り返り。	1. 今までの振り返り 今回は、実際の職場のシミュレーションが中心になります。 今までの自己理解や仕事理解の Step 1 を振り返った上で、働く自分をイメージできるように導入しましょう。 2. ウォーミングアップとしてのアイスブレイク 「チーム作業を進める時のヒント」で紹介した漢字クイズなど、簡単なアイスブレイクをよいもの、これからのチーム作業を円滑にするためにも効果的です。	3～5 人 1 組
2 ケース 20 分×2	1. 個人作業 2. チーム作業 3. 全体でのシェアリング	ケースを 2 つ程度選択する。時間配分や進み具合などは学生の様子を見て判断してください。また 2 つ 3 つ同じ形式でやるのに飽きたようであれば、コラムを読ませるなどアレンジしてください。 1. ケースを読む (5 分程度) 「まず、ケース×を個人的に読み、自分ならどうするか、感想欄に書き込んでみましょう。」 2. チームで話し合う (10 分程度) 「次に、チームで話し合しましょう。皆さんが実際にその場にいたら、社会人としてどのような行動をとると思うか、またとるべきかを、メンバーと話し合ってみてください。」 3. 発表・解説 (5 分程度) ・いくつかのチームに話し合った結果を発表してもらう ・教員から解説やコメントをする (時間があれば、グループ毎に発表してもらうなど) 正解の紙を、隣の部屋から持ってきて、答えあわせを試みる。	個人→ 3～5 人組
3 職場で求められる		「企業が新入社員に求める能力」「ビジネスに必要な 8 つの意識」「社会人基礎力」の 3 つのシートを用意しています。学生が一番理解しやすいものを選んで、今回の	講義

能力説明 20 分		ケースを振り返りながら、説明をしてください。	
4 まとめ 15 分			

未定稿・禁転載

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 第3章3節 仕事理解 「インタビューしてみよう！」
2. 教 材 学生用ガイド
3. 備 品 ストップウォッチ（教師用）、筆記用具（個人）

Step 3 身近で働いている人の話を聞こう

“先生ご自身の経験を社会人の先輩として学生にご紹介ください。”

“OB・OGを特別講師として招いて、学生の前で入社してからの経験や感じたことなどを話してもらいましょう”

OB・OGを招いて、学生に向けて、就職してから、最も驚いたこと、頑張らなければいけないと思ったこと、仕事をしていて楽しいと感じることなどを中心に話してもらう機会を作ってください。

そのような機会が作れない場合には、学生には、自分の身近にいる家族や親戚、友人などで働いている人達にインタビューするように、色々な話を聞くことを勧めてください。

“次の用語について説明してみよう”

ねらい：求人票に記載されている用語や関連用語についての確認

4. 指導目標 実際に仕事を行っていく時に知っておくべき用語や起こりうる状況を、ケーススタディで確認する。ともすれば専門能力だけに頼ってしまう結果、職場が求める能力との違いでストレスを感じることを防ぐとともに、学生がより適切な企業選択につなげたい。

① ケースを読み仕事上の様々な困難なケースを想像してみる

ともすれば理不尽なことが、実際の業務の現場では起こりうる。早期退職を防ぐためにも、事前にケースを通じ、社会人としてどのような対応を求められているのかを、考える。

② チームで話し合い、問題を共有する

なにか困難なことがあったときに、周りに相談し、いろいろな気づきが得られることを体感する。

③ 専門能力だけではない、職場で求められる能力について理解する

5. ワークの流れ

- 1

 「ウォーミングアップ」 (10分)
 - ★Step 1 の振り返り
 - ★アイスブレイク的なゲーム など
- 2

 ケース (20分×2)
 - ★ケースを2, 3 選び、最初は個人で、次に3～5 人のチームで話し合う。
- 3

 職場で求められる能力についての説明 (20分程度)
- 4

 まとめ・復習 (10分)

未定稿・禁転載

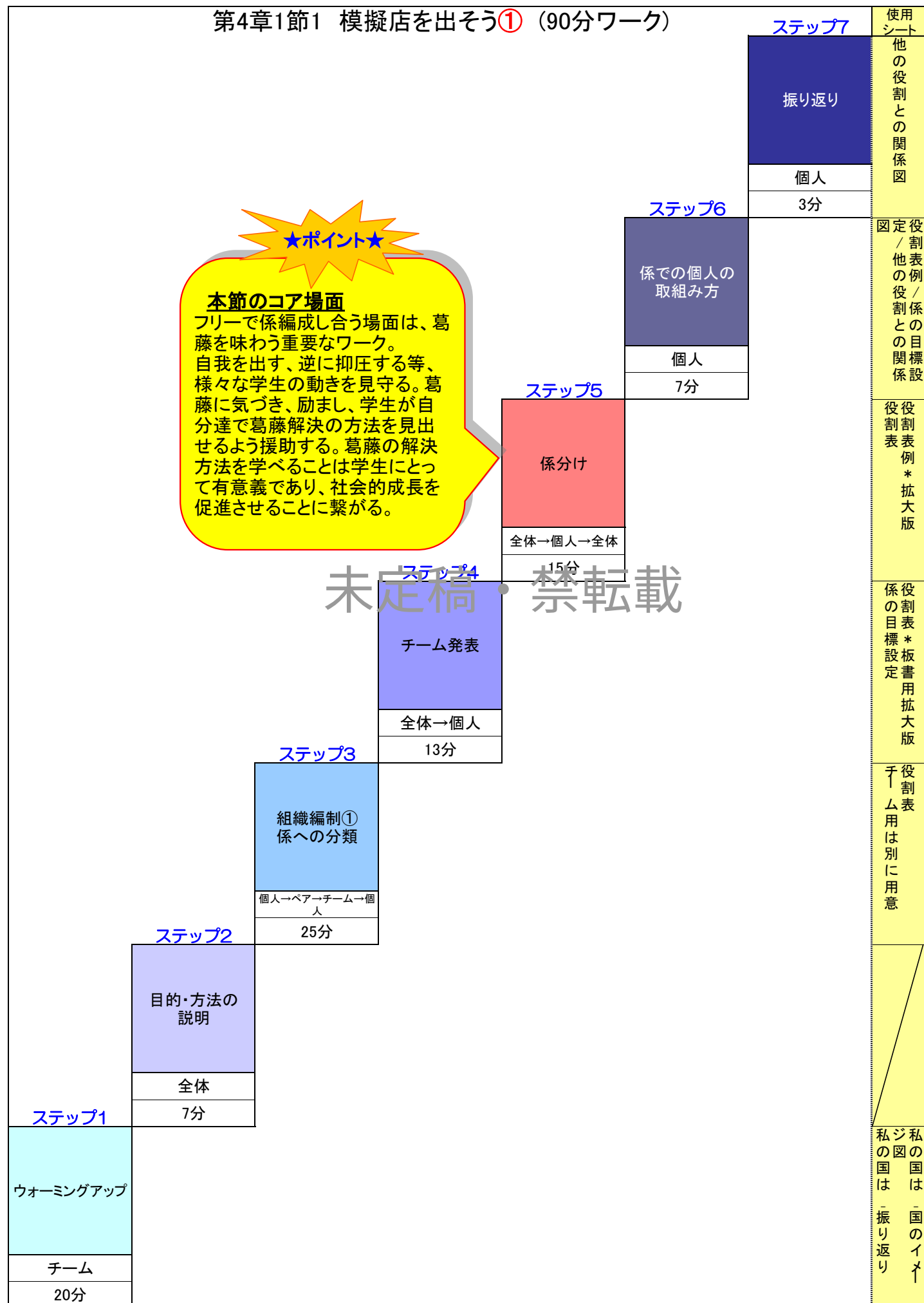
6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教員の発問および注意点	形 態
1 ウォーミングアップ 10 分	1. 今までの振り返り。	1. 今までの振り返り 今回は、実際の職場のシミュレーションが中心になります。 今までの自己理解や仕事理解の Step 1 を振り返った上で、働く自分をイメージできるように導入しましょう。 2. ウォーミングアップとしてのアイスブレイク 「チーム作業を進める時のヒント」で紹介した漢字クイズなど、簡単なアイスブレイクをよいもの、これからのチーム作業を円滑にするためにも効果的です。	3～5 人 1 組
2 ケース 20 分×2	1. 個人作業 2. チーム作業 3. 全体でのシェアリング	ケースを 2 つ程度選択する。時間配分や進み具合などは学生の様子を見て判断してください。また 2 つ 3 つ同じ形式でやるのに飽きたようであれば、コラムを読ませるなどアレンジしてください。 1. ケースを読む (5 分程度) 「まず、ケース×を個人的に読み、自分ならどうするか、感想欄に書き込んでみましょう。」 2. チームで話し合う (10 分程度) 「次に、チームで話し合います。皆さんが実際にその場にいたら、社会人としてどのような行動をとると思うか、またとるべきかを、メンバーと話し合ってみてください。」 3. 発表・解説 (5 分程度) ・いくつかのチームに話し合った結果を発表してもらう ・教員から解説やコメントをする (時間があれば、チーム毎に発表してもらうなど) 正解の紙を、隣の部屋から持ってきて、答えあわせをしてみる。	個人→ 3～5 人組
3 職場で求められる		「企業が新入社員に求める能力」「ビジネスに必要な 8 つの意識」「社会人基礎力」の 3 つのシートを用意しています。学生が一番理解しやすいものを選んで、今回の	講義

能力 説明 20 分		ケースを振り返りながら、説明をしてください。	
4 まとめ 15 分			

未定稿・禁転載

第4章1節1 模擬店を出そう① (90分ワーク)



第4章1節2 模擬店を出そう② (90分ワーク)

第4章1節2 模擬店を出そう② (90分ワーク)			ステップA	使用シート
★ポイント★ 本節のコア場面 話合いで担当分けをすることは、葛藤を味わう重要なワーク。決め方は敢えて提示せず、チームの成熟度に合わせ、建設的話し合いが成されているか見守る。葛藤は抑圧せず、場に応じ表出させることが必要となる。学生が逃避することなく、葛藤を直視し、主体的に取り組めるように支持する。	総振り返り		全体	振り返り
	12分			
	ステップ6		係ごとの発表	係の方策・決定
	全体			
	6分			
	ステップ5		係全体の「方策・決意」の決定	係の方策・決定
★ポイント★ 本節のコア場面 話合いで担当分けをすることは、葛藤を味わう重要なワーク。決め方は敢えて提示せず、チームの成熟度に合わせ、建設的話し合いが成されているか見守る。葛藤は抑圧せず、場に応じ表出させることが必要となる。学生が逃避することなく、葛藤を直視し、主体的に取り組めるように支持する。	係		7分	係の方策・決定
	ステップ4		1.担当分け 2.担当の取組み方の決定	担当の目標設定
	個人→係→個人→担当			
	28分			
	ステップ3		組織編制② 担当への小分類	役割表は別に用意
	個人→係			
★ポイント★ 本節のコア場面 話合いで担当分けをすることは、葛藤を味わう重要なワーク。決め方は敢えて提示せず、チームの成熟度に合わせ、建設的話し合いが成されているか見守る。葛藤は抑圧せず、場に応じ表出させることが必要となる。学生が逃避することなく、葛藤を直視し、主体的に取り組めるように支持する。	12分			
	ステップ2		1.前回の振り返り 2.係の取組み方の決定と発表	係の目標設定
	全体→係→全体			
	10分			
	ステップ1		ウォーミングアップ	他の役割との関係図
	チーム			
15分				突然の雨 振り返り

教員用ガイド

第4章第1節「私の国は？」

(ウォーミングアップ)

1.ウォーミングアップの目的

対先生: 学生が如何に参加しているかの初期観察の場

受信/送信の意思疎通が行われているかのアセスメント

対学生: 緊張をほぐす・場に馴染む

2.「私の国は」の目的

擬人化したツールを使用することで、自他フィードバックをしやすくし、関係性を作る入り口を柔軟にさせる。

感覚的・実感的な感性を触発させ楽しませることで、仲間から受け入れられる喜びを与え、場をほぐす。

他者が自分に対し、さまざまな印象・感じ方を持っていることを知ることで、自分ひとりでは見えなかった自分に気づくことを促進する。

3.手順

所要時間: 15～20 分前後

チームの大きさ: 4～7 人

使用シート: ①私の国は_国のイメージ図_②私の国は_振り返り_

未定稿 禁転載

1)個人ワーク: シート①より、自分とチーム全員のイメージに合う国を選び、理由を②へ記録 (3 分)

2)チームワーク: 着席前後左右の 4 人チームになり、相互フィードバックし②へ記録 (8～13 分)

3)個人ワーク: 振り返りシートへ記入 (2 分)

4)全体: 2～3 名に感想を述べてもらう (2 分)

ー・ー・時間がある場合・ー・ー * 目的は初期段階での調子の観察、場作りにあるため、(4) (5)は省略可

4)個人ワーク: シート①各国の解説を読み、その特色を下段「キーワード」より選び、()へ記入(2 分)

5)全体: 先生がキャリア・アンカーの概要を解説 (3 分)

4.備考

1)作業を通して見えてきた自己イメージと、他人が認識した自分の姿との差を感じ取ることに重点を置くため、先生からのコメントは控えめにし余韻を残す。

2)先生の裁量で国名の変更、或いは国以外にもクラスの構成員に馴染みやすいものへアレンジしてもよい。

<アレンジ例>

- ・学校法人内の学科や分校
- ・近郊の市区町村
- ・地域の特産物
- ・身近な名物店舗
- ・地域や学園ゆかりの歴史上の人物 …等

教 員 用 ガ イ ド

<使用した分類要素>

キャリア・アンカー(Career Anchor 直訳:キャリアの錨)

提唱者:シャイン(Schein,E.H)

アメリカ MIT(マサチューセッツ工科大学)の経営大学院教授。組織心理学の研究者。

キャリアとは「人の一生を通じての仕事」「生涯を通じての人間の生き方、その表現のしかた」であるとした

<意 味>

長期的な職業生活において、拠り所となるもの

個人のキャリアのあり方を導き方向付ける錨、キャリアの諸決定を組織化し、決定する自己概念

<構成要素>

①才能・能力(can) ②動機・欲求(need・want) ③価値・態度(value)

上記①②③の要素が統合された「自己概念」によって、キャリア・アンカーは組織化される

<個人 vs 組織>

キャリア・アンカーを探ることは、キャリアにおける個人ニーズを明確化し、自分のキャリアの方向性を明らかにすることができる。自分のキャリアや職務に何を求めているかを知る責任があり、キャリア・アンカーが何であるかを知っておくことで、適切な選択を行い、組織と納得いく交渉ができる

	キャリア・アンカー	特 性
① インド	専 門	企画、販売、人事、エンジニアリングなど特定の分野で能力を発揮することに幸せを感じる
② イギリス	経営管理	組織内の機能を相互に結びつけ、対人関係を処理し、集団を統率する能力や権限を行使する能力を発揮し、組織の期待に応えることに幸せを感じる
③ 日 本	安 定	仕事の充実感、雇用保障、年金、退職手当など経済的安定を得ること、一つの組織に勤務し、組織への忠誠や献身などが見られる
④ 中 国	起業家的創造性	新しいものを創りだすこと、障害を乗り越える能力と意気込み、リスクをおそれず何かを達成すること、達成したものが自分の努力によるものだという欲求が原動力
⑤ イタリア	自 律 (自 立)	組織のルールや規則に縛られず、自分のやりかたで仕事を進めていく、組織に属している場合、仕事のペースを自分の裁量で自由に決めることを望む
⑥ スウェーデン	社会への貢献	暮らしやすい社会の実現、他者の救済、教育など価値あることを成し遂げること、転職してでも自分の関心ある分野で仕事をする機会を求める
⑦ フランス	全体性と調和	個人的な欲求、家族の願望、自分の仕事のバランスや調整に力を入れる、自分のライフワークをまとめたいと考えており、それができそうな仕事を考える
⑧ アメリカ	チャレンジ	解決困難に見える問題の解決や手ごわい相手に打ち勝とうとする、知力、人との競争にやりがいを感じる、目新しさ、変化、難しさが目的になる

出典:宮城まり子『21世紀カウンセリング叢書 キャリアカウンセリング』駿河台出版社(2002年4月1日)85～89頁

教 員 用 ガ イ ド

1. ワーク名 「模擬店を出そう①」
2. 教 材 ワークの流れ「使用シート」欄参照
3. 備 品 ストップウォッチ(先生用)、ネームプレート(人数分)
全係名を大きく記載した A4 程度の用紙(係編成時の目印に使用)
4. 指導目標 模擬店を、一定の計画に従い利益を得るための経済活動の場(組織)として捉え、収益性、財務、営業力、開発力、取引先、知名度等の視座を持たせる。一方で、目標に掲げた「みんなが笑顔」になる裏づけとして、組織は営利目的といった物理的利益を得る場だけではなく、関わる者同士が幸せになり、社会に貢献でき得る場であることを理解する。作業単位を個人、ペア、チーム、全体、とダイナミックに展開させ場の力を活用する。
 - ①他者と連携することで、与えられたミッションをこなすための想像力をつける。
どんな仕事も他者との連携無しでは成り立たないこと、様々な役割の中で効果的な連携方法を考える。更に終わった時みんなが笑顔でいられるにはどうしたらよいか、何に留意すべきかをイメージさせる。
 - ②模擬店を 1 組織と仮定し、目標達成のために必要な事柄を分類する。役割・それに合うタイプ・仕事振り等を分類し、様々な課業の存在、適正、連携の必要性を知る。
 - ③チーム作業の前に自分はどうしたいのか、自分の意見は何かを言語化する。どの役割をどんなふうに果したいのか、という自己実現と、それはチームにも潤いを与えることなのか、という社会的役割の視点の両軸で考えるきっかけを与える。
 - ④仕事をする際に他者とどう連携し、関係をどう捉えているかビジュアル化させ、チームでの自分の立ち位置を意識させることで、自身を客観化できるよう促進する。
 - ⑤模範回答、スピードが目的ではなく、むしろシートを埋められなかった体験を味わい、現在の自分を知ることから逃げない勇気を持つ。
- 備 考 係編成時「役割表例」を使用する以外に、あらかじめ構成要員に合わせ、オリジナルを作成するのもよい。その際、VPI[職業興味検査]を参されたい。

6. 授業の展開（90分）

段階・時間	学生の行動および注意点	教員の発問および注意点	形態
1 ウォーミングアップ 15～20分	各自、呼んでもらいたいニックネームを記入したネームプレートを持参する。 普段一緒にいる仲間となるべく離れて着席。グラドルルールを守る。 アイスブレイクで緊張をほぐし、場に馴染む。 他者が自分に対し、さまざまな印象・感じ方を持っていることを知ることで、自分ひとりでは見えなかった自分に気づく。 1)自分とチーム全員のイメージに合う国を選び、理由を記録 2)着席前後左右4人チームになり、相互フィードバックし記録。 3)個々、振り返りシートへ記入。 4)全体シェアリング。2～3名が感想を述べる。	「ネームプレートへ、皆から呼んでもらいたいニックネームを書いて付けてください。」 グラドルルールは繰り返し伝える。 「互いを傷つけない、他人のいいところを積極的に伝える、自分に起こっている気持ちの動きを感じ取ってみる。 そして、積極的に他人の話を聞いて、自分を表現することに挑戦してみましょう。 <アイスブレイク時のアセスメント> 受信/送信の意思疎通が行われているか、学生が如何に参加しているか、初期段階での観察をする。 使用シート:私の国は、国のイメージ図 私の国は、振り返り 手順:「先生用ガイド.私の国は」参照 他人のシートを使用することで、自他フィードバックをしやすくし、関係性を作り入り口を柔軟にさせる。 感覚的・実感的な感性を触発させ楽しませることで、仲間から受け入れられる喜びを与え、場をほぐす。 時間配分に留意する。 導入部分は手短で終わらせ、フィードバックし合う時間に	全体 個人ワーク チームワーク 個人ワーク 全体 全体
2 目的・方法の説明 7分		多くを費やす。大枠を説明し、目標の共有化を図る。 「今までのワークの集大成として、組織の一員になったつもりで役割を果たすことを具現化し、体感したことを基に最終ワークでは各自のプランを立ててみます。」 「体感とはこれから行うワークで、自分の活躍振り、不本意な出来事、認められた喜び等の体験をして、社会に出た時の自分を具体的にイメージすることです。」 「例えば、仲間からたくさんフィードバックをもらい、自分は苦手だと感じていた事柄を、やってみたいと思うかもしれません。そんな気持ちの動きを大事にして、その動きをできるだけ記録していくよう心掛けてください。」 <設定説明> 「皆さんは地域祭りにてチームで模擬店を開き、チョコバナナを販売することとします。」 *販売物は先生の裁量であらかじめ決めておく 目標説明 「目標は赤字を出さず収益を上げ、終えたときみんな笑顔でいられるようにすることです。」 「模擬店を一つの組織と捉え、自分は組織の一員として、どん	

		な役割をどのように果すことが全体の目標達成に繋がるか考えます。」	
3 組織編制① 係への分類 25 分 手順 1 (8 分) 手順 2 (3 分) 手順 3 (12 分) 手順 4 (2 分)	1. 個人作業 「役割表①」を使用して係を分類する。 2. ペア作業 隣同士でシェアリング 3. チーム作業 ①2 のペアを 3 組合わせ、6 人のチームになる。 ②話し合いと発表に必要な役割を決める。 ③2 で話し合った内容を更にシェアリングし、チーム全体の考えをまとめ、チーム用に配られた『役割表』へ、全係名・内容を記入する。 4. 個人作業 振り返り	使用シート: 模擬店①役割表 * チーム用は別に用意 「それでは具体的にワークを行っていきます。質問はどんどんしてください。」 1. 「まず、個人ワークを行います。模擬店を成功させるには、どんなタイプがどの役割を担当するとよいか、これから配る『役割表』に記入しましょう。」 「正解はありませんので自由に書いてください。日頃のバイト先や、実習先の体験を思い起こすのも良いでしょう。7 分程度で仕上げてください。」 2. 「隣同士で『役割表』を見せ合い、なぜ自分はこのように分類したか、3 分程度発表し合ってください。」 3. ①「次にチームを作ります。今の隣同士のペアを 3 組合わせて 6 人チームにします。普段一緒にいる人同士は、なるべく別チームになるようにしてください。」 ②「進行役・タイムキーパー・発表者・書記を決めてください。」 * 決め方のルールは学生の自主性に任せる。 ③「隣同士で発表し合った内容を、チーム全員で共有し合い、チームの考えをまとめます。今度はチーム用に同じ『役割表』を配るので、新たに記入してください。」 4. 「個人ワーク・チームワークそれぞれで行った作業の感想を振り返り、余白へ記録しましょう。」	個人ワーク ペアワーク チームワーク 個人ワーク
4 チーム発表 13 分 手順 1 (11 分) 手順 2 (2 分)	1.3 で決めた各チームの代表者が発表 (一人 1～2 分) 2. 個人作業 振り返り	使用シート: 模擬店①役割表の板書用拡大版/係の目標設定類似するものをカテゴライズしながら板書: あらかじめ用意した分類表の拡大版を使用すると分かりやすい。 1. 珍回答も、例えば「こんな役割があると確かにユニークですね」と受容の姿勢で対応する。 2. 「他チームの発表を聞いて、どう感じましたか。感想を『係の目標設定』シート【気づいたこと等】へ記録しておきましょう。」	全体 個人ワーク
5 係分け 15 分 手順 1～4 (5 分) 手順 5 (2 分)	4. 全体 先生が提示した係以外に、加えたい係は提案し、皆の意見を求める。 5. 個人作業 役割表①下段「希望欄」へ、第 3 希望迄の係名と、選んだ理由を記入する。	使用シート: 役割表例の拡大版/模擬店①役割表 次行程で係ごとのワークを行うため、係編成をする。 1. 「時間の関係で今回は先生が考えた役割表を使用することにします。」 2. ④で板書したシートの隣へ、準備した役割表例 * 拡大版を貼る。 3. 双方の共通点・ユニークなもの等、抜粋して説明する。 4. 係の追加希望があった場合、臨機応変に加え確認する。 「他にも必要な係があれば、この場で皆一緒に考えましょう。」 「皆で考えた結果、○係が加わり全部で○種になりました。」 5. 使用シート: 役割表①(下段) 「今決まった係の中から、各自やってみたい係を『役割表』下段にある希望欄へ第 3 希望まで記入してください。」 6. 係席の準備: 学生が記入している間に、現チーム席を係席に活用するため、係名を書いた紙を机上へ置く。	全体 個人ワーク

手順 7～8 (8 分)	7.全体 机上の係名を目印に希望した係席へ移動。 8.全体(→係) 人気の有無で人数が偏った係は、お互いにどうしたらいいかを考えて移動し合う。	7.「各係の名前を書いた紙を席へ置いたので、各自、就きたい係の席に分かれてください。」 8. 敢えてルールを提示せず、4 人前後の係に編成するよう伝える。收拾がつかない時のみ介入し、学生に了承を得てから調整を図る。 声掛け例:「A 係が 2 人足りず C 係が 3 人多いが、移動してもいい人はいませんか？」 *フリーで係編成し合う場面は葛藤を味わう重要な一つのワークである。自我を出す、逆に抑圧する等、様々な学生の動きを見守り、介入は最小限に留める。 * 人数調整が必要な理由:この後、第 4 章 1 節 2 で係を更に担当へ小分類するため。 *これにより全体⇄個人、部署⇄課の相互作用を通じ、組織での個の在り様を体感させる。	全体 (本節のコア場面)
6 係での個人の 取組み方 7 分 手順 1 (4 分) 手順 2 (3 分)	1.個人作業 参考資料の「役割表例」を開き、内容を参照する。 ①他係名を『係の目標設定』シート「他の係名」へ転記する。 ②同シート「係の目標設定」・「他の係との協力関係」の【個人記入】欄へ、自分の考えを記入する。 2.個人作業 先生が板書した描き方例を参照しながら、関係図を自由に描く。	使用シート: 役割表例/係の目標設定/模擬店①他の役割との関係図 1.前に張り出した役割表例が P60 にあるので、参照して次のワークを行いましょう。 *オリジナル使用時は、あらかじめ人数分準備。 ①「各自、自分以外の係名を、『係の目標設定』シート【他の係名】へ転記してください。」 *先生が作成した役割表を指して転記させる。 ②就いた係でどんなふうに仕事を進めていきたいかを、同シート「係の目標設定」・「他の係との協力関係」のそれぞれ【個人記入】欄へ記入してください。」 2.「指導用描画例」を参照し、図の描き方を一部抜粋して板書する。完成図を示すと学生のインスピレーションを阻害し、枠を作ることもなるため、自分と他者 1 名の関係例程度に留める。 「絵のうまい、下手は関係ありません。自分を二重円、他の係は全て円で表し、いろんな矢印で繋ぎ、自分と他の係との関係を図で表してみよう。」 「絵を眺めながら自分の立ち位置・全体の中で自分の仕事をどう捉えているか確認しましょう。」	個人ワーク
7 振り返り 3 分	振り返り	使用シート: 模擬店①他の役割との関係図 「描いた図を眺めてどう感じたか、更に今日全体の感想を『他の役割との関係図』下段【記述欄】へ記入しましょう。」 次行程を軽く予告して終える。 「次回は係を更に複数の担当に分けます。模擬店を成功させて終わった後、皆笑顔でいられるには、どんなふうにしていくと良いかを、より身近に落とし込んで考えていきます。」	個人ワーク

教 員 用 ガ イ ド
突然の雨… さあ、あなたは思う？
 (ウォーミングアップ)

1.目的

「諦める・無力感・他罰的・孤立する」「なんとなくもやもやが残る」といったマイナス因子は、どこから沸き起こるのかを知る。

達成動機の原因帰属を探ることで、自分の癖(パターン)に目を向ける辛口タイムを設ける。

自分を動機付ける司令塔も自分自身であることに気づくことが、対処法の第一歩であることを知る。

2.手順

所要時間:10～15 分前後

使用シート:突然の雨_振り返り

1)個人ワーク:設問を読み、回答を A/B より選び理由を記入 * あまり考え込まずに選択させる(1 分)

2)ペアワーク:選んだ理由についてシェアリング(2 分)

3)全体: A/B が持つ傾向を手短に解説し、数人に感想を述べてもらう(5～10 分)

4)個人ワーク:振り返りをしてシートへ記入(2 分)

3.備考

「運任せも気まだし、人のせいにするって楽。全て自分のせいじゃ自虐的」という学生に、「確かに楽を選択することは、時には生きていく上で必要な知恵ですね。」「良い、悪いではなく、今の自分は、行動の原因を他者に向ける傾向があるんだ、ということを知覚することが大事ですね。」等、否定・断言せず「傾向」程度に留める。

<使用した分類要素>

ローカス・オブ・コントロール (ローカス:位置・所在)

社会的行動の予測変数として活用。一般的には設問式アセスメントを行い、得点が高い程、自分の行動の原因を他者や外的要因・環境に向け、学習性無力感(注)を持つ傾向にあるとされている。

(注) 自分が努力しても状況は変わらないということを学習し、行動することを諦めてしまうこと

<A/B の傾向> 成功・失敗の帰属要因

安定性 次元		ある出来事に対し どう考えるか (行動を統制する強化の源泉)	設問「雨が降ってきた」時 にどう考えるか…？		傾 向
安定	不安定		信 念		
A	能力	努力	自己の内部にある	<内的統制型> 自己の行動結果、能力、責任に 出来事の原因があるという信念	情緒安定 欲求不満への耐性力が高い 自尊心が高く、知的、合理的 頼りになり他人に好感を持たれる
	課題の難しさ	運	外部からの強化 を必要とする	<外的統制型> 運や偶然に支配(コントロール) されているという信念	不安感が強い 欲求不満になると他者を攻撃 大きい仕事に対し他者依存傾向が強い 衝動的・なりゆきに任せる行動

教員員用ガイド

1. ワーク名 「模擬店を出そう②」
2. 教 材 ワークの流れ「使用シート」欄参照
3. 備 品 ストップウォッチ(先生用)、ネームプレート(人数分)
4. 指導目標 ある一定の秩序や社会的な目標を持ち、意図的に変成された集団構成員による相互依存的な関係の中では、反発・矛盾・理不尽が生まれる反面、配慮・共感・思い合うことで関係性が豊かになる。集団(組織)が与える厳しさと、生かされている心地よさの両面を体感する。
コンセンサスを得、チーム戦力になる体験を通して、他者の立場を配慮しながら自己を表現し、他者の表現も受け入れ、思い通りにならない中から立て直す力や自尊心を育てる。そこから次行程で定める目標・計画を具体的に立てられる想像力を養う。
 - ①係ごとに行った一連の作業を、更に担当へ小分類は掘り下げること、組織の一部(小さな存在)でも、社会貢献や自己実現の可能性を体感させる。
 - ②担当で掘り下げた成果物を、再度係へ吸い上げまとめることで、個人・担当・係、それぞれの立場があることを知る。
 - ③全体を通し、チームの一員として活動できる喜びと、思い通りにならない葛藤の両面を振り返る。どの要因で最初の決定を変えることができたか、或いは変えなかったか、を内省することを大切にする。
 - ④自分の受け取り方の癖(パターン)と同様に、様々な見方・考え方があることに気づくことに価値を置き、わからなさ、できなさ、停滞、失敗はとがめない。
そのままの自分を受け入れられるよう支え見守り、思うようにならない時こそ、自分が選んだ行動を自身でモニタリングする力を促進する。
 - ⑤「人間は他人によって形造られると同時に、他人を形造っていく。コノプカ(Konopka,G)」という上昇志向の相互作用を促進する。他者の動きを鏡にしながら、自分はどこに価値を置いてワークを進めたのか振り返る時間を提供する。そこから自分なりの適正を見出していく。

6. 授業の展開 (90 分)

段階・時間	学生の行動および注意点	教員の発問および注意点	形態
1 ウォーミングアップ 10～15 分	各自ネームプレートを持参する。 係ごとに着席する。 グランドルールを守る。 アイスブレイクで緊張をほぐし、場に馴染む。 1)設問を読み、回答を A/B より選び理由を記入。 2)選んだ理由について隣同士でシェアリング。 3)先生の解説を聞いた後、数人が感想を述べる。 4)個々、振り返りをしてシートへ記入。	「皆さん、前回同様ネームプレートを付けてください。前回の係単位で着席してください。」 グランドルールは繰り返し伝える。 「互いを傷つけない、他人のいいところを積極的に伝える、自分に起こっている気持ちの動きを感じ取ってみる。 そして、積極的に他人の話を聞いて、自分を表現することに挑戦してみましょう。 ＜アイスブレイク時のアセスメント＞ 受信/送信の意思疎通が行われているか、学生が如何に参加しているか、初期段階での観察をする。 使用シート: 突然の雨 振り返り 手順: 「突然の雨 先生用」参照 「諦める・無力感・他罰的・孤立する」「なんとなくもやもやが残る。」といったマイナス因子は、どこから沸き起こるのかを考えさせ、達成動機の原因帰属を探ることで自分の癖(パターン)に目を向ける辛口タイムを設ける。 自分を動機付ける司令塔も自分自身であることに気づくことが、対処法の第一歩であることを断定せずに促す。 使用シート: 係の目標設定/模擬店①他の役割との関係図 1.前回の振り返り ①「みなさん、前回行った一連作業の経緯を、振り返ってみましょう。まず、模擬店を開く意味・目標を確認しました。」	個人ワーク ペアワーク 全体 個人ワーク 全体
2 前回の振り返り 係の取組み方の決定と発表 10 分 手順 1 (2 分) 手順 2 (5 分) 手順 3 (3 分)	2.係作業: 係ごとの仕事の取組み方を決定。 ①係の中で話し合い、発表するための役割分担をする。 ②各自が作成した目標設定・他の係との協力関係・関係図を発表仕合う。 ③係の考えを全員のコンセンサスを得て決定し、【話し合いの結果】欄へ記入。 3.係の代表者数名より発表をする。	②「2 番目に模擬店を成功させるために、どんな係が必要で、どんなタイプがその役割を果すのがよいか分類しました。」 ③「3 番目に自分がやりたい係を選び、係ごとのチームを作りました。」 ④「4 番目にその係での自分の目標などを記入してもらいました。その結果が皆の手元にあるシートです。」 2.係の目標設定、他の係とどんなふうに協力するかを決める ①「まず進行役・発表者・書記・タイムキーパー役を決めてください。」 * ルールは設定せず見守る。 ②「次に係ごとの仕事の取組み方を決めるため、前回各自で作成した目標設定・他の係との協力関係・関係図等を発表し合いましょう。」 ③「係の考えをまとめ係の目標設定シート【話し合いの結果】欄へ、決まった内容を記入し発表の準備をしてください。」 3.係の代表者 2～3 名に発表してもらう。 「係で決めた発表者のうち数名に、一人 1 分で発表してもらいます。是非自分が発表したいという人は手を挙げてください。」	係ワーク 全体

3 組織編制 ② 担当への 小分類 12 分 手順 1 (5 分) 手順 2 (7 分)	1.個人作業 「模擬店②役割表」を使用して、係を担当別に分類する。 2.係作業 ①話し合いと発表に必要な役割を決める。役割に就いたことのない学生を優先する。 ②各自分類した内容をシェアリングし、係全体の考えをまとめ、係用「模擬店②役割表」へ全担当名・内容を記入する。	* 手順は前コマ 3 を参照 * 担当名は先生用ガイド「組織図」を参照 使用シート: 模擬店②役割表 * 係用は別に用意 1.前回行った係の分類を深掘する。組織で行われる部署から課への細分化と同様に、より絞った役割を的確に果たすため担当分類し、自分がどの役割をどうこなすか考えさせる。 「今日はそれぞれの係を更に担当別に分類します。一般的な組織が部署の下に、課、係等へ枝分かれしていくように、自分の係の役割を更に細分化させ、考えられる担当を幾つでも挙げてみてください。」 「要領は前回と同じです。最初に各自、係を複数の担当に分類した後、係でシェアリングします。では役割表②を使用して、各自 5 分程度で作成してください。」 2.①「次に各係でどんな担当が必要かを話し合って決めます。まず、進行役・タイムキーパー役・発表者・書記を決めてください。なるべく前回やっていない人が担当するよう話し合ってみましょう。」 ②「各自が作成したシートを係全員で共有し合い、係の考えをまとめます。同じ『役割表②』を配るので、新たにそのシートへ記入してください。」 * 建設的な話し合いが行われているか各チームを輪回する。	個人ワーク 係ワーク
4 1.担当分け 2.担当の 取組み方 の決定 28 分 手順 1 (3 分) 手順 2 (8 分) 手順 3 (6 分) 手順 4 (5 分) 手順 5 (6 分)	1.個人作業 ①他担当名を「担当の目標設定」シート【他の担当名】へ転記する。 ②模擬店②役割表下段「希望欄」へ、第3希望迄の担当名と、選んだ理由を記入する。 2.係作業 係内の担当決めるを行う。 3.個人作業 ①担当に就いてそんな気持ちか等を「個人目標シートへ」記入。 4.個人作業 他の役割との関係性②を用いて、他の担当との関係性を描く。 5.担当作業 担当ごとに席を移動する。	* 手順は前コマ 6 を参照 使用シート: 模擬店②役割表/個人目標/担当の目標設定/模擬店②他の役割との関係図 1.①「各自チームで決めた全担当名を『担当の目標設定』シート【他の担当名】へ転記してください。」 ②「『模擬店②役割表』下段の希望欄へやってみたい担当を第3希望までと、選んだ理由を記入してください。」 2.「次に係ごと話し合い担当決めをして、担当ごとに分かれてください。どうやって決めるかは指示しませんので、7分程度で話し合ってください。」 * 担当人数が1名になっても構わない。その場合、担当ごとの作業は個人で行う。 3.担当に就いたときの気持ち分析と個人としての目標設定 ①もう一度、個人作業を行います。担当に就いて今どんな気持ちか、またどんなふうに仕事を進めていきたいか等を「個人目標シート」へ記入してください。 4.他の役割との関係図を用いて、連携・関係性を考えさせる 「係の関係図を描いた要領で、自分を二重円、他の担当は全て円で表し、いろんな矢印で繋いで自分と他の担当との関係を図で表してみましょう。 「うまく描こうとしなくて良いです。全体の中で自分自身をどう捉えているか、見つめてみましょう。」 5. 担当の目標設定、他の担当とどんなふうに協力するか決定するため、担当ごとに着席させる。	個人ワーク 係ワーク (本節のコア場面) 個人ワーク 個人ワーク 担当ワーク

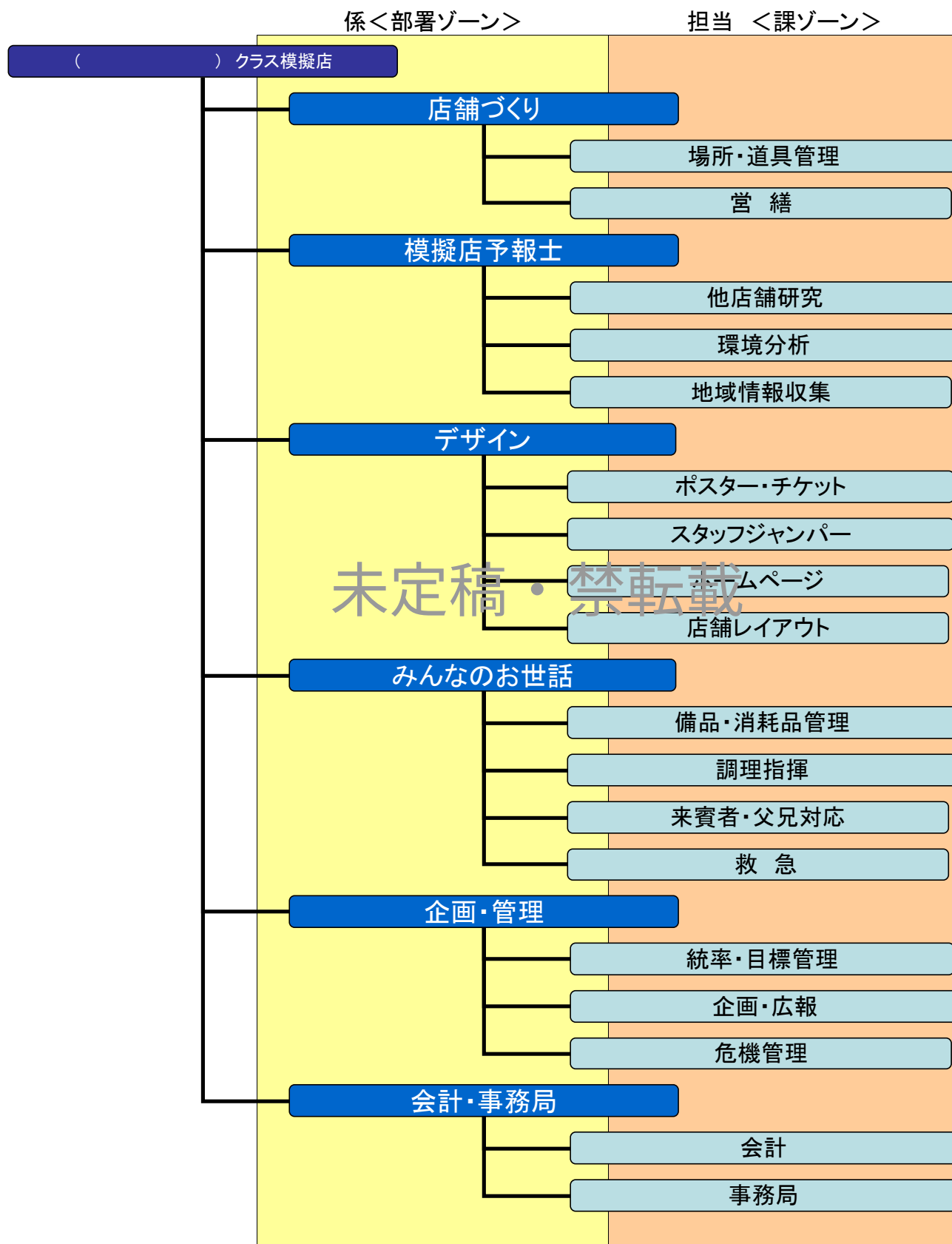
	①担当で話し合い、発表するための役割分担をする。 ②各自が作成した目標設定・他の係との協力関係・関係図を発表仕合う。 ③担当の考えを全員のコンセンサスを得て決定し、同シート【話し合いの結果】欄へ記入。	①「まず進行役・書記・タイムキーパー役を決めてください。」 *まだ役割を担っていない学生を優先するよう促す。 ②「次に担当ごとの仕事の取組み方を決めるため、各自で作成した目標設定・他の担当との協力関係・関係図等を発表しましょう。」 *担当人員が一人で個人作業になる学生には、先生が輪回し、少しでも他者とサゼッションする場面を作る。 ③「担当の考えをまとめ同シート【話し合いの結果】欄へ決まった内容を記入してください。」	
5 係全体の「方策・決意」の決定 7分	係作業 係ごとに戻って着席する。 2.話し合いで必要な役割を決める。 3.「係の方策・決定」シートを完成させ、発表の準備をする。	使用シート: 係の方策・決意(係の目標設定・担当の目標設定) 1.「もう1度係ごとに戻って着席してください」 2.「係内で進行役・発表者・書記・タイムキーパー等の役割を決め、担当ごとに話し合った内容をシェアリングしてください。」*まだ役割を担っていない学生を優先するよう促す。 3.「前回係で作成した『係の目標設定』シート、今回担当で作成した『担当の目標設定』シート等も参照しながら、係全体で【成功へ導くための方策・決意】を7分程度で決めてください。この後、各係の代表者に発表してもらいます。」	係ワーク
6 係ごとの発表 6分	全体 各係の代表者が、方策・決意等を発表する。	使用シート: 係の方策・決意 「では係ごと話し合って決めたことを、代表者に発表してもらいます。一人1分程度をお願いします。」 *「是非、自分が最初に発表したい、という人はいませんか？」と意欲的な学生から発表をしてもらってもよい。 *各係のキーワードを板書していくとよい。	全体
7 振り返り (12分)	個人作業 十分な振り返り、分析を行う。	使用シート: 振り返り *チームの成熟度に合わせ、先生の裁量により2分くらいでまとめのコメントをする。 板書例 『人間は他人によって形造られると同時に、他人を形造っていく』(コノブカ) 声掛け例 「みなさん、ワークをやり終えて、今どんな気持ちですか。発表を聞くと『模擬店を開こう』を通して個人差はあれ、コノブカのこの言葉を体験できたのではないのでしょうか。」 「主な仕事以外にも、周辺作業がたくさんあること、1つひとつの仕事は繋がっていること、自分の思い通りの配置にならなくても、楽しみを発見できるチャンスがあること等に出会い、笑顔で終えられたでしょうか？」 「ワークの途中で自己決定したことを、何かの要因で変えた場面もあったと思います。それは何故でしょう。そこでどんなことが起こっていましたか？全ての行動には意味があります。その意味とプロセスを考えていくことが、今の自分を形成し、未来を選択する要になっていくことでしょう。」 「仲間に受け入れられ、チームの一員として能力発揮できた	個人ワーク

		人もいれば、違う自分や他の仲間の別の一面が見えて、もやもやしている人もいるかもしれません。人と比べる必要はありません。短所も個を成り立たせる必要な要素なんだと、いつか受け留めることが出来るかもしれませんね。」 「2 回に渡って行ったこのワークでの体験や、自分や仲間の言動を一人静かに整理し、振り返りシートへ 10 分程度で記入してください。」 「なお数日経っても、何か心に残るものがあり、調子がすぐれない、誰かに話しておきたい等あれば、いつでも声を掛けてください。一緒に考えていきましょう。」 「次回のワークから、このワークの体験を踏まえて、今後のプランを実際に立てていきます。自分はこうなりたい、こんなことをしていきたい、というイメージを具体的に膨らませておいてください。」	
--	--	--	--

未定稿・禁転載

思いつく係名を自由に記入 幾つでも可 		どんな 仕事内容？	どんなことができる人 が必要？	どんなタイプ (性格)が合っている？	やりがい・楽しさ・難し さ等仕事をしていて感 じることは？
係 / 担 当 名	店舗づくり	店舗の設置場所の調整 交渉 模擬店舗設置 設備・機械・仕掛けなどを 備えつける 道具調達・管理 当日のメンテナンス	体力 工具・機械操作ができる 立体的に考えられる 全体を見通しながら遂行 できる 細やかな目線	ガテン系 力強いがやさしい 人と接するより、物作り が好き	屋台を完成させ、来客 やスタッフに喜ばれた とき 誰も気づかないところ に手を加え、功を奏し た時
	模擬店予報士	他店舗研究:動向、日 程、内容等の比較調査 過去の実績研究:販売 物、設置場所、天候等 の環境と動員数の因果 関係 保健所・町内等の情報 収集・連絡調整	分析力 論理的に物事を考えら れる 感情よりルールに則っ て善悪を判断できる	論理的 理性的 コツコツ型 地味 ルールをきちんと守る 完璧主義 集団行動より一人が好 き	下調べがしっかりして いたお陰で、アクシデ ントが無く物事が進ん だ時 予測と結果が近似して いた時
	デザイン	ポスター・スタッフジャ ンパー・ちらし・チケッ ト・HPのデザイン 店舗レイアウト	創造力 感性を表現できる 流行へのアンテナを張り、 収集できる	個性的 遊び心がある 好奇心旺盛 オシャレ 派手 直感で行動する 型破り 感受性が強い 人と同じにはイヤ	自分達がデザインした イメージキャラクターが 好評だった時 HPデザインが受けて ヒット数が急上昇し、集 客率に繋がった時
	みんなのお世話	器具(鉄板・コンロ等) レンタル手配と、使用 法のデモンストレーショ ン 当日:調理 来賓者への連絡調整と お茶出し 救急隊 父兄対応(問合せ・ク レーム)	教えるのが上手 奉仕精神旺盛 医療・販売も好き 人の気持ちがわかる	面倒見がいい 人と接するのが好き やさしい 責任感が強い 人に教えたり、お世話 するのが好き	困った人を助けて、役 に立てた時 難解な質問やクレーム にきちんと応えられた 時
	企画・管理	店長として目標収益の 決定・周知 妥当な業者選択と戦略 的な値踏み交渉 各係へ役割調整をし、 意見を吸い上げる 宣伝方法や呼び込み 方法の企画 当日の指揮監督:集客 率を上げ客の流れを作 る 危機管理:トラブルは 早急に先生と連携	周囲を巻き込む力 人を動かす力 物事を進めていく実行 力 イニシアティブ 統率力 発想力 牽引力	リーダー的でたくましい 物怖じしない 人の上に立つことが好 き 社交的 新しもの好き	指示した人員配置がう まく回り、皆が働きやす く楽しそうな姿を見た時 他店に無い企画を立 て、売り上げが予想を 上まった時
	会計・事務局	模擬店実行委員会での 記録と議事録作成配 布 予算取りと会計報告 経費の出納管理 当日:銀行での事前両 替・レジ業務・小口現金 管理 納品業者への対応(在 庫管理と発注・商品受 取と出金等)	細かい計算が得意 決められた方式通りに 遂行できる	まじめ 几帳面 合理的 打算的 規則的なことが好き 粘り強い リーダーよりも、後ろか ら着いてくるのが好き	計算がきちんと合った 時 相手のニーズに即し て、迅速に正確な数字 を伝えられた時

模擬店の役割を組織図で表した場合



* VPI(職業興味検査: J.L..Holland) ー 分類表記入例で使用した要素

興味領域尺度の名称	R尺度	I尺度	A尺度	S尺度	E尺度	C尺度
	現実的興味領域	研究的興味領域	芸術的興味領域	社会的興味領域	企業的興味領域	慣習的興味領域
	Realistic	Investigative	Artistic	Social	Enterprising	Conventional
尺度の内容 (好み、関心の強さ)	機械や物を対象とする具 体的で実際のな仕事や 活動に対する好みや関 心の強さを示す	研究や調査などのような 研究的、探索的な仕事 や活動に対する好みや 関心の強さを示す	音楽、美術、文学など芸 術的領域での仕事や活 動に対する好みや関心 の強さを示す	人に接したり、奉仕したり する仕事や活動に対す る好みや関心の強さを示 す	企画や組織運営、経営 などのような仕事や活動 に対する好みや関心の 強さを示す	定まった方式や規則に 従って行動するような仕 事や活動に対する好み や関心を示す
興味領域と関連のある 職業領域	動植物管理	動物、植物、生理学関係	美術、彫刻、工芸関係	社会奉仕	経営管理関係	経理事務関係
	工学関係	物理科学関係	舞踊関係	医療保健関係	広報、宣伝関係	警備、巡視
	熟練技能	社会調査研究関係	文芸関係	各種の対個人サービス	営業関係	一般事務
	機械管理	生産工学関係	音楽関係	学校教育 社会教育関係	管理的事務関係	文書整理、保管
	生産技術関係	数理、統計学関係	演劇、演出関係	販売関係	財務関係	法務関係
	手工芸技能	医学関係	デザイン、イラスト関係		報道関係	編集、校正関係
	機械、装置運転	情報処理関係				
職業例	電気技師	植物学者	作曲家	カウンセラー	広報課長	会計監査員
	航空機整備員	地質学者	劇作家	非行少年補導員	会社社長	税理士
	大工	化学者	イラストレーター	精神科ケースワーカー	テレビ・プロデューサー	公認会計士
	建築設計技師	科学評論家	フリーライター	福祉事務所所長	レストラン支配人	プログラマー
	植木職	気象学者	オーケストラ指揮者	社会科教師	政治家	公務員

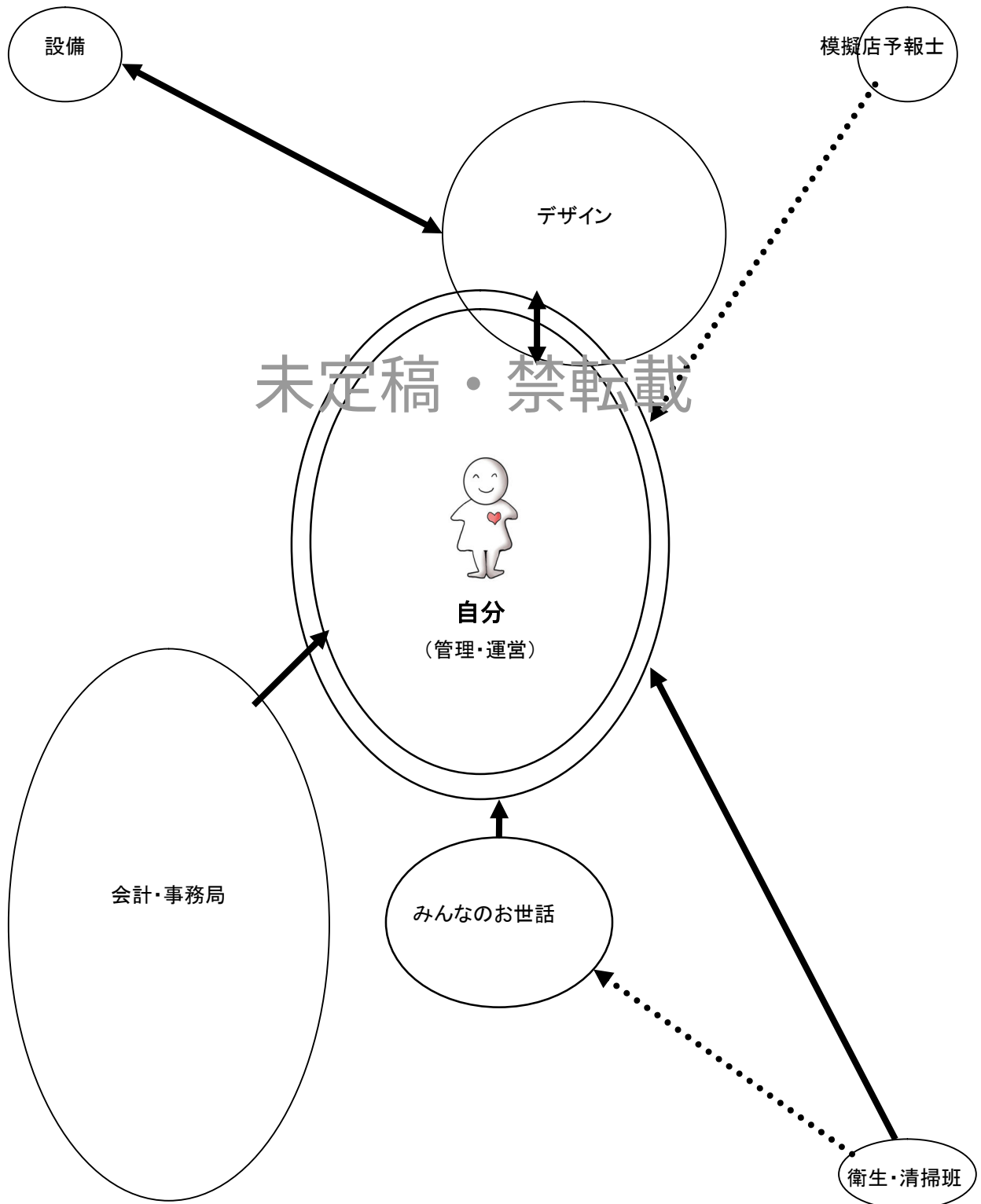
【参考】原著者: J. L. HOLLAND、日本版著者: 独立行政法人労働政策研究・研修機構『V P I 職業興味検査[第3版]手引』を参考に作成しました。
(平成14年4月、発行所: 株式会社日本文化科学社、発売所: 社団法人雇用問題研究会)

* 例の提示が多過ぎると枠になるため最小限に留め、学生の自由な発想を見守る。

指導用描画例 1

＜本例の特色＞

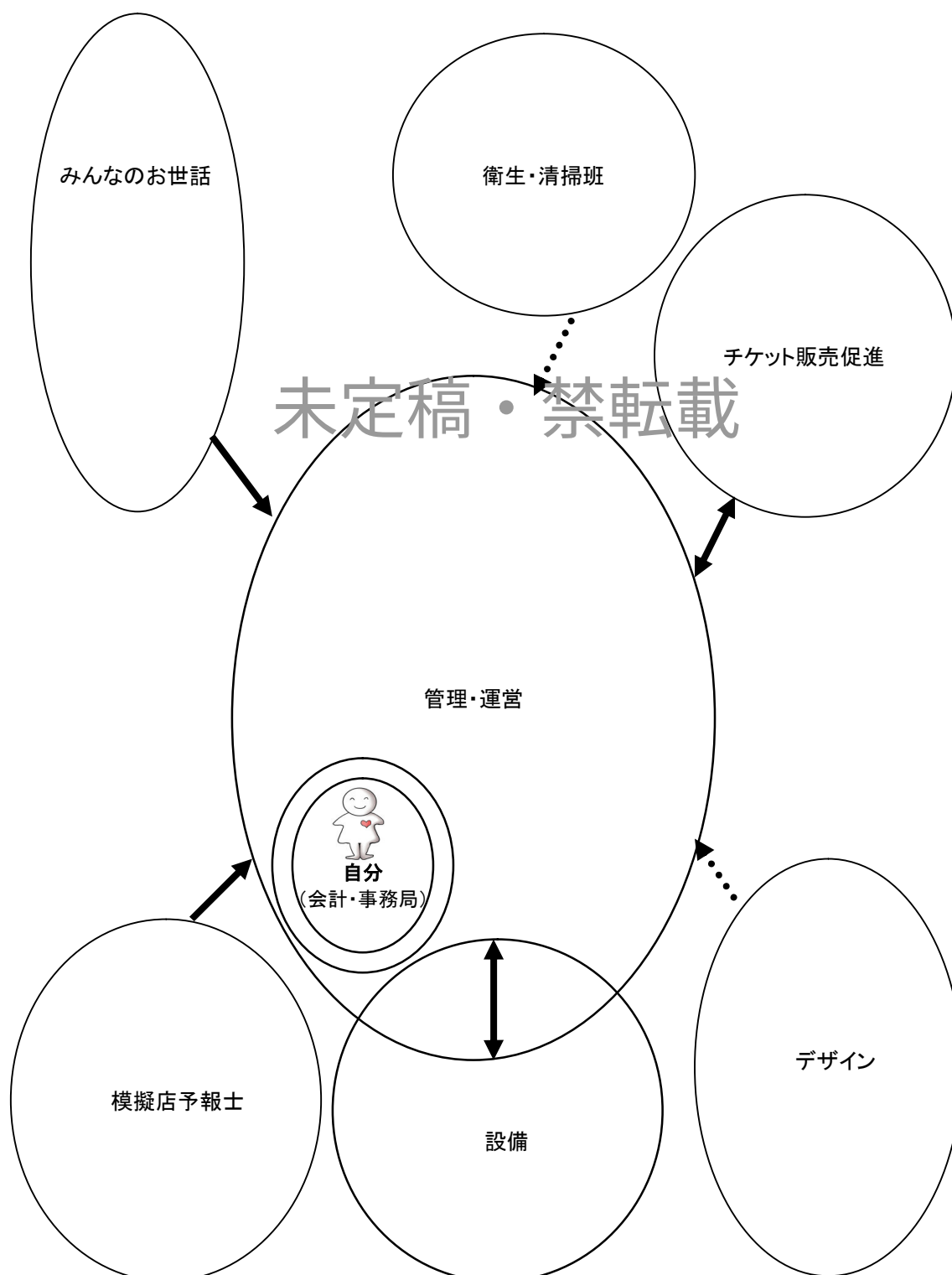
1. 自分をセンターへ置き、且つ1番大きく描いている。
2. 周囲から向けられた矢印は多いが、自分から向ける矢印(働き掛ける姿勢)が見られない。
3. 近接・遠隔の格差が激しい。



学生用描画例 2

<本例の特色>

- 1.自分を1番小さく描いている。
- 2.自分が「管理・運営」係に取り込まれ、自分と他者を繋ぐ矢印が無い。
- 3.「管理・運営」係をセンター且つ1番大きく描き、周囲が一斉にセンターへ矢印を向けている。



*** 最初に組織における先生自身と他者との関係性を描き、立ち位置を確認してみましょう。**

①関係性の質(強弱・遠近・良好・葛藤等)を矢印で表す

→ ← : 片方の関係

⇄ : 相互関係

… : 疎遠な関係

②円の大きさで、自分の仕事との影響度を表す

大 : 影響が大きい

小 : 影響が小さい



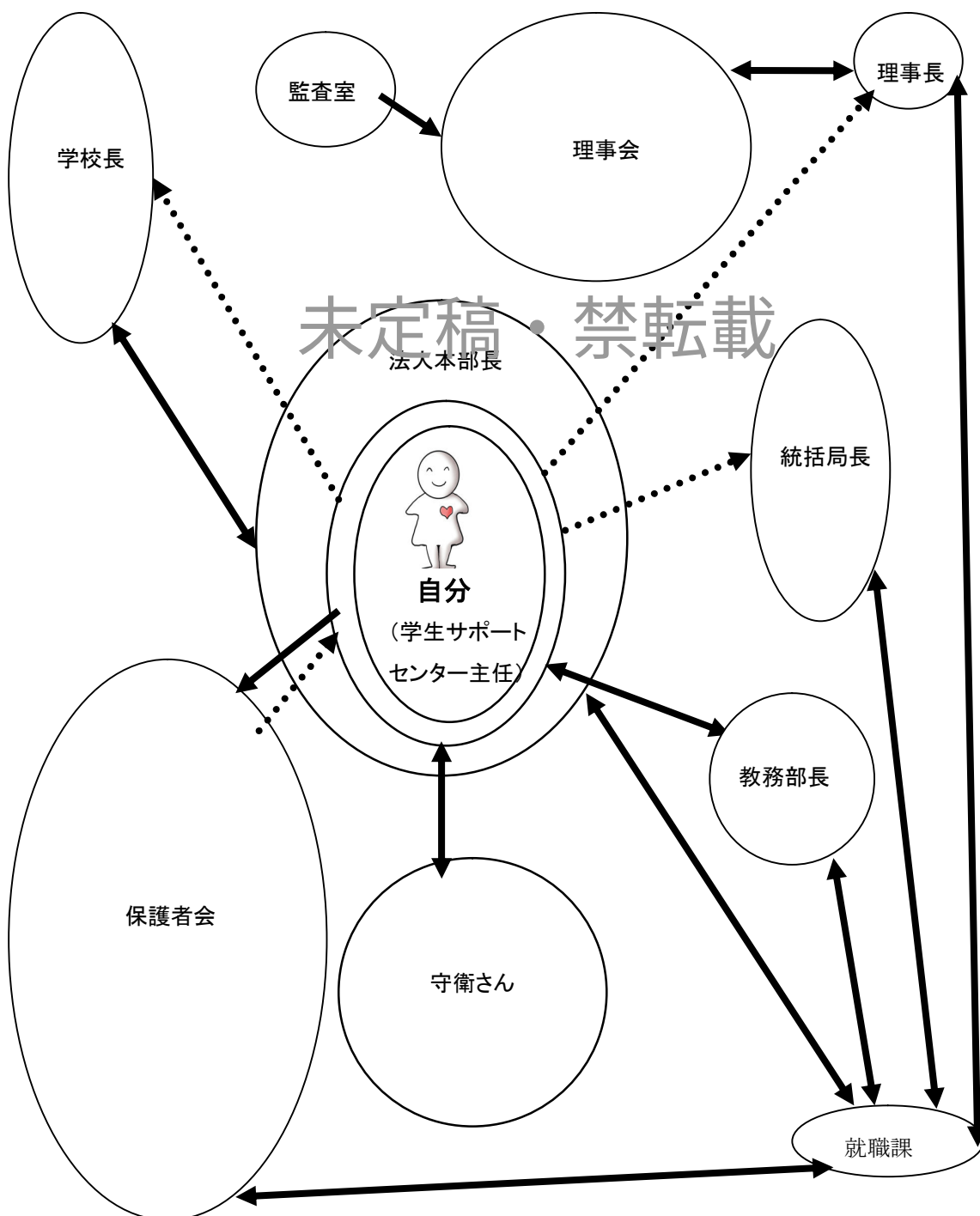
<本例の特徴>

自分が法人本部長と一体化

保護者の存在大、且つ双方の矢印が相違

理事長・学校長等と疎遠、且つ一方通行

自分と就職課が疎遠、一方で就職課へ矢印が集中





公私共に充実しているであろう10年後(30歳前後)に設定。
第2段として同じシートで「3年後」を行うと、プランから実行へのイメージがよりくっきりしてくる。

どんな仕事をしている？

社会福祉士として地域で困っている人と一緒に問題を解決したり、ボランティアのコーディネートをしている。

何に夢中になっている？

〇〇市のボランティア活動者数を現在の2倍にさせるため
学校や企業を訪問して夢中で広報活動をしている。
〇〇大会優勝目指し、仕事の無い日はフットサルの練習に夢中になっている。

どんな人になっている？

正義の味方
かゆいところに手が届く、いい男
自転車に乗った水戸黄門

どんなことに幸せを感じている？

「こんなふうになりたい」と利用者が言ったことを、「こんなこと出来るわけがない！」と居座りが反対しても、利用者と一緒に方法を探し出して、本当に利用者自身が出来るようになった時。

どんな毎日を送っている？

早朝ランニング後、自転車で出勤。僕は地域の人気者で、依頼先をあちこち自転車で走り回っている。週末は彼女とサイクリングに出掛け、同じ景色をきれいだと感じ、笑い合っている。

10年後の自分にメッセージを送ろう。文章や絵で自由に表現しよう。



「人間には描いたことを現実にしてしまう力がある」といわれています。表したものをしみじみと味わい、いつも見える所に貼っておくのもよいでしょう。



つきたい職業

社会福祉協議会の専門員

調査すべきこと

- ①仕事内容・ミッション
- ②社協が求めている人物像
- ③対偶や運営状況
- ④資格要件

理由

- ①やりたいことができる
- ②地域の人の役に立てる
- ③給料や運営が安定していそう

特に重視した要素

社会福祉士の資格が活かせる

実現に必要な資格や条件

- ①社会福祉士の国家資格
- ②社会福祉主事任用資格
- ③子どもから高齢者まで、様々な人と意思疎通できるコミュニケーション力

今から取組むこと

- ①資格取得の勉強

- ②専門員の勉強

- ③必要なことをきちんと伝え、相手の気持ちもきちんと理解、共感できるようになる

方法・手段

- ①授業をしっかり聞く
- ②自習を1日3時間以上、毎日続ける

- ①社教でボランティアをする
- ②論文の書き方を習得する
- ③専門書をたくさん読む

- ①家族とたくさん会話する
- ②子どもや老人に率先して話し掛ける

計画

今～半年後

- ①1授業に1回以上質問している
- ②毎日2時間予習復習問題集を1冊終えている

- ①配食ボランティアをしている
- ②400字の論文を1週間に1つ仕上げている

- ①妹と毎晩会話している
- ②祖母に毎日話かけている

半年～1年後

- ①板書ノートが5冊貯まった
- ②問題集を半分終えている

- ①配食ボランティアを続けている
- ②800字の論文を1週間に1つ仕上げている

- ①妹の相談にのっている
- ②祖母の話をもっと最後まで聞いている

1年～1.5年後

- ①欠席した友達に授業内容を教えている
- ②問題集を全部終えている

- ①通院付添いボランティアをしている
- ②1200字の論文を1週間に1つ仕上げている
- ③1ヶ月に3冊読書している

- ①妹に自分の相談をしている
- ②祖母に今日あったことを話している

先生に
相談した
こと、
課題

自習を計画的に継続する
方法がわからない
(いつも3日坊主)

- ①専門員の勉強方法が
妥当か不安だ
- ②論文の教材や読書本
の選び方がわからない

- ①妹とは会話できるが、
親とうまく話せない
- ②身近に子どもがいない



先生
コメント

未定稿・禁転載

参考図書一覧（順不同）

- NPO法人 日本交流分析協会『交流分析士 2 級テキスト』
- 宮城まり子『21 世紀カウンセリング叢書 キャリアカウンセリング』駿河台出版社
- 社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 2 心理学理論と心理的支援－心理学』中央法規出版
- 梅田幸子『あなたの天職がわかる 最強の自己分析』(株)中経出版
- 星野欣生『職場の人間関係づくりトレーニング』金子書房
- 原著者:J. L. HOLLAND、日本版著者:独立行政法人労働政策研究・研修機構『V P I 職業興味検査[第 3 版]手引』発行所:株式会社日本文化科学社、発売所:社団法人雇用問題研究会

未定稿・禁転載

文部科学省

平成 21 年度教育研修活動補助事業

「学生用キャリア教育教材の開発に関する調査研究」報告書

平成 22 年 3 月

発行 財団法人専修学校教育振興会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

(私学会館別館)

電話 03(3230)4814